

科目名	VT (1)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	橋元 美沙
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ゴスペルグループSOULMATICSのメンバーとして多くのアーティスト・ミュージシャンと共演し、音楽活動を行う。						
授業の学習 内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの基礎と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		講義・演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		講義・演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		講義・演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		講義・演習	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い動画チェックする
6		講義・演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		講義・演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		講義・演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のC までを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のC までを歌い動画チェックする
9		講義・演習	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
10		講義・演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
11		講義・演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
12		講義・演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
13		講義・演習	試験と復習	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	VT (2)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	橋元 美沙
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ゴスペルグループSOULMATICSのメンバーとして多くのアーティスト・ミュージシャンと共演し、音楽活動を行う。						
授業の学習 内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの基礎と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	呼吸・姿勢・発声の再確認	呼吸・姿勢・発声を動画チェックする
2		講義・演習	共鳴・声の響きにフォーカスしたトレーニング	共鳴・声の響きを動画チェックする
3		講義・演習	音域拡大エクササイズ	高音域に挑戦する
4		講義・演習	発音・滑舌トレーニング	トレーニングを動画チェックする
5		講義・演習	速いフレーズの歌唱練習	速いフレーズの歌唱を動画チェックする
6		講義・演習	ダイナミクスのある歌唱練習	ダイナミクスのある歌唱を動画チェックする
7		講義・演習	テンポ感のある歌唱練習	テンポ感のある歌唱を動画チェックする
8		講義・演習	感情表現のトレーニング	感情表現を動画チェックする
9		講義・演習	呼吸のコントロールとフレージング	呼吸のコントロールとフレージングを動画 チェックする
10		講義・演習	歌詞を活かした表現	歌詞を活かした表現を動画チェックする
11		講義・演習	ハーモニーの聴き取りと合わせ方	ハーモニーの聴き取りと合わせ方を動画 チェックする
12		講義・演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
13		講義・演習	試験と復習	これまでの動画を確認し、成果をレポートにま とめる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	CPM Ensemble Style&Analysis(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	クリス ジャーガン セン
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	世界三大ギタリストの一人であるJEFF BECKのトリビュートアルバムへの参加など、数多くの世界的プレイヤーとのセッション、レコーディング等でギタリストとして活躍、国内ではシンガーソングライター「miwa」のバンドに参加。						
授業の学習 内容	Contemporary Popular Music Ensembleのスタイル&アナライズレッスン。8週間ごとにジャンルを変えて行うアンサンブルに向けたそのジャンルのスタイルを学び、課題曲のアナライズを行います。各ジャンルに特化した講師による指導が行われ、8週目は発表会形式のアウトプットを実施することで本番経験を踏んでいく。ジャンル別の奏法を学びながら、バンドで演奏することの楽しさを知り、リズムの大切さ、グルーヴ感、音量調整、サウンド作り、バンドコミュニケーション、パフォーマンスを養っていきます。さらには、レパートリーを持つことで、将来現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を理解する場とします。						
到達目標	BLUES、SOUL、ROCK等の楽曲をアンサンブルを通して表現できるようになる。また、リズム感、グルーヴ感、パフォーマンス力を向上し、バンドとして一体感を持って表現するスキルを身につける。さらには、主体性を持ってリハーサルに取り組み、メンバー同士でコミュニケーションを取りながら楽曲全体のクオリティを向上させる意識と行動力を持つことを目標とします。						
評価方法と基準	初回授業から中間発表までの個々の成長度を以下の項目を基準にして採点を行う。 ①出席 50点 ②ミュージシャンスキル 10点 ③パフォーマンス 10点 ④コミュニケーション 10点 ⑤準備 10点 ⑥サウンド 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Bluesのアンサンブル第1週目。12小節ブルースソング2曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
2		講義・演習	Bluesのアンサンブル第2週目。12小節ブルースソング2曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
3		講義・演習	Bluesのアンサンブル第3週目。8小節ブルースソング2曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
4		講義・演習	Bluesのアンサンブル第4週目。マイナーブルース2曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
5		講義・演習	Bluesのアンサンブル第5週目。スローブルース2曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と発表会担当曲の練習
6		講義・演習	Bluesのアンサンブルの発表会を行う。	発表会での演奏について検証し、問題点克服に向けて練習
7		講義・演習	Soulのアンサンブル第1週目。簡単なSoulナンバーStand By Meのスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
8		講義・演習	Soulのアンサンブル第2週目。SoulナンバーUnit2課題曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
9		講義・演習	Soulのアンサンブル第3週目。SoulナンバーUnit3課題曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
10		講義・演習	Soulのアンサンブル第4週目。SoulナンバーUnit4課題曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
11		講義・演習	Soulのアンサンブル第5週目。SoulナンバーUnit5のスタイル&アナライズ。発表会担当曲決め。	授業で行った楽曲の復習と発表会担当曲の練習
12		講義・演習	Soulのアンサンブルの発表会を行う。	発表会での演奏について検証し、問題点克服に向けて練習
13		講義・演習	次回Rockアンサンブルに向けた課題曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			課題曲の音源、スコアを確認して、授業前に個人練習しておく。各ジャンルの有名アーティストや有名曲を視聴し、分析する。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	CPM Ensemble Style&Analysis (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	クリス ジャーガン セン
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	世界三大ギタリストの一人であるJEFF BECKのトリビュートアルバムへの参加など、数多くの世界的プレイヤーとのセッション、レコーディング等でギタリストとして活躍、国内ではシンガーソングライター「miwa」のバンドに参加。						
授業の学習 内容	Contemporary Popular Music Ensembleのスタイル&アナライズレッスン。8週間ごとにジャンルを変えて行うアンサンブルに向けたそのジャンルのスタイルを学び、課題曲のアナライズを行います。各ジャンルに特化した講師による指導が行われ、8週目は発表会形式のアウトプットを実施することで本番経験を踏んでいく。ジャンル別の奏法を学びながら、バンドで演奏することの楽しさを知り、リズムの大切さ、グルーヴ感、音量調整、サウンド作り、バンドコミュニケーション、パフォーマンスを養ってきます。さらには、レパートリーを持つことで、将来現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を理解する場とします。						
到達目標	BLUES、SOUL、ROCK等の楽曲をアンサンブルを通して表現できるようになる。また、リズム感、グルーヴ感、パフォーマンス力を向上し、バンドとして一体感を持って表現するスキルを身につける。さらには、主体性を持ってリハーサルに取り組み、メンバー同士でコミュニケーションを取りながら楽曲全体のクオリティを向上させる意識と行動力を持つことを目標とします。						
評価方法と基準	初回授業から中間発表までの個々の成長度を以下の項目を基準にして採点を行う。 ①出席 50点 ②ミュージシャンスキル 10点 ③パフォーマンス 10点 ④コミュニケーション 10点 ⑤準備 10点 ⑥サウンド 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Rockのアンサンブル第1週目。50年代Rock2曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
2		講義・演習	Rockのアンサンブル第1週目。60年代Rock2曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
3		講義・演習	Rockのアンサンブル第1週目。70年代Rock2曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
4		講義・演習	Rockのアンサンブル第1週目。80年代Rock2曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
5		講義・演習	Rockのアンサンブル第1週目。90年代Rock2曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と発表会担当曲の練習
6		講義・演習	Rockのアンサンブルの発表会を行う。	発表会での演奏について検証し、問題点克服に向けて練習
7		講義・演習	Funkのアンサンブル第1週目。簡単なFunk Tune (Unit1) のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
8		講義・演習	Funkのアンサンブル第2週目。Funk Tune Unit2課題曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
9		講義・演習	Funkのアンサンブル第2週目。Funk Tune Unit3課題曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
10		講義・演習	Funkのアンサンブル第2週目。Funk Tune Unit4課題曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
11		講義・演習	Funkのアンサンブル第2週目。Funk Tune Unit5課題曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と発表会担当曲の練習
12		講義・演習	Funkのアンサンブルの発表会を行う。	発表会での演奏について検証し、問題点克服に向けて練習
13		講義・演習	1年間で学んだ楽曲でセッションを行う。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			課題曲の音源、スコアを確認して、授業前に個人練習しておく。各ジャンルの有名アーティストや有名曲を視聴し、分析する。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	CPM Ensemble (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	クリス ジャーガン セン
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	世界三大ギタリストの一人であるJEFF BECKのトリビュートアルバムへの参加など、数多くの世界的プレイヤーとのセッション、レコーディング等でギタリストとして活躍、国内ではシンガーソングライター「miwa」のバンドに参加。						
授業の学習 内容	Contemporary Popular Music Ensemble。8週間ごとにジャンル別アンサンブルを行っていく。 1年を通じて、①BLUES→②SOUL→③ROCKと進み、毎週課題曲が更新されていきます。 各ジャンルに特化した講師による指導が行われ、8週目に発表会形式のアウトプットを実施することで本番経験を踏んでいく。 ジャンル別の奏法を学びながら、バンドで演奏することの楽しさを知り、リズムの大切さ、グルーヴ感、音量調整、サウンド作り、バンドコミュニケーション、パフォーマンスを養っていきます。さらには、レパートリーを持つことで、将来現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を理解する場とします。						
到達目標	BLUES、SOUL、ROCK等の楽曲をアンサンブルを通して表現できるようになる。また、リズム感、グルーヴ感、パフォーマンス力を向上し、バンドとして一体感を持って表現するスキルを身につける。さらには、主体性を持ってリハーサルに取り組み、メンバー同士でコミュニケーションを取りながら楽曲全体のクオリティを向上させる意識と行動力を持つことを目標とします。						
評価方法と基準	初回授業から中間発表までの個々の成長度を以下の項目を基準にして採点を行う。 ①出席 50点 ②ミュージシャンスキル 10点 ③パフォーマンス 10点 ④コミュニケーション 10点 ⑤準備 10点 ⑥サウンド 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Bluesのアンサンブル第1週目。12小節ブルースソング2曲のアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
2		講義・演習	Bluesのアンサンブル第2週目。12小節ブルースソング2曲のアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
3		講義・演習	Bluesのアンサンブル第3週目。8小節ブルースソング2曲のアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
4		講義・演習	Bluesのアンサンブル第4週目。マイナーブルース2曲のアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
5		講義・演習	Bluesのアンサンブル第5週目。スローブルース2曲のアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と発表会担当曲の練習
6		講義・演習	Bluesのアンサンブルの発表会を行う。	発表会での演奏について検証し、問題点克服に向けて練習
7		講義・演習	Soulのアンサンブル第1週目。簡単なSoulナンバーStand By Meのアンサンブル	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
8		講義・演習	Soulのアンサンブル第2週目。SoulナンバーUnit2課題曲のアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
9		講義・演習	Soulのアンサンブル第3週目。SoulナンバーUnit3課題曲のアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
10		講義・演習	Soulのアンサンブル第4週目。SoulナンバーUnit4課題曲のアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
11		講義・演習	Soulのアンサンブル第5週目。SoulナンバーUnit5のアンサンブル。発表会担当曲決め。	授業で行った楽曲の復習と発表会担当曲の練習
12		講義・演習	Soulのアンサンブルの発表会を行う。	発表会での演奏について検証し、問題点克服に向けて練習
13		講義・演習	次回Rockアンサンブルに向けた課題曲のアナライズとシンプルな曲のアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			課題曲の音源、スコアを確認して、授業前に個人練習しておく。各ジャンルの有名アーティストや有名曲を視聴し、分析する。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	CPM Ensemble (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	クリス ジャーガン セン
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	世界三大ギタリストの一人であるJEFF BECKのトリビュートアルバムへの参加など、数多くの世界的プレイヤーとのセッション、レコーディング等でギタリストとして活躍、国内ではシンガーソングライター「miwa」のバンドに参加。						
授業の学習 内容	Contemporary Popular Music Ensemble。8週間ごとにジャンル別アンサンブルを行っていく。 1年を通じて、①BLUES→②SOUL→③ROCKと進み、毎週課題曲が更新されていきます。 各ジャンルに特化した講師による指導が行われ、8週目に発表会形式のアウトプットを実施することで本番経験を踏んでいく。 ジャンル別の奏法を学びながら、バンドで演奏することの楽しさを知り、リズムの大切さ、グルーヴ感、音量調整、サウンド作り、バンドコミュニケーション、パフォーマンスを養っていきます。さらには、レパートリーを持つことで、将来現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を理解する場とします。						
到達目標	BLUES、SOUL、ROCK等の楽曲をアンサンブルを通して表現できるようになる。また、リズム感、グルーヴ感、パフォーマンス力を向上し、バンドとして一体感を持って表現するスキルを身につける。さらには、主体性を持ってリハーサルに取り組み、メンバー同士でコミュニケーションを取りながら楽曲全体のクオリティを向上させる意識と行動力を持つことを目標とします。						
評価方法と基準	初回授業から中間発表までの個々の成長度を以下の項目を基準にして採点を行う。 ①出席 50点 ②ミュージシャンスキル 10点 ③パフォーマンス 10点 ④コミュニケーション 10点 ⑤準備 10点 ⑥サウンド 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Rockのアンサンブル第1週目。50年代Rock2曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
2		講義・演習	Rockのアンサンブル第1週目。60年代Rock2曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
3		講義・演習	Rockのアンサンブル第1週目。70年代Rock2曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
4		講義・演習	Rockのアンサンブル第1週目。80年代Rock2曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
5		講義・演習	Rockのアンサンブル第1週目。90年代Rock2曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と発表会担当曲の練習
6		講義・演習	Rockのアンサンブルの発表会を行う。	発表会での演奏について検証し、問題点克服に向けて練習する。
7		講義・演習	Funkのアンサンブル第1週目。簡単なFunk Tune (Unit1) のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
8		講義・演習	Funkのアンサンブル第2週目。Funk Tune Unit2課題曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
9		講義・演習	Funkのアンサンブル第2週目。Funk Tune Unit3課題曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
10		講義・演習	Funkのアンサンブル第2週目。Funk Tune Unit4課題曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
11		講義・演習	Funkのアンサンブル第2週目。Funk Tune Unit5課題曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と発表会担当曲の練習
12		講義・演習	Funkのアンサンブルの発表会を行う。	発表会での演奏について検証し、問題点克服に向けて練習する。
13		講義・演習	1年間で学んだ楽曲でセッションを行う。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			課題曲の音源、スコアを確認して、授業前に個人練習しておく。各ジャンルの有名アーティストや有名曲を視聴し、分析する。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A (1) (Guitar Melodic Concept (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	山田 豪
学科・専攻	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ギタリストとして、30年以上活動し、増田恵子(ピンクレディ)、chihiRo-Decoy(JiLL-Decoy association)、Lapis Lazuli、林部智史などのアーティストのレコーディングやライブサポートを務める。						
授業の学習 内容	①Scale/Triad/Chord(Arpeggio)を学び、フレットボード(指板)を理解する事が必要 ②Harmonic Conceptと多くの点で関連し、Melodic Conceptでは各コードやあるコード進行に対してメロディやソロを弾けるように学んでいく ③コードやコード進行を理解して、様々なアプローチでソロやメロディが弾けるようにする ④各ポジションを練習後、バックイングトラックなどを使い、学生に弾いてもらいアドバイスやデモ演をする						
到達目標	①フレットボード(指板)を理解し、自由に弾けるように、正確に弾けるようにする ②スタイル(Rock/Pop/Blues/Jazzなど)によってフレーズを弾き分ける知識と技術を身につける						
評価方法と基準	出席率と実技(実技と理解力)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	インプロヴィゼーション(即興演奏)とその練習法についての解説をする。メジャースケールとその解釈、西洋音楽におけるダイアトニックコードの重要性について学ぶ。メジャースケールの第4形を学び、同スケールとターゲットトーンを使用したインプロヴィゼーションの練習を行う。コード進行は基本的なI-IV-V-I-VI-Vの進行で行う。	1.メジャースケールの第4形を覚える。 2.コードトーンで解決するインプロヴィゼーションの方法を理解する。
2		講義・演習	メジャーペンタニックスケールの第4形と、メジャースケール第4形に内在するダイアトニックのアルペジオについて解説をする。メジャーペンタニックスケールの第4形と、メジャースケール第4形に内在するダイアトニックのアルペジオを覚えて実際にインプロヴィゼーションの練習において使用する。コード進行は基本的なダイアトニックの進行で行う。	1.メジャーペンタニックスケールの第4形を覚える。2.メジャースケール第4形に内在するアルペジオを覚える。3.メジャーペンタニックスケールとダイアトニックのアルペジオを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。
3		講義・演習	メジャースケールとメジャーペンタニックスケールの第2形を学び、ターゲットトーンも含め実際にインプロヴィゼーションの練習において使用する。コード進行はI-V-I-VI-Vの進行で行う。	1.メジャースケールの第2形を覚える。2.メジャーペンタニックスケールの第2形を覚える。3.コードトーンで解決するメジャースケールとメジャーペンタニックスケールを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。
4		講義・演習	メジャースケールの第2形に含まれるダイアトニックのアルペジオに焦点を当てる。メジャースケールの第2形に含まれるダイアトニックのアルペジオを覚えて実際にインプロヴィゼーションの練習においてスケールとアルペジオを使用する。コード進行は基本的なI-V-I-VI-Vの進行で行う。	1.メジャースケールの第2形に含まれるダイアトニックのアルペジオを覚える。2.ダイアトニックのアルペジオを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。
5		講義・演習	メジャースケールとメジャーペンタニックスケールの第1形を学び、ターゲットトーンも含め実際にインプロヴィゼーションの練習において使用する。コード進行:I-V-VI-IV-I-II-V	1.メジャースケールの第1形を覚える。2.メジャーペンタニックスケールの第1形を覚える。3.コードトーンで解決するメジャースケールとメジャーペンタニックスケールを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。
6		講義・演習	メジャースケールの第1形に含まれるダイアトニックのアルペジオに焦点を当てる。メジャースケールの第1形に含まれるダイアトニックのアルペジオを覚えて実際にインプロヴィゼーションの練習においてスケールとアルペジオを使用する。コード進行は基本的なI-V-VI-IV-I-II-Vの進行で行う。	1.メジャースケールの第1形に含まれるダイアトニックのアルペジオを覚える。2.これらのダイアトニックのアルペジオを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。
7		講義・演習	メジャーペンタニックスケールとメジャーペンタニックスケールの第3形を学び、ターゲットトーンも含め実際にインプロヴィゼーションの練習において使用する。コード進行:I-V-VI-V-II-II-V I-V-V-II-I-IV-V	1.メジャースケールの第3形を覚える。2.メジャーペンタニックスケールの第3形を覚える。3.コードトーンで解決するメジャースケールとメジャーペンタニックスケールを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。
8		講義・演習	メジャースケールの第3形に含まれるダイアトニックのアルペジオに焦点を当てる。メジャースケールの第3形に含まれるダイアトニックのアルペジオを覚えて実際にインプロヴィゼーションの練習においてスケールとアルペジオを使用する。コード進行は基本的なI-V-VI-V-II-II-V I-V-V-II-I-IV-Vの進行で行う。	1.メジャースケールの第3形に含まれるアルペジオを覚える。2.これらのダイアトニックのアルペジオを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。
9		講義・演習	メジャースケールとメジャーペンタニックスケールの第5形を学び、ターゲットトーンも含め実際にインプロヴィゼーションの練習において使用する。コード進行:I-V-IV-II-I-V	1.メジャースケールの第5形を覚える。2.メジャーペンタニックスケールの第5形を覚える。3.コードトーンで解決するメジャースケールとメジャーペンタニックスケールを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。
10		講義・演習	メジャースケールの第5形に含まれるダイアトニックのアルペジオに焦点を当てる。メジャースケールの第5形に含まれるダイアトニックのアルペジオを覚えて実際にインプロヴィゼーションの練習においてスケールとアルペジオを使用する。コード進行は基本的なI-V-VI-V-II-II-V I-V-V-II-I-IV-Vの進行で行う。	1.メジャースケールの第5形に含まれるアルペジオを覚える。2.これらのダイアトニックのアルペジオを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。
11		講義・演習	第11週ではトライアドのアルペジオとそれらをノンダイアトニックコードに用いる方法に焦点を当てる。	1.アルペジオの概要について。
12		講義・演習	メジャースケール第4形に内在する7thを含むダイアトニックコードのアルペジオについて解説をする。この項目ではコードの3度から弾き始めるダイアトニックのアルペジオの重要性についての説明から始まる代理コードの応用編も含められる。	1.メジャースケールの第4形に含まれる7thを含めたアルペジオを覚える。2.これらのダイアトニックのアルペジオを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。
13		講義・演習	メジャースケール第2形に内在する7thを含むダイアトニックコードのアルペジオについて解説をする。	1.メジャースケールの第2形に含まれる7thを含めたアルペジオを覚える。2.これらのダイアトニックのアルペジオを使用したインプロヴィゼーションの方法を学ぶ。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける	
【使用教科書・教材・参考書】				
Guitar Melodic Concept 1				

科目名	Expression A (1) (Bass Line Concept (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤敬三
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	"松原ミキ""北島健二""マリーーン""池田聡""楠瀬清志郎""オズニー・メロ"等、その他数多くのアーティスト達の、ツアー＆レコーディングミュージシャンとして40年以上活動する。						
授業の学習 内容	将来的に豊かで独創的なベースラインを生み出せるように、コードやスケールなどの音楽理論を確実に耳と指板で理解し演奏できるようになるための講義実習を行う。						
到達目標	1、指板の構造とフレット上の音名を全て把握出来るようになること。 2、メジャースケールの構造を理解し、全てのキーで演奏出来るようになること。 3、コードの概念を理解し、構成音を把握しながら演奏出来るようになること。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	右手左手のフォームを確認し、スムーズで正しいフォームの演奏法を習得する。	現在の自分フォームとベースラインコンセプト教科書にて記載されてる正しいフォームとの違いを理解する	
2		講義・演習	譜面上の音楽記号、指板上全ポジションの音名の理解を深める。	全ポジションの音名を理解し演奏できるようにする	
3		講義・演習	コードネームとコード進行について理解を深めルートのみで演奏する	コード進行のパターンを調べ音楽記号を使って採譜する。	
4		講義・演習	弦の移動幅によっての度数や音程について、メジャースケールの構造について理解し、演奏出来る。	ベースラインコンセプト教科書に書かれている、8音階(C,D,E,F,G,A,B)でメジャースケールの演奏できるようにする	
5		講義・演習	#keyのメジャースケールとその指板上の位置を把握し、演奏出来る。	全ての#key(C#,D#,F#,G#,A#)のメジャースケールを弾けるようにする	
6		講義・演習	b keyのメジャースケールとその指板上の位置を把握し、演奏出来る。	全ての b key(D b ,E b ,G b ,A b ,B b)のメジャースケールを弾けるようにする	
7		講義・演習	弾き始めの場所の重要性と各フレーズに対しての連指の理解する。	メジャースケールをメトロノームBPM60～120まで8分音符練習。	
8		講義・演習	全てのメジャースケールが弾けるか、また配布した譜面の音楽記号を間違えずにルートだけで弾ききることができるかの演習する。	12音階全てのメジャースケールを弾けるようにする	
9		講義・演習	メジャー、マイナーペンタトニックスケールについての理論的解釈する。	ベースラインコンセプト教科書に記載してあるメジャーペンタトニックスケールを演奏できるようにする	
10		講義・演習	メジャー、マイナーペンタトニックスケールの5つのポジションを理解しフレーズを演奏出来るようになる	配布した資料のコード進行に対してメジャーペンタトニックスケールのベースラインを作成する	
11		講義・演習	コードトライアドの構成音とメジャーキーのダイアトニックトライアドを理解し、演奏出来るようにする	Cダイアトニックトライアドを全て弾けるように復習、構成音を理解すること	
12		講義・演習	セブンスコードの構成音とメジャーキーのダイアトニックセブンスコードを理解し、演奏出来るようにする。ナチュラルマイナースケールとメジャースケールの違いを理解する。Cナチュラルマイナースケールを演奏できるようにする。	全てのキーのダイアトニックセブンスコードを演奏できるようにする。全keyのナチュラルマイナースケールを演奏できるようにする。	
13		講義・演習	ナチュラルマイナースケールの構造を理解し、フレーズを作成する。全てのキーのナチュラルマイナー演奏できる。	配布した資料のコード進行に対してマイナーペンタトニックスケールのベースラインを作成する。12音階全てのナチュラルマイナーの復習	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					
Bass Line Concept 1					

科目名	Expression A (1) (Drum Control Theory (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	星山哲也
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	浜崎あゆみ、宇多田ヒカル、misono、Libraian、つるの剛士、をはじめ様々なアーティストのライブ、レコーディング、テレビ出演に参加。						
授業の学習 内容	①ルーディメンツをドラマーとして必要なスティックコントロールを身につける。 ②ドラムを演奏する全ての科目でのテクニックの上達。 ③ドラムを演奏するにあたり音色、ダイナミクス等を無意識にコントロール出来るようになって欲しい。						
到達目標	それぞれのエクササイズを丁寧に練習し無駄のないスティックコントロールを身につけることで 本来の太鼓の音色を表現することや演奏したい音符の長さを演奏できることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	グリップ&フォーム、フィンガーコントロールを利用して演奏できる	グリップ&フォーム、フィンガーコントロールの復習
2		講義・演習	フットワークを利用して演奏できる	フットワークを利用して実演してみる。
3		講義・演習	アクセレーションコントロール16分音符、3種類ができる	アクセレーションコントロール16分音符、3種類の復習
4		講義・演習	アクセレーションコントロール3連符、2種類ができる	アクセレーションコントロール3連符、2種類の復習
5		講義・演習	ダブルストロークロールができる	ダブルストロークロールの復習
6		講義・演習	5.7.9.11.13ストロークロールができる	5.7.9.11.13ストロークロールの復習
7		講義・演習	バズ、バズ5、バズ7ができる	バズ、バズ5、バズ7の復習
8		講義・演習	シングルパラディドルができる	シングルパラディドルの復習
9		講義・演習	ダブルパラディドル、トリプルパラディドルができる	ダブルパラディドル、トリプルパラディドルの復習
10		講義・演習	フラム、フラムアクセント16分&3連符を演奏できる	フラム、フラムアクセント16分&3連符の復習
11		講義・演習	フラムパラディドルができる	フラムパラディドルの復習
12		講義・演習	フラムタップ、ラタマキューができる	フラムタップ、ラタマキューの復習
13		講義・演習	前期に学んだ奏法をもとに自身でドラムフレーズを組み立てることができる	前期に学んだ奏法をもとに自身でドラムフレーズの復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Drum Control Theory 1				

科目名	Expression A (1) (Keyboard Playing Technique (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田隆志
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	七尾旅人、空気公団、SALYU、フルカワミキ (exスーパーカー)、最近では声優歌手の鈴木健一、伊藤かな恵、小野大輔etcのライブやレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	・シンセサイザーを使用したサウンドメイク。 ・各音色に合わせた演奏法とフレーズメイキング。 ・譜面上に記載しているコードから演奏を広げるアレンジ方法。 ・1週目を講習、2週目を演習という授業の流れをルーティーンとする。						
到達目標	・キーボード、シンセサイザーの特性と理解。 ・様々な音色を用いて、其々の音色を活かす演奏法の習得。 ・バンド形態、弾き語りのサポート等、あらゆる演奏形態に対応出来る奏法の習得。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	教室内使用機材の説明。結線の説明。 ピアノ音色を使用する3コードブルース。 定番のバックギングフレーズとソロ。	Key=Aでバックギングパターンとソロを練習。
2		講義・演習	ピアノ音色を使用する3コードブルース。 定番のバックギングフレーズとソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。
3		講義・演習	オルガンを使用する16系Funk。バックギングパターンとソロ。	Key=Eでバックギングパターンとソロの練習。ワークシート。
4		講義・演習	オルガンを使用する16系Funk。バックギングパターンとソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。
5		講義・演習	Key=Gで1-6m-2m-5、6/8のバラード。 FM系エレビ音色を使用してバックギングパターンとソロ。	左記項目の練習。ワークシート。
6		講義・演習	Key=Gで1-6m-2m-5、6/8のバラード。 FM系エレビ音色を使用してバックギングパターンとソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。
7		講義・演習	当方の作成したテスト内容を元に中間テストとして実技試験。	1～6週で学んだ内容から苦手とする項目を自主練習。ワークシート。
8		講義・演習	Key=Dで1-4-3m-6 2m-3m-4-5進行。 Rhodes系エレビを使用したボサノヴァ。バックギングパターンとソロ。	ワークシート、左記項目の練習。
9		講義・演習	Key=Dで1-4-3m-6 2m-3m-4-5進行。 Rhodes系エレビを使用したボサノヴァ。バックギングパターンとソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。
10		講義・演習	Key=G(Em)で6m-2進行。クラヴィ音色を使用したSlow Funk。 バックギングパターンとソロ。	左記項目の練習。ワークシート。
11		講義・演習	Key=G(Em)で6m-2進行。クラヴィ音色を使用したSlow Funk。バックギングパターンとソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。
12		講義・演習	Key=Cで1-5-b7-4 レゲエ。オルガンを使用したバックギングパターンとソロ。	左記項目の練習。ワークシート。
13		講義・演習	Key=Cで1-5-b7-4 レゲエ。オルガンを使用したバックギングパターンとソロ。 当方の作成したテスト内容を元に実技試験。	授業内で学んだ内容の反復練習。ワークシート。 前期学んだ内容から苦手とする項目を自主練習。ワークシート。□
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Keyboard Fundamental				

科目名	Expression A (2) (Guitar Melodic Concept (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	山田 豪
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	増田恵子(ピンクレディ)、chihiRo-Decoy(JiLL-Decoy association)、Lapis Lazuli、林部智史などのアーティストのレコーディングやライブサポート						
授業の学習 内容	ギターを演奏する上での基礎を勉強する。 ハーモニックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。ギター歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎テクニック:ピックアップセレクターの使い方を学ぶ	基礎テクニック:ピックアップセレクターの使い方を復習する。
2		講義・演習	基礎テクニック:フィンガートレーニングができるようになる。	基礎テクニック:フィンガートレーニングを復習する。。
3		講義・演習	基礎テクニック:ベンディングができるようになる。	基礎テクニック:ベンディングを復習する。
4		講義・演習	基礎テクニック:ハンマリングプリングオフができるようになる。	基礎テクニック:ハンマリングプリングオフを復習する。
5		講義・演習	基礎テクニック:トリル奏法ができるようになる。	基礎テクニック:トリル奏法がを復習する。
6		講義・演習	基礎テクニック:レガート奏法ができるようになる。	基礎テクニック:レガート奏法を復習する。
7		講義・演習	フレットの指の運び方ができるようになる。	フレットの指の運び方を復習する。
8		講義・演習	楽譜の読み方ができるようになる。	楽譜の読み方を復習する。
9		講義・演習	コードとは？ができるようになる。	コードとは？を復習する。
10		講義・演習	コードトーン:メジャー編ができるようになる。	コードトーン:メジャー編を復習する。
11		講義・演習	コードトーン:マイナー編ができるようになる。	コードトーン:マイナー編を復習する。
12		講義・演習	インターバルができるようになる。 メジャースケールができるようになる。	インターバルがを復習する。 メジャースケールを復習する。
13		講義・演習	マイナースケールができるようになる。 初見演奏してみる	マイナースケールがを復習する。 初見演奏を復習する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容の復習と教材の音源を使った練習をしっかりと行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Guitar Melodic Concept 1				

科目名	Expression A (2) (Bass Line Concept (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤敬三
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	"松原ミキ""北島健二""マリーン""池田聡""楠瀬清志郎""オズニー・メロ"等、その他数多くのアーティスト達の、ツアー＆レコーディングミュージシャンとして40年以上活動する。						
授業の学習 内容	将来的に豊かで独創的なベースラインを生み出せるように、コードやスケールなどの音楽理論を確実に耳と指板で理解し演奏できるようになるための講義実習を行う。						
到達目標	1、メジャースケール、マイナースケールとそのダイアトニックコードの構造を理解し、全てのキーで演奏出来るようになること。 2、ブルースのハーモニーとそのコード進行、フレージングを理解し、演奏出来るようになること。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	マイナーキーのダイアトニックコードトライアドについて理解する	マイナーセブンスのダイアトニックを自身で調べる
2		講義・演習	ブルーノートスケールの構造を理解し、そのフレージングを演奏出来る	ペントニックとブルーノートスケールの関係性を調べ演奏できるようにする
3		講義・演習	ペントニックスケールとブルーノートの関係性について	コードトーンに対してのベースラインを考え、譜面に起こしてくる
4		講義・演習	様々なブルースのコード進行を理解し、演奏出来る	ブルースのコード進行にブルーノートスケール、ペントニックスケールでベースラインを作成する
5		講義・演習	メジャー、ナチュラルマイナー、ペントニック、ブルーノートスケールのおさらい	試験に向けて課題曲の練習
6		講義・演習	課題曲に合わせメジャー、ナチュラルマイナー、ペントニック、ブルーノートスケールを使ってベースラインを作成	12音階全てのメジャー・マイナーキーに対応できるようにする
7		講義・演習	メジャーキーのモードスケールを理解し、全てのキーで演奏出来る	リディアンスケール、ミクソリディアンスケール理論的解釈を深める。各スケールに1つずつフレーズ作成
8		講義・演習	メジャーキーのコード進行に対して、アルペジオとモードスケールを設定し、演奏出来る。	課題曲にコードトーンのみでベースラインを作成しメジャーモードスケールとの関係性を理解する。
9		講義・演習	分数コードの成り立ちを理解分数コードの機能を把握	分数コードが入っていないコード進行を実際に分数コードにしてみるで自分なりにアレンジを加えて採譜して講師に提出
10		講義・演習	ベースラインの成り立ちとアプローチノートについて理解し、演奏出来る。	アプローチノートとモードスケールの関係性の理解を深める
11		講義・演習	クロマチックアプローチとその分析について理解し、実践できる。	コード進行に対してのベースラインとクロマチックの関係性の理解を深める
12		講義・演習	マイナーキーのモードスケールを理解し、演奏出来る。マイナーキーのコード進行にアルペジオとスケールを設定し、演奏出来る	ドリアン、フリジアン、ロクリアンスケールの理論的解釈を深める。各スケールに1つずつフレーズ作成、課題曲にコードトーンのみでベースラインを作成しマイナーモードスケールとの関係性を理解。
13		講義・演習	メジャー・マイナーモードスケール、クロマチックスケール、アプローチノートのおさらい、課題曲に合わせメジャー・マイナーモードスケール、クロマチックスケール、アプローチノートを使ってベースラインを作成	試験に向けて課題曲の練習 12音階全てのメジャー・マイナーモードスケールを弾けるようにする
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Bass Line Concept 1				

科目名	Expression A (2) (Drum Control Theory (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	星山哲也
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	浜崎あゆみ、宇多田ヒカル、misono、Libraian、つるの剛士、をはじめ様々なアーティストのライブ、レコーディング、テレビ出演に参加。						
授業の学習 内容	①ルーディメンツを通してドラマーとして必要なスティックコントロールを身につける。連符感をやしない楽曲やソロでの自由度を身につける。 ②ドラムを演奏する全ての科目でのテクニックの上達。 ③ドラムを演奏するにあたり音色、ダイナミクス等を無意識にコントロール出来るようになって欲しい。楽曲の中での自由度を広げて欲しい。						
到達目標	それぞれのエクササイズを丁寧に練習し無駄のないスティックコントロールと連符感を身につける。 ドラムの音色のコントロールをすると共に全体のバランスを考えた演奏をすることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	演習・ラフ、4.5ストロークラフができる。	演習・ラフ、4.5ストロークラフを復習。
2		講義・演習	演習・ドラッグ、シングルドラッグ、ダブルドラッグができる。	演習・ドラッグ、シングルドラッグ、ダブルドラッグを復習。
3		講義・演習	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2①ができる。	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2①を復習。
4		講義・演習	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2②ができる。	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2②を復習。
5		講義・演習	演習・ラタマキュー、シングルラタマキュー、ダブルラタマキュー、トリプルラタマキューができる。	演習・ラタマキュー、シングルラタマキュー、ダブルラタマキュー、トリプルラタマキューを復習。
6		講義・演習	演習・ルーディメンツ小テストができる。	演習・ルーディメンツ小テストを復習。
7		講義・演習	演習・チェンジアップができる。	演習・チェンジアップを復習。
8		講義・演習	演習・2拍3連、カウント、コンビネーションができる。	演習・2拍3連、カウント、コンビネーションを復習。
9		講義・演習	演習・4拍3連、カウント、コンビネーションができる。	演習・4拍3連、カウント、コンビネーションを復習。
10		講義・演習	演習・3拍4連、カウント、コンビネーションができる。	演習・3拍4連、カウント、コンビネーションを復習。
11		講義・演習	演習・3拍4連on4/4ができる。	演習・3拍4連on4/4を復習。
12		講義・演習	演習・ルーディメンツ小テストができる。	演習・ルーディメンツ小テストを復習。
13		講義・演習	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2②ができる。	演習・ドラッグパラディドルNo.1.2②を復習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Drum Control Theory 1				

科目名	Expression A (2) (Keyboard Playing Technique (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田隆志
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	七尾旅人、空気公団、SALYU、フルカワミキ (exスーパーカー)、最近では声優歌手の鈴木健一、伊藤かな恵、小野大輔etcのライブやレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	・シンセサイザーを使用したサウンドメイク。 ・各音色に合わせた演奏法とフレーズメイキング。 ・譜面上に記載しているコードから演奏を広げるアレンジ方法。 ・1週目を講習、2週目を演習という授業の流れをルーティーンとする。						
到達目標	・キーボード、シンセサイザーの特性と理解。 ・様々な音色を用いて、其々の音色を活かす演奏法の習得。 ・バンド形態、弾き語りのサポート等、あらゆる演奏形態に対応出来る奏法の習得。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	シンセサイザーの波形の説明。サイン波またはスクエア波の音色を使ってフレーズメイキング。Key=G、4-5-3m-6進行の中で、仮想楽曲イントロ部としてフレーズを作る。	左記フレーズを数パターン作成する。
2		講義・演習	スクエア波の音色を使って、Key=G、4-5-3m-6進行の中で、仮想楽曲イントロ部としてフレーズを作る。	授業内で学んだ内容の反復練習。
3		講義・演習	ノコギリ波の音色を使ってフレーズメイキング。Key=Bb 6m-2進行、仮想楽曲8Beatでソロ。	左記フレーズを数パターン作成する。
4		講義・演習	ノコギリ波の音色を使ってフレーズメイキング。Key=Bb 6m-2進行、仮想楽曲8Beatでソロ。	授業内で学んだ内容の反復練習。
5		講義・演習	シンセベースのグルーヴ。シンセベースの代表的な楽曲から幾つかのベースパターンを抜粋し、演奏を試みる。	左記フレーズの練習。
6		講義・演習	シンセベースのグルーヴ。シンセベースの代表的な楽曲から幾つかのベースパターンを抜粋し、演奏を試みる。	授業内で学んだ内容の反復練習。
7		講義・演習	当方の作成したテスト内容を元に中間テストとして実技試験。	1～6週で学んだ内容から苦手とする項目を自主練習。ワークシート。
8		講義・演習	シンセプラスによるコードバックキング。	左記フレーズの練習。
9		講義・演習	シンセプラスの代表的な楽曲から幾つかのバックキングパターンを抜粋し、演奏を試みる。	授業内で学んだ内容の反復練習。
10		講義・演習	弾き語り楽曲、ピアノ音色での演奏とコードアレンジ。洋楽バラード楽曲を選定し、独自に対象曲のピアノ・アレンジに取り組む。	左記楽曲の演奏パターンを作成する。
11		講義・演習	弾き語り楽曲、ピアノ音色での演奏とコードアレンジ。洋楽バラード楽曲を選定し、独自に対象曲のピアノ・アレンジに取り組む。	授業内で学んだ内容の反復練習。
12		講義・演習	弾き語り楽曲、Rhodes系エレクトロ音色での演奏とコードアレンジ。洋楽バラード楽曲を選定し、独自に対象曲のピアノ・アレンジに取り組む。	左記楽曲の演奏パターンを作成する。
13		講義・演習	当方の作成したテスト内容を元に実技試験。 後期の重要ポイントと復習	後期学んだ内容から苦手とする項目を自主練習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Keyboard Fundamental				

科目名	Expression B (1) (Guitar Harmonic Concept (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田大志
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、ジャズギタリストとして活動、第32回浅草ジャズコンテスト、ソロプレイヤー部門金賞受賞、2015年 GIBSON JAZZ GUITAR CONTEST 準グランプリを受賞。						
授業の学習 内容	ギターにおける様々なコードワークやヴォイスングパターン、リズムパターンを学び、楽曲でのバックিং能力を磨く。コード理論を学び、ハーモニーへの理解を深める。						
到達目標	CAGEDシステム、インターバル、ダイアトニックコードを理解する。3和音と4和音のヴォイスングパターンを覚えて習得する。						
評価方法と基準	・出席率・成長度・実技テスト						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	CAGEDシステムを理解する。Eフォームを演奏できるようにする。	Ch1の予習と、授業内容の復習。
2		講義・演習	インターバルについて理解する。Aフォームを演奏できるようにする。	Ch1の予習と、授業内容の復習。
3		講義・演習	ダイアトニックコードを理解する。Cフォームを演奏できるようにする。	Ch2の予習と、授業内容の復習。
4		講義・演習	Gフォームを演奏できるようにする。Dフォームを演奏できるようにする。	Ch2,3の予習と、授業内容の復習。
5		講義・演習	dimtライアドコードの講義と演習。ドミナントモーションを理解する。	Ch4の予習と、授業内容の復習。
6		講義・演習	augtライアドコードの講義と演習。	Ch5の予習と、授業内容の復習。
7		講義・演習	sus4コードの講義と演習。	Ch6の予習と、授業内容の復習。
8		講義・演習	sus2コードの講義と演習。	Ch7の予習と、授業内容の復習。
9		講義・演習	4和音コードの基本形の理解と演奏できるようにする。	Ch8の予習と、授業内容の復習。
10		講義・演習	Eフォームの中で4和音のダイアトニックコードを使ったコードワーク。	Ch8の予習と、授業内容の復習。
11		講義・演習	Aフォームの中で4和音のダイアトニックコードを使ったコードワーク。	Ch9の予習と、授業内容の復習。
12		講義・演習	Cフォームの中で4和音のダイアトニックコードを使ったコードワーク。	Ch11の予習と、授業内容の復習。
13		講義・演習	G、Dフォームの中で4和音のダイアトニックコードを使ったコードワーク。	Ch12の予習と、授業内容の復習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B (1) (Bass Groove Analyze (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤敬三
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	"松原ミキ""北島健二""マリーン""池田聡""楠瀬清志郎""オズニー・メロ"等、その他数多くのアーティスト達の、ツアー＆レコーディングミュージシャンとして40年以上活動する。						
授業の学習 内容	現代音楽を弾くためのリズムやベース・パートの成り立ちが主な内容で、その種類と手法を紹介し、体感することをテーマとする。 ビートの感じ方に関する段階的なメニューを消化し、音楽的感性の成長に繋げる。スタンダード・ミディ・ファイルを使用し、授業にて体感させ目標とされる演奏基準に到達するためのトレーニング方法、考え方、自己修正などを教授する。						
到達目標	ベースという楽器を通して各音符の長さや、記号、楽譜の読み取り、曲調など音楽表現に関する体感を積み重ねることにより、リズムと楽器の成り立ちを習得する事を目的とする。 各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に、タイム感と音感の重要性を理解し、扱う楽曲に対する理解力が上がることで、Jazz、Rock、Popsなどジャンル毎にフレーズや、ビート、音色などの使い分けができることが目標とする。						
評価方法と基準	出席率と実技(成長度)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	グルーヴの重要性とスタンダード・ミディ・ファイルの取扱方法を説明する。	Chapter01の予習
2		講義・演習	4分、8分休符とタイトを使用した時の違いを説明する。	Chapter01の復習とChapter02の予習
3		講義・演習	4分、8分休符の体得する。(エクササイズ)	Chapter02の復習とChapter03の予習
4		講義・演習	スタッカート、テヌート記号のグルーヴ的な違いを説明する。	Chapter03の復習とChapter04の予習
5		講義・演習	スタッカートやテヌートを使用した時のグルーヴの違いを体得する。(エクササイズ)	Chapter04の復習とChapter05の予習
6		講義・演習	アクセントの意味、シンコペーション記号の意味合いを説明する。	Chapter05の復習とChapter06の予習
7		講義・演習	アクセント、シンコペーションを使用した時のグルーヴの違いを体得する。(エクササイズ)	Chapter06の復習とChapter07の予習
8		講義・演習	音程の組み合わせによるリズム的な感じ方の違いを説明する。	Chapter07の復習とChapter08の予習
9		講義・演習	音程の組み合わせによるリズム的な感じ方の違いを体得する。(エクササイズ)	Chapter08の復習とChapter09の予習
10		講義・演習	基本的な8ビートパターンとパターンの作り方を説明する。	Chapter09の復習とChapter10の予習
11		講義・演習	基本的な8ビートのパターンを実践する。(エクササイズ)	Chapter10の復習とChapter11の予習
12		講義・演習	基本的な16ビートパターンとパターンの作り方を説明する。	Chapter11の復習とChapter12の予習
13		講義・演習	基本的な16ビートのパターンを実践する。(エクササイズ)	Chapter12の復習とChapter13の予習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
滋慶出版教科書、オリジナルStandard Midi File (GarageBand)				

科目名	Expression B (1) (Drum Groove Making (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	奥 出矢
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ドラムテクニック系のクラスを長く担当する。滋慶グループ全校統一テキストも作成している。						
授業の学習 内容	現代音楽における基礎的なスタンダードなリズムの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。テキストに沿った各種トレーニングと並行して、アンサンブルに臨む為の基礎や、テンポの捉え方とリズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	ワールドスタンダードなシンプルなりズムフィールの基礎を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に於いて、タイム感の重要性を理解しグルーヴに対する発見が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	楽器構造(ドラムセット)と特有な記譜法の理解。8ビートとその歴史的背景を知る	楽器構造(ドラムセット)と特有な記譜法の復習	
2		講義・演習	8ビートにおけるキックバリエーションの実践。スネアバックビートに関する理解。	8ビートにおけるキックバリエーションの復習	
3		講義・演習	8ビートにおける4Wayトレーニングの実践。メトロノームを使用した練習の紹介。	8ビートにおける4Wayトレーニングの復習	
4		講義・演習	ハイハットワークの実践。ドラムの役割(アンサンブルスタンス)を理解する。	ハイハットワークの実践。の復習	
5		講義・演習	Aブロックフォーム(片手16)での16ビートの実践。ゴーストモーションに関する考察。	Aブロックフォーム(片手16)での16ビートの復習	
6		講義・演習	セットオーケストレーション:移動モーションの理解と実践。フィルインに関する考察。	セットオーケストレーション:移動モーションの理解の復習	
7		講義・演習	Bブロックフォーム(両手16)での16ビートの実践。リード感覚に関する考察。	Bブロックフォーム(両手16)での16ビートの復習	
8		講義・演習	Bブロックフォームでのグルーヴメイクのチェック;パルスイメージの理解と実践。	Bブロックフォームでのグルーヴメイクの復習	
9		講義・演習	Cブロックフォーム(ミックス)での16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。	Cブロックフォーム(ミックス)での16ビートの復習	
10		講義・演習	Cブロックフォームでのグルーヴメイク;マイナスイオン音源を使用したトレーニングの実施	Cブロックフォームでのグルーヴメイク;マイナスイオン音源の復習	
11		講義・演習	シャッフルビートの習得。リズム構造の理解とフィールの実践。	シャッフルビートの習得の復習	
12		講義・演習	トラディショナルスタイルの理解と実践。ハネ方のニュアンスに関する考察。 3連符に包括されたシャッフルフィールの実践。ゴーストノートのコントロール。	トラディショナルスタイルの理解と実践の復習 3連符に包括されたシャッフルフィールの実践の復習	
13		講義・演習	各ブロックフォームを織り交ぜた応用 8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用	各ブロックフォームを織り交ぜた復習 8ビート、16ビート、シャッフルビートの復習	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					
滋慶出版オリジナルテキスト「DRUM GROOVE MAKING」					

科目名	Expression B (1) (Keyboard Harmonic Concept (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	加藤 エレナ
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	近藤房之助、MIYAVI、柴崎コウ、指田郁哉など、幅広いジャンルのサポートキーボーディスト、シンガーソングライターとして活躍。 Carlos Johnson、Rob Stone等、ブルースピアニストとして海外ミュージシャンのレコーディング、ツアーに多数参加。他、SUUMOやYKKAP、企業やTVドキュメンタリーの楽曲を制作している。						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。						
到達目標	基礎的な演奏方法やコード理論を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に於いて、ハーモニーの重要性を理解し、楽曲理解力、表現力の向上を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎練習とキーボードの使用法を理解し実演する。	基礎練習とキーボードの使用法を復習する。
2		講義・演習	基本のコードとコードネームを理解し実演する。	基本のコードとコードネームを復習する。
3		講義・演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し実演する。	G-C, Rock'n Roll, Bluesを復習する。
4		講義・演習	ペントニック、リフを理解し実演する。	ペントニック、リフを復習する。
5		講義・演習	ペントニック、リフを理解し実演する。	ペントニック、リフを復習する。
6		講義・演習	Bluesを理解し実演する。	Bluesを復習する。
7		講義・演習	メジャースケールとダイアトニックコード1を理解し実演する。	メジャースケールとダイアトニックコード1を復習する。
8		講義・演習	メジャースケールとダイアトニックコード2を理解し実演する。	メジャースケールとダイアトニックコード2を復習する。
9		講義・演習	マイナースケールを理解し実演する。	マイナースケールを復習する。
10		講義・演習	Bossa Nova Dm7-G7 を理解し実演する。	Bossa Nova Dm7-G7を復習する。
11		講義・演習	Blues Em riffを理解し実演する。	Blues Em riffを復習する。
12		講義・演習	いろいろな音色を理解し実演する。 ヴォイスングやレンジによる変化を理解し実演する。	いろいろな音色を復習する。 ヴォイスングやレンジによる変化を復習する。
13		講義・演習	強弱による変化を理解し実演する。 前期の重要ポイントと復習	強弱による変化を復習する。 前期の重要ポイントと復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B (2) (Guitar Harmonic Concept (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田大志
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、ジャズギタリストとして活動、第32回浅草ジャズコンテスト、ソロプレイヤー部門金賞受賞、2015年 GIBSON JAZZ GUITAR CONTEST 準グランプリを受賞。						
授業の学習 内容	ギターにおける様々なコードワークやヴォイスングパターン、リズムパターンを学び、楽曲でのバックイング能力を磨く。コード理論を学び、ハーモニーへの理解を深める。						
到達目標	セカンダリードミナント、サブドミナントマイナーを理解する。メロディックマイナースケールのダイアトニック内のコードを習得する。6thコード、9thコードを理解し習得する。						
評価方法と基準	・出席率・成長度・実技テスト						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	4和音ボイスイングの復習。サブドミナントマイナ	Ch13までの予習と、授業内容の復習。
2		講義・演習	dim7コードの講義と演習。	Ch14の予習と、授業内容の復習。
3		講義・演習	○7(b5)コードの講義と演習。	Ch15の予習と、授業内容の復習。
4		講義・演習	○7(#5)コードの講義と演習。	Ch15の予習と、授業内容の復習。
5		講義・演習	○mM7コードの講義と演習。	Ch16の予習と、授業内容の復習。
6		講義・演習	○7sus4コードの講義と演習。	Ch17の予習と、授業内容の復習。
7		講義・演習	○M7(#5)コードの講義と演習。	Ch18の予習と、授業内容の復習。
8		講義・演習	Reviewのコード進行に合わせてバックイングの	Ch18までの予習と、授業内容の復習。
9		講義・演習	○6コードの講義と演習。	Ch19の予習と、授業内容の復習。
10		講義・演習	○m6コードの講義と演習。	Ch20の予習と、授業内容の復習。
11		講義・演習	○9コードの講義と演習。	Ch21の予習と、授業内容の復習。
12		講義・演習	○M9コードの講義と演習。	Ch21の予習と、授業内容の復習。
13		講義・演習	○m9コードの講義と演習。	Ch21の予習と、授業内容の復習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Chris Juergensen著プリント教科書				

科目名	Expression B (2) (Bass Groove Analyze (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤 敬三
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	"松原ミキ""北島健二""マリーナ""池田聡""楠瀬清志郎""オズニー・メロ"等、その他数多くのアーティスト達の、ツアー＆レコーディングミュージシャンとして40年以上活動する。						
授業の学習 内容	現代音楽を弾くためのリズムやベースパートの成り立ちが主な内容で、その種類と手法を紹介し、体感することをテーマとする。前期で体得した4分、8分、16分の音符、を使用した楽曲で使用できる技術を習得し、音楽的感性の成長に繋げる。スタンダード・ミディ・ファイルを使用し、授業にて体感させ目標とされる演奏基準に到達するためのトレーニング方、考え方、自己修正などを教授する。						
到達目標	音符の長さや、記号、曲調を楽譜から情報を読み取った上で、実際にはない装飾音符などを自在に演奏することを目標とする。						
評価方法と基準	定期テスト、実技60%(後期で学んだ内容を演奏に織り交ぜることができる) 理解力40%(後期に学んだ内容を説明することができる)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	シャッフルビートのリズム的な捉え方とジャンルとの関係について説明する。(エクササイズ)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習	
2		講義・演習	トリプレットフィールのリズムの捉え方と楽曲について説明する。(エクササイズ)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習	
3		講義・演習	トリプレットフィールのリズムの捉え方と楽曲について説明する。(エクササイズ)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習	
4		講義・演習	ハマーオンとプルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習	
5		講義・演習	ハマーオンとプルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。(エクササイズ)	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習	
6		講義・演習	スライドダウン、スライドアップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習	
7		講義・演習	スライドダウン、アップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。(エクササイズ)	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習	
8		講義・演習	16ビートにおけるシンコペーションパターンについて説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習	
9		講義・演習	16ビートにおけるシンコペーションパターンを体得する。(エクササイズ)	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習	
10		講義・演習	バウンス・ビートのリズム的な捉え方と基本的なパターンを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習	
11		講義・演習	バウンス・ビートの基本的なパターンを体得する。(エクササイズ)	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習	
12		講義・演習	ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを説明する。 ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを体得する。(エクササイズ)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習 次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習	
13		講義・演習	前期に学んだ基礎的なビートを使用した上で後期に学んだ装飾音符や音楽記号を用いて演奏する	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression B (2) (Drum Groove Making (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	奥 出矢
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ドラムテクニック系のクラスを長く担当する。滋慶グループ全校統一テキストも作成している。						
授業の学習 内容	現代音楽における初歩的なスタンダードグルーヴの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。テキストに沿った各種トレーニングと並行して、アンサンブルスタンス、パルスイメージ、サウンドスケープ、リズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	ワールドスタンダードなシンプルなりズムフィールの応用を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に於いて、タイム感の重要性を理解しグルーヴに対する「気付き」が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	トリプレットフィールの習得。3連符を構成要素とするリズムの理解と実践。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~3)
2		講義・演習	ハネた16ビートの実践。拍内のリズム構造の理解とバウンスフィールの考察。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~4)
3		講義・演習	ハネた16ビートの実践。拍内のリズム構造の理解とバウンスフィールの考察。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~4)
4		講義・演習	ハネた16ビートの実践。キックパターンのバリエーションによるフィールの構築	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~3)
5		講義・演習	6連符に包括されたハネ系16ビートの実践。ゴーストノートのコントロール。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~4)
6		講義・演習	ハネ方の度合いに関する考察。バウンスポイントの把握とハネ率の実践。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~2)
7		講義・演習	チャートリーディングを伴う8ビートの実践。課題曲(Chapter20)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(8ビート)
8		講義・演習	チャートリーディングを伴う8ビートの実践。課題曲(Chapter21)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(8ビート)
9		講義・演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter22)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(16ビート)
10		講義・演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter23)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(16ビート)
11		講義・演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter24)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(16ビート)
12		講義・演習	シャッフルビートの実践。課題曲(Chapter25)の解析。 1年次のまとめ。蓄積したテクニックと表現力についての考察。	関連課題曲の抽出と研究(シャッフル) 振り返りとしての総復習
13		講義・演習	ハネた16ビートを複雑化した応用パターンの解析と理解。 1年次で学習したパターンを織り交ぜたリズムの理解と実践	テキストに基づいた基礎リズムの発展系の理解・練習 1年次のまとめから応用させたフレーズの創造
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B (2) (Keyboard Harmonic Concept (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	加藤 エレナ
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	近藤房之助、MIYABI、柴崎コウ、指田郁哉など、幅広いジャンルのサポートキーボーディスト、シンガーソングライターとして活躍。 Calros Johnson、Rob Stone等、ブルースピアニストとして海外ミュージシャンのレコーディング、ツアーに多数参加。他、SUUMOやYKKAP、企業やTVドキュメンタリーの楽曲を制作している。						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。 キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。 オシレーターなどをうまく使い思い通りのサウンドを作る。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。 キーボードを演奏する際に音を変更したり、アンサンブル上でなじむ音階を選択することを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	シールドなど機材での音の変化を理解する。	シールドなど機材での音の変化を理解し復習。
2		講義・演習	コードの展開の変化を理解する。	コードの展開を理解し復習。
3		講義・演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesの変化を理解する。	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し復習。
4		講義・演習	オシレーターを2つ以上組み合わせる音色の変化を理解する。	オシレーターを2つ以上組み合わせる音色を理解し復習。
5		講義・演習	ペントニック、オブリガートの変化を理解する。	ペントニック、オブリガートを理解し復習。
6		講義・演習	Bluesについての変化を理解する。	Bluesについてを理解し復習。
7		講義・演習	メジャー、マイナー以外のスケール1の変化を理解する。	メジャー、マイナー以外のスケール1を理解し復習。
8		講義・演習	メジャー、マイナー以外のスケール2の変化を理解する。	メジャー、マイナー以外のスケール2を理解し復習。
9		講義・演習	ソロの構成の変化を理解する。	ソロの構成を理解し復習。
10		講義・演習	各ジャンルでのバックングの変化を理解する。	各ジャンルでのバックングを理解し復習。
11		講義・演習	各ジャンルでのriffの変化を理解する。	各ジャンルでのriffを理解し復習。
12		講義・演習	ピッチベンドを使用したソロの変化を理解する。 エフェクト紹介1の変化を理解する。	ピッチベンドを使用したソロを理解し復習。 エフェクト紹介1を理解し復習。
13		講義・演習	エフェクト紹介2の変化を理解する。 後期の重要ポイントと復習	エフェクト紹介2を理解し復習。 後期の重要ポイントと復習を理解し復習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C (1) (Guitar Playing Technique (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田 大志
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、ジャズギタリストとして活動、第32回浅草ジャズコンテスト、ソロプレイヤー部門金賞受賞、2015年 GIBSON JAZZ GUITAR CONTEST 準グランプリを受賞。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がリベーシストだけにはない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	コードアルペジオ:メジャー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ:メジャー編を復習する。
2		講義・演習	コードアルペジオ:メジャー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ:メジャー編を復習する。
3		講義・演習	コードアルペジオ:マイナー編を理解し演奏する。	コードアルペジオ:マイナー編を復習する。
4		講義・演習	コードネーム理解方を理解し演奏する。	コードネーム理解方を理解し演奏する。
5		講義・演習	キーの概念を理解し演奏する。	キーの概念を復習する。
6		講義・演習	ダイアトニックコードを理解し演奏する。	ダイアトニックコードを復習する。
7		講義・演習	コード進行の解釈を理解し演奏する。	コード進行の解釈を復習する。
8		講義・演習	リズムパターンを理解し演奏する。	リズムパターンを復習する。
9		講義・演習	シャッフルについてを理解し演奏する。	シャッフルについてを復習する。
10		講義・演習	ブルースについてを理解し演奏する。	ブルースについてを復習する。
11		講義・演習	ペントニックスケールを理解し演奏する。	ペントニックスケールを復習する。
12		講義・演習	ブルーススケールに理解し演奏する。	ブルーススケールを復習する。
13		講義・演習	モーダルとコーダルを理解し演奏する。 自由演奏を理解し演奏する。	モーダルとコーダルを復習する。 自由演奏を復習する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C (1) (Bass Playing Technique (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤 敬三
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	"松原ミキ""北島健二""マリーーン""池田聡""楠瀬清志郎""オズニー・メロ"等、その他数多くのアーティスト達の、ツアー&レコーディングミュージシャンとして40年以上活動する。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がリベシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	シャッフルビートのリズム的な捉え方とジャンルとの関係について説明する。(エクササイズ)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習	
2		講義・演習	トリプレットフィールのリズムの捉え方と楽曲について説明する。(エクササイズ)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習	
3		講義・演習	トリプレットフィールのリズムの捉え方と楽曲について説明する。(エクササイズ)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習	
4		講義・演習	ハマーオンとプルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習	
5		講義・演習	ハマーオンとプルオフの使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。(エクササイズ)	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習	
6		講義・演習	スライドダウン、スライドアップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習	
7		講義・演習	スライドダウン、アップを使用によるグルーヴ的な感じ方の違いを体得する。(エクササイズ)	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習	
8		講義・演習	16ビートにおけるシンコペーションパターンについて説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習	
9		講義・演習	16ビートにおけるシンコペーションパターンを体得する。(エクササイズ)	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習	
10		講義・演習	バウンス・ビートのリズム的な捉え方と基本的なパターンを説明する。	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習	
11		講義・演習	バウンス・ビートの基本的なパターンを体得する。(エクササイズ)	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習	
12		講義・演習	ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを説明する。 ゴーストノートを使用した時のグルーヴ的な違いを体得する。(エクササイズ)	次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習 次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習	
13		講義・演習	前期に学んだ基礎的なビートを使用した上で後期に学んだ装飾音符や音楽記号を用いて演奏する	次のChapterの予習と練習、未達成箇所の復習	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression C (1) (Percussion (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大久保 宙
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	世界20ヶ国以上で講義・演奏経験あり、数多くの教育的出版物を執筆している。						
授業の学習 内容	音楽の基本になるリズムの読み方、とりかた、たたきかたを学ぶ。打楽器(カホン、ジャンベ、ドラム)の基本的な演奏方法を学ぶ。またパーカッションと一緒にパーカシブなアプローチのドラムを学ぶ。1 & 3 合同授業のため2年生はより高度なテクニックを学びます。						
到達目標	カホン・ジャンベなどでアコースティックライブの伴奏ができる、またいくつか高度のパーカッションテクニックを身に着ける						
評価方法と基準	出席率50%実技試験50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介・楽器紹介・授業の内容説明	
2		講義・演習	カホン&ジャンベ8・16ビート1	カホンの基本的な叩き方を復習する
3		講義・演習	カホン&ジャンベ8・16ビート2	カホンの基本的な叩き方を復習する
4		講義・演習	シンコペーション	メトロノームに合わせてアクセントの位置を確認しながら復習する
5		講義・演習	フィルイン	配布プリントを復習
6		講義・演習	3連系リズム	配布プリントを復習
7		講義・演習	ファンク&フュージョン1	配布プリントを復習
8		講義・演習	ファンク&フュージョン2	配布プリントを復習
9		講義・演習	アフリカンリズム	配布プリントを復習
10		講義・演習	ソロ(ソロとリズムの違い)	どうやったらソロになるか実際に録音してみ確認してみる
11		講義・演習	フィンガーテクニック1	すぐにできるテクニックではないため反復練習をする
12		講義・演習	フィンガーテクニック2	すぐにできるテクニックではないため反復練習をする
13		講義・演習	テスト	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で習った内容を反復練習する	
【使用教科書・教材・参考書】				
大久保宙製作オリジナルテキスト				

科目名	Expression C (1) (Keyboard Playing Technique (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	加藤 エレナ
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	近藤房之助、MIYAVI、柴崎コウ、指田郁哉など、幅広いジャンルのサポートキーボーディスト、シンガーソングライターとして活躍。 Calros Johnson、Rob Stone等、ブルースピアニストとして海外ミュージシャンのレコーディング、ツアーに多数参加。他、SUUMOやYKKAP、企業やTVドキュメンタリーの楽曲を制作している。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係を通して調(キー)の重要性を説明できる。	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係性を楽器に置き換えて実践してみる。	
2		講義・演習	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係を通して調(キー)の重要性を説明できる。	Diatonic ScaleとDiatonic Chordとの関係性を楽器に置き換えて実践してみる。	
3		講義・演習	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働きを説明できる。	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働きを楽器に置き換えて実践してみる。	
4		講義・演習	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働き説明できる。	コード進行における主音・下属音・属音コードのそれぞれの働きを楽器に置き換えて実践してみる。	
5		講義・演習	平行調の仕組みを説明できる。	平行調の仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。	
6		講義・演習	平行調の仕組みを説明できる。	平行調の仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。	
7		講義・演習	Available Note Scaleを説明できる。	Available Note Scaleを楽器に置き換えて実践してみる。	
8		講義・演習	Available Note Scaleを説明できる。	Available Note Scaleを楽器に置き換えて実践してみる。	
9		講義・演習	Major Pentatonic Scaleの仕組みを説明できる。	Major Pentatonic Scaleの仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。	
10		講義・演習	Major Pentatonic Scaleの仕組みを説明できる。	Major Pentatonic Scaleの仕組みを楽器に置き換えて実践してみる。	
11		講義・演習	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード) またコードに割り当てるスケール例を説明できる。	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード)を楽器に置き換えて実践してみる。	
12		講義・演習	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード)説明できる。説明する。	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード)を楽器に置き換えて実践してみる。	
13		講義・演習	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践してみる。	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			様々な楽曲のコード進行を分析する基礎力と応用を身につけるための反復練習を行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression C (2) (Guitar Playing Technique (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇田 大志
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、ジャズギタリストとして活動、第32回浅草ジャズコンテスト、ソロプレイヤー部門金賞受賞、2015年 GIBSON JAZZ GUITAR CONTEST 準グランプリを受賞。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがリベシストだけではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード)を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明
2		講義・演習	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明
3		講義・演習	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明
4		講義・演習	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明
5		講義・演習	Secondary Dominantの働きを説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明
6		講義・演習	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明
7		講義・演習	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明
8		講義・演習	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明
9		講義・演習	平行調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明
10		講義・演習	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明
11		講義・演習	別な調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明
12		講義・演習	小テストにて自己への理解度を確認させる。 後期に学んだ理論を楽器を使い行う。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明
13		講義・演習	小テストにて自己への理解度を確認させる。 後期に学んだ項目の復習	未理解箇所の解明
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C (2) (Bass Playing Technique (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤 敬三
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	"松原ミキ""北島健二""マリーン""池田聡""楠瀬清志郎""オズニー・メロ"等、その他数多くのアーティスト達の、ツアー&レコーディングミュージシャンとして40年以上活動する。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがベーシストだけではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード)を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明	
2		講義・演習	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明	
3		講義・演習	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明	
4		講義・演習	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明	
5		講義・演習	Secondary Dominantの働きを説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明	
6		講義・演習	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明	
7		講義・演習	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明	
8		講義・演習	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明	
9		講義・演習	平行調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明	
10		講義・演習	小テストにて自己への理解度を確認させる。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明	
11		講義・演習	別な調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明する。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明	
12		講義・演習	小テストにて自己への理解度を確認させる。 後期に学んだ理論を楽器を使い行う。	次の予定Unitの熟読(予習)、未理解箇所の 解明	
13		講義・演習	小テストにて自己への理解度を確認させる。 後期に学んだ項目の復習	未理解箇所の解明	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression C (2) (Percussion (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大久保 宙
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	世界20ヶ国以上で講義・演奏経験あり、数多くの教育的出版物を執筆している。						
授業の学習 内容	音楽の基本になるリズムの読み方、とりかた、たたきかたを学ぶ。打楽器(カホン、ジャンベ、ドラム)の基本的な演奏方法を学ぶ。またパーカッションと一緒にパーカシブなアプローチのドラムを学ぶ。2 & 4の合同授業のため2年生はより高度なテクニックを学びます。						
到達目標	カホン・ジャンベなどでアコースティックライブの伴奏ができる、またいくつか高度のパーカッションテクニックを身に着ける						
評価方法と基準	出席率50%実技試験50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	コンガベーシックテクニック1	スラップの手の形を復習する
2		講義・演習	コンガベーシックテクニック2	授業で行った内容を反復復習する
3		講義・演習	ティンパレス1	ティンパレス基本リズムを復習する
4		講義・演習	ティンパレス2(ソロ含む)	ティンパレス基本リズムを復習する
5		講義・演習	シェイカー	どの角度でアクセントをつけるか復習する
6		講義・演習	タンバリン	叩き方のバリエーションを復習する
7		講義・演習	パーカッションアンサンブル1	配布したプリントを復習する、次回までに理解しておく
8		講義・演習	パーカッションアンサンブル2	配布したプリントを復習する、次回までに理解しておく
9		講義・演習	パーカッション&ドラムスアドバンス1	配布したプリントを復習する、次回までに理解しておく
10		講義・演習	パーカッション&ドラムスアドバンス2	配布したプリントを復習する、次回までに理解しておく
11		講義・演習	総復習1	1年やった内容を振り返り復習しましょう
12		講義・演習	総復習2	1年やった内容を振り返り復習しましょう
13		講義・演習	テスト	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で習った内容を反復練習する	
【使用教科書・教材・参考書】				
大久保宙製作オリジナルテキスト				

科目名	Expression C (2) (Keyboard Playing Technique (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	加藤 エレナ
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	近藤房之助、MIYAVI、柴崎コウ、指田郁哉など、幅広いジャンルのサポートキーボーディスト、シンガーソングライターとして活躍。 Calros Johnson、Rob Stone等、ブルースピアニストとして海外ミュージシャンのレコーディング、ツアーに多数参加。他、SUUMOやYKKAP、企業やTVドキュメンタリーの楽曲を制作している。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		講義・演習	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード)またコードに割り当てるスケール例を説明する。	Diatonic Chord進行におけるSubstitute Chord(代理コード)を楽器に置き換えて実践してみる。
3		講義・演習	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践してみる。
4		講義・演習	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Major Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践してみる。
5		講義・演習	Secondary Dominantの働きを説明できるようになる。	Secondary Dominantの働きを楽器に置き換えて実践してみる。
6		講義・演習	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践してみる。
7		講義・演習	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を説明できるようになる。	Minor Chord Progressionの基本パターンと分析の仕方を楽器に置き換えて実践してみる。
8		講義・演習	平行調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明できるようになる。	平行調への転調の見抜き方をを楽器に置き換えて実践してみる。
9		講義・演習	平行調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明できるようになる。	平行調への転調の見抜き方をを楽器に置き換えて実践してみる。
10		講義・演習	別な調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明できるようになる。	別な調への転調の見抜き方をを楽器に置き換えて実践してみる。
11		講義・演習	別な調への転調の見抜き方を説明し体感する。 またコードに割り当てるスケール例を説明できるようになる。	別な調への転調の見抜き方をを楽器に置き換えて実践してみる。
12		講義・演習	後期に学んだ理論を楽器を使って実演できる。	後期に学んだ理論を楽器を楽器に置き換えて実践してみる。
13		講義・演習	テストと復習 学んだ項目の総復習	全てのunitを確認し実演してみる。 学んだ項目の総復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			様々な楽曲のコード進行を分析する基礎力と応用を身につけるための反復練習を行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A (1) (Vocal Band Ensemble Style(1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田原 佑一朗 相澤 ななみ 荒木 美帆
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ゴスペルグループSOULMATICのメンバーとして多くのアーティスト・ミュージシャンと共演し、音楽活動を行う。						
授業の学習 内容	国内外問わず、音楽業界で活躍していく為には、様々なジャンルの音楽を知り、各パートの奏法、リズム、表現方法、パフォーマンス等をアンサンブルを通して身に付ける必要があります。この授業では、2週続きで指定された課題曲を通して、音楽ジャンルや音楽の歴史を学びながら、ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのパートが合わさってアンサンブルを実践していきます。						
到達目標	バンド形態で歌うスキルや楽器演奏力を養う。 音楽でコミュニケーションが取れるようになる。 ジャンルの違いを理解し、リズム感や表現力、パフォーマンス力を身に付ける。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	バンドアンサンブルについての概要説明、ブルースの成り立ちや歴史を学び、ブルースを演奏する必要性を理解する。	授業で学んだブルースについて復習し、理解を深める。	
2		講義・演習	ブルースの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ブルースのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。	
3		講義・演習	ブルースの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
4		講義・演習	モータウンの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	モータウンのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。	
5		講義・演習	モータウンの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
6		講義・演習	ソウルの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ソウルのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。	
7		講義・演習	ソウルの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
8		講義・演習	ファンクの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ファンクのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。	
9		講義・演習	ファンクの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
10		講義・演習	70年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	70'sClassicRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。	
11		講義・演習	70年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
12		講義・演習	80年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	80'sClassicRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。	
13		講義・演習	中間発表。課題曲の中から選択した曲をステージでパフォーマンスする。 テストと復習	実際のステージで演奏することにより気づいた部分を反省し、弱点克服に向けて練習をする。1'12をまとめてレポート作成	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			課題曲の復習と予習を行う。各ジャンルの課題曲以外の曲も聞く。準備復習研究時間として週4時間行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Band Ensemble A (1) (Guitar Band Ensemble Style(1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	クリス・ ジャーガン セン
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	18歳でロックバンド、ストライカーの一員として全米ツアーを展開。Jeff Beckのトリビュートアルバムへの参加やmiwaのサポートなど幅広く活躍し、世界的に高い評価を受けている。						
授業の学習 内容	ギターの基礎知識の向上 様々なビートにあった演奏方法の習得						
到達目標	講師に提示された譜面を初見で間違えずに演奏できるかどうか、また理論的な解釈で説明できるかどうか						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		講義・演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論(マイナー・メジャーペンタトニック)スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		講義・演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論(メジャースケール)スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		講義・演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論(マイナースケール)スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		講義・演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論(インターバル)スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		講義・演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ(コードストローク、ソロ)について復習する
7		講義・演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる (コードストローク、ソロ)	16ビート主体の曲に対するアプローチ(コードストローク、ソロ)について復習する
8		講義・演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する
9		講義・演習	シンコペーション(コードストローク、アルペジオ、ソロ)について演奏できる	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について復習する
10		講義・演習	ミュートと空ピッキング(メトロノームを使った様々な練習法について)について演奏できる	ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について復習する
11		講義・演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する
12		講義・演習	コードトーン(メジャー、マイナー)を基にしたフレーズの習得について演奏できる。主要四和音(トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる	コードトーン(メジャー、マイナー)を基にしたフレーズの習得について復習する。主要四和音(トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について復習する
13		講義・演習	コード進行の解析演奏できる(ダイアトニックとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析(ダイアトニックとコードアルペジオの関係性について)について復習する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A (1) (Bass Band Ensemble Style(1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	吉留昂佑
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	姉妹校を卒業後、様々な大型フェスやテレビ出演、CM、ゲーム音楽の録音などにベーシストとして参加。 小林太郎・SHOCK EYE(湘南乃風)など様々なアーティストに携わる。						
授業の学習 内容	ベーシストとしての基礎力・表現力を養う。						
到達目標	ベーシストとして活躍するためのステージング、アンサンブル力が身に付く。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		講義・演習	譜面の解説・読み方について演奏できる	譜面の解説・読み方について復習する
3		講義・演習	運指の方法を知り楽曲に活かすについて演奏できる。	運指の方法を知り楽曲に活かすについて復習する
4		講義・演習	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて演奏できる	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて復習する
5		講義・演習	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて演奏できる	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて復習する
6		講義・演習	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて演奏できる	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて復習する
7		講義・演習	ペンタトニックコードについて演奏できる	ペンタトニックコードについて復習する
8		講義・演習	音符の長さについて演奏できる	音符の長さについて復習する
9		講義・演習	8ビートの基本について演奏できる	8ビートの基本について演奏できる
10		講義・演習	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる
11		講義・演習	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる
12		講義・演習	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる。メジャー・マイナースケールについて演奏できる	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる。メジャー・マイナースケールについて演奏できる
13		講義・演習	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A (1) (Drum Band Ensemble Style(1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大久保 敦夫
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	高校在学中からレコーディングやセッションなどに参加し、現在に至る。 これまで、チューリップ、MULTIMAX、CHAGE&ASKA、永井真理子、沢田知可子、斉藤和義、甲斐バンド、高橋真梨子、徳永英明、中島みゆき、浜田省吾、長瀬剛、Kinki Kids、中西圭三、和田アキ子、西野カナなど数多くのレコーディングやコンサートツアーに参加。小唄一樹「小唄クンの おすましでSHOW」や、ブロードウェイミュージカル「RENT08～09」のステージオーケストラにも参加。						
授業の学習 内容	ドラムを演奏する上で必要な基礎的な技術、知識を学ぶ。 譜面の理解度をあげ様々なジャンルのアンサンブル力を養う。□						
到達目標	基礎的なスティックコントロールができる。譜面の読み書きができる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)を復習する
2		講義・演習	ドラム譜面の解説・読み方を説明できる	ドラム譜面の解説・読み方を復習する、
3		講義・演習	ドラム譜面の書き方を説明できる	ドラム譜面の書き方を復習する、
4		講義・演習	スティックの持ち方(マッチド・トラディショナル)を説明できる	スティックの持ち方(マッチド・トラディショナル)を復習する、
5		講義・演習	打楽器に触れる	打楽器を復習する、
6		講義・演習	正しい演奏フォームを説明できる	正しい演奏フォームを復習する、
7		講義・演習	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を説明できる	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を復習する、
8		講義・演習	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを説明できる	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを復習する、
9		講義・演習	8ビートの仕組み、理解し演奏できる。	8ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、
10		講義・演習	16ビートの仕組み、理解し演奏できる	16ビートの仕組み、理解し演奏を復習する、
11		講義・演習	ソロメイキングを学び演奏できる	ソロメイキングを学び演奏を復習する、
12		講義・演習	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏できる。シンコペーションを習得し演奏できる	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏を復習する。シンコペーションを習得し演奏を復習する
13		講義・演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A (1) (Keyboard Band Ensemble Style(1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	加藤エレナ
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	近藤房之助、MIYAVI、柴崎コウ、指田郁哉など、幅広いジャンルのサポートキーボーディスト、シンガーソングライターとして活躍。 Carlos Johnson、Rob Stone等、ブルースピアニストとして海外ミュージシャンのレコーディング、ツアーに多数参加。他、SUUMOやYKKAP、企業やTVドキュメンタリーの楽曲を制作している。						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。						
到達目標	楽譜の読み書きができる。ダイアトニックコードの成り立ちを理解しているなどの基礎的な理論、 キーボードの音が出せる、自分の好みの音色が使えるなどの実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)
2		講義・演習	楽譜の読み方 ト音を説明できる。	楽譜の読み方 ト音を復習する。
3		講義・演習	楽譜の読み方 ヘ音を説明できる。	楽譜の読み方 ヘ音を復習する
4		講義・演習	楽譜の書き方 音符を説明できる。	楽譜の書き方 音符を復習する。
5		講義・演習	楽譜の書き方 記号を説明できる。	楽譜の書き方 記号を復習する。
6		講義・演習	ダイアトニックコードを学び演奏できる。	ダイアトニックコードを復習する。
7		講義・演習	音色を変えてのコード学び演奏できる。	音色を変えてのコードを復習する。
8		講義・演習	コードアレンジ(和音の積み方)学び演奏できる。	コードアレンジ(和音の積み方を復習する。
9		講義・演習	音色を変えてのコードアレンジ学び演奏できる。	音色を変えてのコードアレンジを復習する。
10		講義・演習	オシレーターの説明学び演奏できる。	オシレーターの説明を復習する。
11		講義・演習	自分好みの音色を作り。演奏できる。	自分好みの音色を復習する。
12		講義・演習	コードトーン(メジャー、マイナー)基にしたフレーズの習得について演奏できる。主要四和音(トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる。	コードトーンを復習する。(メジャー、マイナー)を基にしたフレーズの習得について演奏できる。主要四和音を復習する。(トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる。
13		講義・演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A (2) (Vocal Band Ensemble Style(2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田原 佑一朗 相澤 ななみ 荒木 美帆
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ゴスペルグループSOULMATICのメンバーとして多くのアーティスト・ミュージシャンと共演し、音楽活動を行う。						
授業の学習 内容	国内外問わず、音楽業界で活躍していく為には、様々なジャンルの音楽を知り、各パートの奏法、リズム、表現方法、パフォーマンス等をアンサンブルを通して身に付ける必要があります。この授業では、2週続きで指定された課題曲を通して、音楽ジャンルや音楽の歴史を学びながら、ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのパートが合わさってアンサンブルを実践していきます。						
到達目標	バンド形態で歌うスキルや楽器演奏力を養う。 音楽でコミュニケーションが取れるようになる。 ジャンルの違いを理解し、リズム感や表現力、パフォーマンス力を身に付ける。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	90年代ロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	90'sRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。	
2		講義・演習	90年代ロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
3		講義・演習	コンテンポラリーロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ContemporaryRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。	
4		講義・演習	コンテンポラリーロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
5		講義・演習	コンテンポラリーポップの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ContemporaryPOPのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。	
6		講義・演習	コンテンポラリーポップの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
7		講義・演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。	
8		講義・演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。	
9		講義・演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。	
10		講義・演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。	
11		講義・演習	数十バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。	
12		講義・演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。	
13		講義・演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。テストと復習	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。1~13をまとめてレポート作成。	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			課題曲の復習と予習をしっかりと行う。バンド練習を行い、制作物やアー写、撮影など自主的に行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Band Ensemble A (2) (Guitar Band Ensemble Style (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	クリス・ ジャーガン セン
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	18歳でロックバンド、ストライカーの一員として全米ツアーを展開。Jeff Beckのトリビュートアルバムへの参加やmiwaのサポートなど幅広く活躍し、世界的に高い評価を受けている。						
授業の学習 内容	コードルとモーダルについて理解し、コードの分解と着地について理解を深める。						
到達目標	講師に提示された譜面を初見で演奏し、アドリブで演奏できるか。また理論的な解釈で説明できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)
2		講義・演習	ダイアトニックとチャーチモードの関係性について説明できる。	ダイアトニックとチャーチモードの関係性を復習する。
3		講義・演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (チャーチモード/ドリアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (チャーチモード/ドリアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得
4		講義・演習	演奏における音楽理論 (チャーチモード/フリジアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (チャーチモード/フリジアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得
5		講義・演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (チャーチモード/リディアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (チャーチモード/リディアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得
6		講義・演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (チャーチモード/ミクソリディアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (チャーチモード/ミクソリディアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得
7		講義・演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (チャーチモード/ロクリアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (チャーチモード/ロクリアンスケール) スケールを基にしたフレーズの習得
8		講義・演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (メロディックマイナースケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (メロディックマイナースケール) スケールを基にしたフレーズの習得
9		講義・演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (ハーモニックマイナースケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (ハーモニックマイナースケール) スケールを基にしたフレーズの習得
10		講義・演習	演奏における音楽理論について説明できる。 (ディミニッシュスケール) スケールを基にしたフレーズの習得	演奏における音楽理論を復習する。 (ディミニッシュスケール) スケールを基にしたフレーズの習得
11		講義・演習	ノンダイアトニックコードについて説明できる。	ノンダイアトニックコードを復習する。
12		講義・演習	コードの分解と着地について説明できる。 アドリブ/モーダルとコードルについて説明できる。	コードの分解と着地を復習する。 アドリブ/モーダルとコードルを復習する。
13		講義・演習	リズムメソッドについて説明できる。 講師の提示する楽譜でアドリブ演奏について説明できる。	リズムメソッドを復習する。 講師の提示する楽譜を復習する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A (2) (Bass Band Ensemble Style(2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	吉留昂佑
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	姉妹校を卒業後、様々な大型フェスやテレビ出演、CM、ゲーム音楽の録音などにベーシストとして参加。 小林太郎・SHOCK EYE(湘南乃風)など様々なアーティストに携わる。						
授業の学習 内容	アンサンブルを行うのに必要な基礎力を身につけ、家譜代楽曲を使用し、表現力を養う。						
到達目標	アンサンブルという音でのコミュニケーションを通して、自分を表現できる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		講義・演習	ポップスの基礎的な演奏方法を習得し演奏する。	ポップスの基礎的な演奏方法を復習する。
3		講義・演習	裏拍を理解し、グルーヴを理解し演奏する。	裏拍を理解し、グルーヴを復習する。
4		講義・演習	R&Bの基礎的な演奏方法を習得し演奏する。	R&Bの基礎的な演奏方法を復習する。
5		講義・演習	ソロのフレーズメイキングを習得し演奏する。	ソロのフレーズメイキングを復習する。
6		講義・演習	ペントニックコードを習得し演奏する。	ペントニックコードを復習する。
7		講義・演習	オンタイム・前ノリ・後ろノリを習得し演奏する。	オンタイム・前ノリ・後ろノリを復習する。
8		講義・演習	アンサンブル内での効果的な演奏方法を課題曲を習得し演奏する。	アンサンブル内での効果的な演奏方法を課題曲を復習する。
9		講義・演習	スラップの奏法、効果を習得し演奏する。	スラップの奏法、効果を復習する。
10		講義・演習	ベースのコード引きを習得し演奏する。	ベースのコード引きを復習する。
11		講義・演習	ベースのコード引きを習得し演奏する。	ベースのコード引きを復習する。
12		講義・演習	DAWの利点を習得し演奏する。 DAWを習得し演奏する。	DAWの利点を復習する。 DAWを復習する。
13		講義・演習	LIVEを想定した音作り、パフォーマンスを習得し演奏する。	LIVEを想定した音作り、パフォーマンスを復習する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A (2) (Drum Band Ensemble Style(2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大久保 敦夫
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	高校在学中からレコーディングやセッションなどに参加し、現在に至る。 これまで、チューリップ、MULTIMAX、CHAGE&ASKA、永井真理子、沢田知可子、斉藤和義、甲斐バンド、高橋真梨子、徳永英明、中島みゆき、浜田省吾、長瀬剛、KinKi Kids、中西圭三、和田アキ子、西野カナなど数多くのレコーディングやコンサートツアーに参加。小塚一樹「小塚クンのおすましでSHOW」や、ブロードウェイミュージカル「RENT08～09」のステージオーケストラにも参加。						
授業の学習 内容	様々なジャンルのリズムを学ぶ。実践を想定しての効果的な演奏を習得。 電子機器の使用を習得。						
到達目標	様々なリズムの習得。DAWを使用したLIVEの実施。 電子ドラムの扱いを習得。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		講義・演習	JAZZのフィールを習得し演奏する。	JAZZのフィールを復習する。
3		講義・演習	コンビネーションfillの構築を習得し演奏する。	コンビネーションfillの構築を復習する。
4		講義・演習	サンバ・ボサノバ・レゲエを習得し演奏する。	サンバ・ボサノバ・レゲエを復習する。
5		講義・演習	ブラシの使用方法を習得し演奏する。	ブラシの使用方法を復習する。
6		講義・演習	アンサンブルの理解、実践を習得し演奏する。	アンサンブルの理解、実践を復習する。
7		講義・演習	ドラムのサウンドとアンサンブルを習得し演奏する。	ドラムのサウンドとアンサンブルを復習する。
8		講義・演習	電子ドラムの実践的な使用方法を習得し演奏する。	電子ドラムの実践的な使用方法を復習する。
9		講義・演習	コンガ・ボンゴ等のアンサンブルを習得し演奏する。	コンガ・ボンゴ等のアンサンブルを復習する。
10		講義・演習	楽器のメンテナンスとその効果を習得し演奏する。	楽器のメンテナンスとその効果を復習する。
11		講義・演習	DAWを使用時のドラミングを習得し演奏する。	DAWを使用時のドラミングを復習する。
12		講義・演習	DAWの実践的なアンサンブルを習得し演奏する。	DAWの実践的なアンサンブルを復習する。
13		講義・演習	LIVEを想定時のステージングを習得し演奏する。DAWを使用時のドラミングを習得し演奏する。	LIVEを想定時のステージングを復習する。DAWを使用時のドラミングを復習する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble A (2) (Keyboard Band Ensemble Style(2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	加藤エレナ
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	近藤房之助、MIYAVI、柴崎コウ、指田郁哉など、幅広いジャンルのサポートキーボーディスト、シンガーソングライターとして活躍。 Calros Johnson、Rob Stone等、ブルースピアニストとして海外ミュージシャンのレコーディング、ツアーに多数参加。他、SUUMOやYKKAP、企業やTVドキュメンタリーの楽曲を制作している。						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。 ダイアトニック以外のコードや、スケールなどより実践的なものを行う。						
到達目標	ダイアトニックコード以外のコードを理解しアレンジなどの理解力を高める。 演奏面ではボイスンギスを変更しよりプロフェッショナルな演奏力をつける。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		講義・演習	M7、7コードの成り立ちを習得し演奏する。	M7、7コードの成り立ちを復習する。
3		講義・演習	m7、m9コードの成り立ちを習得し演奏する。	m7、m9コードの成り立ちを復習する。
4		講義・演習	dim,augコードの成り立ちを習得し演奏する。	dim,augコードの成り立ちを復習する。
5		講義・演習	ダイアトニックスケールを習得し演奏する。	ダイアトニックスケールを復習する。
6		講義・演習	ナチュラル、メロディック、ハーモニックマイナースケールを習得し演奏する。	ナチュラル、メロディック、ハーモニックマイナースケールを復習する。
7		講義・演習	1oct soloを習得し演奏する。	1oct soloを復習する。
8		講義・演習	1oct solo+バックギンを習得し演奏する。	1oct solo+バックギンを復習する。
9		講義・演習	2oct soloを習得し演奏する。	2oct soloを復習する。
10		講義・演習	2oct solo+バックギンを習得し演奏する。	2oct solo+バックギンを復習する。
11		講義・演習	midiを使つての演奏課題曲の楽譜作成を習得し演奏する。	midiを使つての演奏課題曲の楽譜作成を復習する。
12		講義・演習	1oct soloを習得し演奏する。 1oct solo+バックギンを習得し演奏する。	1oct soloを復習する。 1oct solo+バックギンを復習する。
13		講義・演習	2oct soloを習得し演奏する。 2oct solo+バックギンを習得し演奏する。	2oct soloを復習する。 2oct solo+バックギンを復習する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Band Ensemble B (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	相澤 ななみ 荒木 美帆
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ゴスペルグループSOULMATICのメンバーとして多くのアーティスト・ミュージシャンと共演し、音楽活動を行う。						
授業の学習 内容	国内外問わず、音楽業界で活躍していく為には、様々なジャンルの音楽を知り、各パートの奏法、リズム、表現方法、パフォーマンス等をアンサンブルを通して身に付ける必要があります。この授業では、2週続きで指定された課題曲を通して、音楽ジャンルや音楽の歴史を学びながら、ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのパートが合わさってアンサンブルを実践していきます。						
到達目標	バンド形態で歌うスキルや楽器演奏力を養う。 音楽でコミュニケーションが取れるようになる。 ジャンルの違いを理解し、リズム感や表現力、パフォーマンス力を身に付ける。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	バンドアンサンブルについての概要説明、ブルースの成り立ちや歴史を学び、ブルースを演奏する必要性を理解する。	授業で学んだブルースについて復習し、理解を深める。	
2		講義・演習	ブルースの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ブルースのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。	
3		講義・演習	ブルースの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
4		講義・演習	モータウンの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	モータウンのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。	
5		講義・演習	モータウンの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
6		講義・演習	ソウルの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ソウルのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。	
7		講義・演習	ソウルの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
8		講義・演習	ファンクの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ファンクのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。	
9		講義・演習	ファンクの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
10		講義・演習	70年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	70'sClassicRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。	
11		講義・演習	70年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
12		講義・演習	80年代クラシックロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	80'sClassicRockのリズムや進行について復習し理解課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。	
13		講義・演習	中間発表。課題曲の中から選択した曲をステージでパフォーマンスする。テストと復習	実際のステージで演奏することにより気づいた部分を反省し、弱点克服に向けて練習をする。 1'14をまとめてレポート作成	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			課題曲の復習と予習をしっかりと行う。各ジャンルの課題曲以外の曲もたくさん聞く。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Band Ensemble B (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	相澤 ななみ 荒木 美帆
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ゴスペルグループSOULMATICのメンバーとして多くのアーティスト・ミュージシャンと共演し、音楽活動を行う。						
授業の学習 内容	国内外問わず、音楽業界で活躍していく為には、様々なジャンルの音楽を知り、各パートの奏法、リズム、表現方法、パフォーマンス等をアンサンブルを通して身に付ける必要があります。この授業では、2週続きで指定された課題曲を通して、音楽ジャンルや音楽の歴史を学びながら、ヴォーカル、ギター、ベース、ドラム、キーボードのパートが合わさってアンサンブルを実践していきます。						
到達目標	バンド形態で歌うスキルや楽器演奏力を養う。 音楽でコミュニケーションが取れるようになる。 ジャンルの違いを理解し、リズム感や表現力、パフォーマンス力を身に付ける。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	90年代ロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	90'sRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。	
2		講義・演習	90年代ロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
3		講義・演習	コンテンポラリーロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ContemporaryRockのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。	
4		講義・演習	コンテンポラリーロックの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
5		講義・演習	コンテンポラリーポップの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	ContemporaryPOPのリズムや進行について復習し理解を深め、課題曲を聞き、各パートの演奏力向上を図る。	
6		講義・演習	コンテンポラリーポップの曲を題材にしてアンサンブルを実践する。	課題曲を聞き、練習して各パートの演奏力向上を図る。次週の予習もしておく。	
7		講義・演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。	
8		講義・演習	バンドを組み、担当曲を決めてアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。	
9		講義・演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。	
10		講義・演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。	
11		講義・演習	数十バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。	
12		講義・演習	発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。	PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。 バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。	
13		講義・演習	発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。テストと復習	最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。1~14をまとめてレポート作成。	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			課題曲の復習と予習をしっかりと行う。バンド練習を行い、制作物やアー写、撮影など自主的に行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Inst Ensemble A (1) (Guitar Inst Ensemble Style(1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	城石 真臣
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	2011年にearthmindのメンバーとして「機動戦士ガンダムUC」の主題歌でメジャーデビュー。現在は様々なアーティストのレコーディングやライブサポート、専門学校の講師を務めている。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		講義・演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		講義・演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		講義・演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		講義・演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		講義・演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		講義・演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		講義・演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		講義・演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		講義・演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		講義・演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		講義・演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践するための解説・練習、ボサノバの基本パターンを解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		講義・演習	2～12週で習った課題曲を復習。実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble A (1) (Bass Inst Ensemble Style(1))	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	遠藤敬三
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	"松原ミキ""北島健二""マリーヌ""池田聡""楠瀬清志郎""オズニー・メロ"等、その他数多くのアーティスト達の、ツアー&レコーディングミュージシャンとして40年以上活動する。						
授業の学習 内容	スタンダードなサンプル曲を通して基本的なビートとフィール(ジャンル)を体感し、アンサンブルにおけるコミュニケーション(アイコンタクトなど)やハブニングなどへの対処法を教授する。またコード進行をアナライズすることによりスケールへの理解を深め、ソロに対する自己研究課題へ繋げることを促す。						
到達目標	インストゥルメンタル(楽器のみ)の演奏することでアンサンブルの基本的な姿勢(コミュニケーションなど)とスタンダードなリズム、フィール(ジャンル)を習得する事を目的とする。 他の楽器を聴き分ける力や即興演奏力を身に付けることにより、楽曲に対する幅広い対応力を得ることを目標とする。						
評価方法と基準	出席率と成長度						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	簡単なコード進行でストレート8ビート。解説と演習をする。	Week1の配布音源にて練習と未達成箇所の復習
2		講義・演習	簡単なコード進行でストレート8ビート。解説と演習をする。	Week1配布音源にて練習と未達成箇所の復習。Week2の予習。
3		講義・演習	12小節ブルース進行でストレート8ビート。解説と演習をする。	Week2の配布音源にて練習と未達成箇所の復習
4		講義・演習	12小節ブルース進行でストレート8ビート。解説と演習をする。	Week2配布音源にて練習と未達成箇所の復習。Week3の予習。
5		講義・演習	12小節ブルース進行でスウィング8ビート。解説と演習をする。	Week3の配布音源にて練習と未達成箇所の復習
6		講義・演習	12小節ブルース進行でスウィング8ビート。解説と演習をする。	Week3配布音源にて練習と未達成箇所の復習。Week4の予習。
7		講義・演習	8小節ブルース進行でスウィング8ビート。解説と演習をする。	Week4の配布音源にて練習と未達成箇所の復習
8		講義・演習	8小節ブルース進行でスウィング8ビート。解説と演習をする。	Week4配布音源にて練習と未達成箇所の復習。Week5の予習。
9		講義・演習	シンコペーションをテーマにしたストレート8ビート。解説と演習をする。	Week5の配布音源にて練習と未達成箇所の復習
10		講義・演習	シンコペーションをテーマにしたストレート8ビート。解説と演習をする。	Week5配布音源にて練習と未達成箇所の復習。Week6の予習。
11		講義・演習	分数コードとシンコペーションをテーマにしたストレート8ビート。解説と演習をする。	Week6の配布音源にて練習と未達成箇所の復習
12		講義・演習	分数コードとシンコペーションをテーマにしたストレート8ビート。解説と演習をする。	Week6配布音源にて練習と未達成箇所の復習。Week7の予習。
13		講義・演習	簡単なコード進行でレゲエ・フィールを解説と演習をする。	Week7の配布音源にて練習と未達成箇所の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble A (1) (Drum Inst Ensemble Style(1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	小寺 良太
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	1997年よりバンド「メロディオンス」のメンバーとして活動しながらサポートドラム、ドラムチューナーとしての活動を開始。バンド脱退後も様々なアーティストのサポート、レコーディング、ドラムテックとして活動中。2010年からは後進指導のため、ドラム講師も務める。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		講義・演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		講義・演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		講義・演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		講義・演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		講義・演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		講義・演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		講義・演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		講義・演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		講義・演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		講義・演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		講義・演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践するための解説・練習、ボサノバの基本パターンを解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		講義・演習	2～12週で習った課題曲を復習。実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble A (1) (Keyboard Inst Ensemble Style(1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	加藤エレナ
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	近藤房之助、MIYABI、柴崎コウ、指田郁哉など、幅広いジャンルのサポートキーボーディスト、シンガーソングライターとして活躍。 Calros Johnson、Rob Stone等、ブルースピアニストとして海外ミュージシャンのレコーディング、ツアーに多数参加。他、SUUMOやYKKAP、企業やTVドキュメンタリーの楽曲を制作している。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、 個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、 インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論 を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けるこ とを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		講義・演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		講義・演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		講義・演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		講義・演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		講義・演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		講義・演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		講義・演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		講義・演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		講義・演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		講義・演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		講義・演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践するための解説・練習、ボサノバの基本パターンを解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		講義・演習	2～12週で習った課題曲を復習。実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble A (2) (Guitar Inst Ensemble Style(2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	城石 真臣
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	2011年にearthmindのメンバーとして「機動戦士ガンダムUC」の主題歌でメジャーデビュー。現在は様々なアーティストのレコーディングやライブサポート、専門学校の講師を務めている。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーブ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーブを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
2		講義・演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
3		講義・演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
4		講義・演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
5		講義・演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
6		講義・演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
7		講義・演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
8		講義・演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
9		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
10		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
11		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
12		講義・演習	2～13週で習った課題曲の復習、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
13		講義・演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Inst Ensemble A (2) (Bass Inst Ensemble Style(2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤 敬三
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーン、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
2		講義・演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
3		講義・演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
4		講義・演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
5		講義・演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
6		講義・演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
7		講義・演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
8		講義・演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
9		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
10		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
11		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
12		講義・演習	2～13週で習った課題曲の復習、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
13		講義・演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Inst Ensemble A (2) (Drum Inst Ensemble Style(2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	小寺 良太
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	1997年よりバンド「メロディオンズ」のメンバーとして活動しながらサポートドラム、ドラムチューナーとしての活動を開始。バンド脱退後も様々なアーティストのサポート、レコーディング、ドラムテックとして活動中。2010年からは後進指導のため、ドラム講師も務める。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーブ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーブを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
2		講義・演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
3		講義・演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
4		講義・演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
5		講義・演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
6		講義・演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
7		講義・演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
8		講義・演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
9		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
10		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
11		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
12		講義・演習	2～13週で習った課題曲の復習、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
13		講義・演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Inst Ensemble A (2) (Keyboard Inst Ensemble Style(2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	加藤エレナ
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	近藤房之助、MIYAVI、柴崎コウ、指田郁哉など、幅広いジャンルのサポートキーボーディスト、シンガーソングライターとして活躍。 Calros Johnson、Rob Stone等、ブルースピアニストとして海外ミュージシャンのレコーディング、ツアーに多数参加。他、SUUMOやYKKAP、企業やTVドキュメンタリーの楽曲を制作している。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、 個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、 インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論 を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けるこ とを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
2		講義・演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
3		講義・演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
4		講義・演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
5		講義・演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
6		講義・演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
7		講義・演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
8		講義・演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
9		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
10		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
11		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
12		講義・演習	2～13週で習った課題曲の復習、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
13		講義・演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Inst Ensemble B（1）	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤 敬 三
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリン、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		講義・演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践する。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		講義・演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践する。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		講義・演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践する。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		講義・演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践する。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		講義・演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解する。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		講義・演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践する。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		講義・演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		講義・演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		講義・演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		講義・演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		講義・演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践する。ボサノバの基本パターンをアンサンブルを通して習得する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		講義・演習	2～12週で習った課題曲をさらい、前期の総まとめのアンサンブルを実践する。実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble B (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	遠藤 敬 三
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーン、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
評価方法と基準	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
2		講義・演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
3		講義・演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
4		講義・演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		講義・演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
6		講義・演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
7		講義・演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
8		講義・演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
9		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
10		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
11		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
12		講義・演習	2～13週で習った課題曲をさらい、前期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
13		講義・演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Gospel Ensemble(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	池末信
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	1991年以降、ゴスペルグループ「THE SOULMATICS」の代表として数々のアーティストのレコーディングやツアーに参加。作編曲家・ボイストレーナーとしても幅広く活動。						
授業の学習 内容	世界を代表するミュージシャンの多くが基盤に置く、ニグロスピリチュアル(黒人霊歌)のコンテンポラリーゴスペル(近代的なゴスペル)を中心に、オーセンティック(本格的)なゴスペルのサウンドを作る為の声、歌、グループ、リズム、パフォーマンス、表現、心その全てからグローバル基準で学ぶ。 また、選択理論、NLP(神経言語プログラミング)、プレイフルラーニング・シンキング、GRIT、メディテーションなどのワークを実践し、学ぶ上での精神衛生を整えること、学ぶ上での環境を全員でデザインすること、仲間を思いやり相乗効果を高める最大のWIN-WINを仲間との関係に産むこと、ワクワクすることなどを学び得る。						
到達目標	「上記学習内容が自分にとってプラスに働く」「上記内容が自分自身を自由にさせる」「この学びの先に本物になれる」それらを体感し信じれること。”□						
評価方法と基準	筆記又は実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	説明、NLPワーク、新曲2曲レクチャー	課題曲予習
2		講義・演習	メディテーションワーク、2曲復習、新曲1曲	楽曲復習、学びの振り返り
3		講義・演習	3曲復習、新曲1曲、1曲パフォーマンス	楽曲復習、学びの振り返り
4		講義・演習	楽曲復習、パフォーマンスレクチャー	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習
5		講義・演習	楽曲復習、パフォーマンスレクチャー	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習
6		講義・演習	3曲新曲、選択理論ワーク	楽曲復習、学びの振り返り
7		講義・演習	3曲復習、新曲1曲、クラス内パフォーマンス	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習
8		講義・演習	3曲復習、新曲1曲、クラス内パフォーマンス	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習
9		講義・演習	プレイフルワーク、楽曲復習	楽曲復習、学びの振り返り
10		講義・演習	楽曲復習、新曲レクチャー	楽曲復習、学びの振り返り
11		講義・演習	楽曲復習、新曲レクチャー	楽曲復習、学びの振り返り
12		講義・演習	楽曲復習、ケイティワーク	楽曲復習、学びの振り返り
13		講義・演習	新曲レクチャー	楽曲復習、学びの振り返り
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Gospel Ensemble (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	池末信
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	1991年以降、ゴスペルグループ「THE SOULMATICS」の代表として数々のアーティストのレコーディングやツアーに参加。作編曲家・ボイストレーナーとしても幅広く活動。						
授業の学習 内容	世界を代表するミュージシャンの多くが基盤に置く、ニグロスピリチュアル(黒人霊歌)のコンテンポラリーゴスペル(近代的なゴスペル)を中心に、オーセンティック(本格的)なゴスペルのサウンドを作る為の声、歌、グループ、リズム、パフォーマンス、表現、心その全てからグローバル基準で学ぶ。 また、選択理論、NLP(神経言語プログラミング)、プレイフルラーニング・シンキング、GRIT、メディテーションなどのワークを実践し、学ぶ上での精神衛生を整えること、学ぶ上での環境を全員でデザインすること、仲間を思いやり相乗効果を高める最大のWIN-WINを仲間との関係に産むこと、ワクワクすることなどを学び得る。						
到達目標	「上記学習内容が自分にとってプラスに働く」「上記内容が自分自身を自由にさせる」「この学びの先に本物になれる」それらを体感し信じれること。						
評価方法と基準	筆記又は実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	選択理論ワーク、新曲3曲レクチャー	前期の振り返り
2		講義・演習	楽曲復習	楽曲復習、学びの振り返り
3		講義・演習	楽曲復習	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習
4		講義・演習	新曲2曲レクチャー、パフォーマンスレクチャー	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習
5		講義・演習	楽曲復習、動き復習	楽曲復習、学びの振り返り
6		講義・演習	ケイティワーク、2曲新曲	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習
7		講義・演習	楽曲復習、動き復習	楽曲復習、学びの振り返り
8		講義・演習	楽曲復習	楽曲復習、学びの振り返り
9		講義・演習	新曲2曲レクチャー、楽曲復習	楽曲復習、学びの振り返り
10		講義・演習	We Areリハーサル演習	楽曲復習、学びの振り返り
11		講義・演習	We Areリハーサル演習	楽曲復習、学びの振り返り
12		講義・演習	We Areリハーサル演習	楽曲復習、学びの振り返り
13		講義・演習	総復習	楽曲復習、学びの振り返り
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	DTM (1) (DTM Basic (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	湯汲 哲也
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	2002年 大阪スクールオブミュージック専門学校を卒業後、2003年からレコード会社avexの専属作曲家として、浜崎あゆみ、ももクロ、96猫、などの様々なアーティストに楽曲提供をしている。 またテレビ番組やCMの作曲、UUUM所属のYoutuber、東海オンエア、アバンティーズ、JENNI etc.への楽曲提供&プロデュースなど幅広く活動している。						
授業の学習 内容	DAWソフト Apple GarageBand、Logic Proの基本的な使用技術から応用までを学習する。						
到達目標	・MIDI入力(打ち込み)をスピーディーに行えるようになる。 ・Logic内蔵プラグインと音源の基本的な使用法をマスターする。 ・基本的なミキシング技術を身につける。 ・Logicに用意されている様々な機能を理解し、実際の曲作りの中で役立てるようになる。						
評価方法と基準	定期テスト(実技試験:100%) 楽曲のクオリティ:70% ミキシングのバランス:30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Macの起動から使い方の学習とLogicの起動	授業内容の復習
2		講義・演習	Logicに用意されている各編集画面の名称や機能の説明	授業内容の復習
3		講義・演習	ループ素材(Apple Loops)を使用したトラック制作1	授業内容の復習と配布したデータの整理
4		講義・演習	ループ素材(Apple Loops)を使用したトラック制作2	授業内容の復習と配布したデータの整理
5		講義・演習	Drummerについて学習	Drummerについて復習
6		講義・演習	Live Loopsについて学習	授業内容の復習と配布したデータの整理
7		講義・演習	これまでに学んだ内容を実施して1コーラス楽曲制作	他の学生が制作した楽曲も参考にする
8		講義・演習	オートメーションを学習	オートメーションの仕組みを復習
9		講義・演習	ミキサー画面について学習	ミキサー画面の使い方を復習
10		講義・演習	ムービーをLogicに読み込んだ映像音楽の制作	授業内容の復習と配布したデータの整理
11		講義・演習	オーディオ・レコーディング実習	授業内容の復習と録音したデータの整理
12		講義・演習	前回の授業でレコーディングした素材のエディットと修正。テイクのコンピング作業	授業内容の復習と配布したデータの整理
13		講義・演習	1コーラス楽曲制作	試験対策・復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	DTM (1) (DTM Advance (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	湯汲 哲也
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	2002年 大阪スクールオブミュージック専門学校を卒業後、2003年からレコード会社avexの専属作曲家として、浜崎あゆみ、ももクロ、96猫、などの様々なアーティストに楽曲提供をしている。 またテレビ番組やCMの作曲、UUUM所属のYoutuber、東海オンエア、アバンティーズ、JENNI etc.への楽曲提供&プロデュースなど幅広く活動している。						
授業の学習 内容	DAWソフト Apple Logic Proの実践的な使用法を学習。						
到達目標	・Logicでの作曲からミキシング作業をスピーディーかつ的確に行えるようになる。 ・制作した楽曲により一層磨きをかけ、仕事で納品できるクオリティに仕上げれる。 ・クリエイターとして必須となっているミキシング技術を習得する。 ・Logicに用意されている様々な機能やプラグインを実践的に使いこなし、プロの現場で役立てるようになる。						
評価方法と基準	定期テスト(実技試験:100%) 楽曲のクオリティ: 70% ミキシングのバランス: 30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ショートカットのカスタム。ワークフローに適したスクリーンセットの作成。	授業内容の復習
2		講義・演習	Drummerをパラアウト設定しキック、スネア、ハイハットなど個別のプラグイン処理を行う	授業内容の復習
3		講義・演習	Flexを使用したピッチ修正とタイミング補正1	授業内容の復習
4		講義・演習	Flexを使用したピッチ修正とタイミング補正2	授業内容の復習
5		講義・演習	オートメーションの活用1	授業内容の復習
6		講義・演習	オートメーションの活用2	授業内容の復習
7		講義・演習	コンプレッサーなどダイナミクス系プラグインの学習1	授業内容の復習
8		講義・演習	コンプレッサーなどダイナミクス系プラグインの学習2	授業内容の復習
9		講義・演習	イコライザーの学習	授業内容の復習
10		講義・演習	オーディオ・レコーディング実習	授業内容の復習と録音したデータの整理
11		講義・演習	オーディオ・レコーディング実習2。レコーディングしたテイクのコンピング作業	授業内容の復習と録音したデータの整理
12		講義・演習	試験データの配布。データを取り込んでの事前準備	配布したデータの確認と整理
13		講義・演習	1コーラス楽曲制作	試験対策・復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	DTM (2) (DTM Basic (2))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	湯汲 哲也
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	2002年 大阪スクールオブミュージック専門学校を卒業後、2003年からレコード会社avexの専属作曲家として、浜崎あゆみ、ももクロ、96猫、などの様々なアーティストに楽曲提供をしている。 またテレビ番組やCMの作曲、UUUM所属のYoutuber、東海オンエア、アバンティーズ、JENNI etc.への楽曲提供&プロデュースなど幅広く活動している。						
授業の学習 内容	DAWソフト Apple Logic Proの実践的な使用法を学習。						
到達目標	・Logicでの作曲からミキシング作業をスピーディーかつ的確に行えるようになる。 ・制作した楽曲により一層磨きをかけ、仕事で納品できるクオリティに仕上げれる。 ・クリエイターとして必須となっているミキシング技術を習得する。 ・Logicに用意されている様々な機能やプラグインを実践的に使いこなし、プロの現場で役立てるようになる。						
評価方法と基準	定期テスト(実技試験:100%) 楽曲のクオリティ: 70% ミキシングのバランス: 30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ピアノロールウインドウを使用した打ち込み	授業内容の復習
2		講義・演習	ステップシーケンサーを使用した打ち込み	授業内容の復習
3		講義・演習	Logic内蔵音源について学習1	授業内容の復習
4		講義・演習	Logic内蔵音源について学習2	授業内容の復習
5		講義・演習	Logic内蔵プラグインについて学習1	授業内容の復習
6		講義・演習	Logic内蔵プラグインについて学習2	授業内容の復習
7		講義・演習	オートメーションを学習(応用編)	授業内容の復習
8		講義・演習	ミキシングの学習。既存曲のデータを使用し てのミックス実習1	授業内容の復習と配布したデータの整理
9		講義・演習	ミキシングの学習。既存曲のデータを使用し てのミックス実習2	授業内容の復習と配布したデータの整理
10		講義・演習	Flexを使用したピッチ修正	授業内容の復習と配布したデータの整理
11		講義・演習	Drummerをパラアウト設定しキック、スネア、 ハイハットなど個別のプラグイン処理を行う	授業内容の復習
12		講義・演習	ショートカットのカスタム。ワークフローに適し たスクリーンセットの作成	授業内容の復習
13		講義・演習	1コーラス楽曲制作	試験対策・復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	DTM (2) (DTM Advance (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	湯汲 哲也
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	2002年 大阪スクールオブミュージック専門学校を卒業後、2003年からレコード会社avexの専属作曲家として、浜崎あゆみ、ももクロ、96猫、などの様々なアーティストに楽曲提供をしている。 またテレビ番組やCMの作曲、UUUM所属のYoutuber、東海オンエア、アバンティーズ、JENNI etc.への楽曲提供&プロデュースなど幅広く活動している。						
授業の学習 内容	DAWソフト Apple Logic Proの実践的な使用法を学習。						
到達目標	・Logicでの作曲からミキシング作業をスピーディーかつ的確に行えるようになる。 ・制作した楽曲により一層磨きをかけ、仕事で納品できるクオリティに仕上げれる。 ・クリエイターとして必須となっているミキシング技術を習得する。 ・Logicに用意されている様々な機能やプラグインを実践的に使いこなし、プロの現場で役立てるようになる。						
評価方法と基準	定期テスト(実技試験:100%) 楽曲のクオリティ:70% ミキシングのバランス:30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ドラムトラックのトリガー	授業内容の復習と配布したデータの確認、整理
2		講義・演習	オーディオのタイムストレッチ、波形編集1	授業内容の復習と配布したデータの確認、整理
3		講義・演習	オーディオのタイムストレッチ、波形編集2	授業内容の復習と配布したデータの確認、整理
4		講義・演習	オーディオデータの位相について	授業内容の復習と配布したデータの確認、整理
5		講義・演習	MIDIトラックをオーディオに変換	授業内容の復習と配布したデータの確認、整理
6		講義・演習	トラックのグループ化とフォルダについて	授業内容の復習と配布したデータの確認、整理
7		講義・演習	サイドチェーンの学習	授業内容の復習と配布したデータの確認、整理
8		講義・演習	Live Loopsについて学習	授業内容の復習と配布したデータの確認、整理
9		講義・演習	映像データをLogicに取り込んだの楽曲制作	授業内容の復習と配布したデータの確認、整理
10		講義・演習	ミックスについて学習	授業内容の復習と配布したデータの確認、整理
11		講義・演習	ミックスとマスタリングについて学習	授業内容の復習と配布したデータの確認、整理
12		講義・演習	各配信サイトのラウドネスノーマライゼーションについて学習	授業内容の復習と配布したデータの確認、整理
13		講義・演習	1コーラス楽曲制作とミックス作業	試験対策・復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Freestyle A (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	岩崎 浩太郎
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	数々のアーティストのバックダンサーとしてツアーなどのライブ、ミュージックビデオ、イベント、音楽番組に多数出演。インストラクターとしても定評があり全国の高校、大学、専門学校、スタジオ、ジム、その他イベントでダンスレッスンをを行っている。						
授業の学習 内容	●踊るための体作り(ストレッチ、軸作り、ボディコントロール) ●様々な体の使い方や技を学ぶ ●音に合わせて自由に踊る ●コンビネーション(振り)を踊る ●業界やそれぞれの道で何が必要とされるか講義と実技 ●助言や生徒同士の意見から自分を見つめ自分を知る作業						
到達目標	●踊り全般に通用する体を作る ●音楽を聴く事、音楽をきいて自然と体を動かす事に慣れる ●自分の理想通り踊れるようにする(自分が気持ちよく踊ると同時に客観的に見て理想の形に近づくように) ●仕事の出来る人間、人から仕事を与えたいと思われる人間になる。●体全体が1つに繋がった感覚を身につける ●踊りや体型、人間性も含め自分を知る						
評価方法と基準	出席率40%、授業姿勢&取り組み方40%、定期テスト20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介、レベルチェック	自己紹介、レベルチェック
2		講義・演習	基礎的な体の使い方や動作の説明&練習。コンビネーション	確認動画でチェックする。
3		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、場ミリを意識したコンビネーション	確認動画でチェックする。
4		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
5		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
6		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
7		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
8		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
9		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
10		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
11		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールのチェック、コンビネーション	確認動画でチェックする。
12		講義・演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
13		講義・演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ミュージカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Freestyle A (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	岩崎 浩太郎
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	数々のアーティストのバックダンサーとしてツアーなどのライブ、ミュージックビデオ、イベント、音楽番組に多数出演。インストラクターとしても定評があり全国の高校、大学、専門学校、スタジオ、ジム、その他イベントでダンスレッスンをを行っている。						
授業の学習 内容	●踊るための体作り(ストレッチ、軸作り、ボディコントロール) ●様々な体の使い方や技を学ぶ ●音に合わせて自由に踊る ●コンビネーション(振り)を踊る ●業界やそれぞれの道で何が必要とされるか講義と実技 ●助言や生徒同士の意見から自分を見つめ自分を知る作業						
到達目標	●踊り全般に通用する体を作る ●音楽を聴く事、音楽をきいて自然と体を動かす事に慣れる ●自分の理想通り踊れるようにする(自分が気持ちよく踊ると同時に客観的に見て理想の形に近づくように) ●仕事の出来る人間、人から仕事を与えたいと思われる人間になる。●体全体が1つに繋がった感覚を身につける ●踊りや体型、人間性も含め自分を知る						
評価方法と基準	出席率40%、授業姿勢&取り組み方40%、定期テスト20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎的な体の使い方や動作の説明&練習。 それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
2		講義・演習	基礎的な体の使い方や動作の説明&練習。 それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
3		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
4		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
5		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
6		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
7		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
8		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
9		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
10		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
11		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールのチェック、コンビネーション	確認動画でチェックする。
12		講義・演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
13		講義・演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ミュージカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	CPM Ensemble Style&Analysis (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	クリス・ ジャーガン セン
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	世界三大ギタリストの一人であるJEFF BECKのトリビュートアルバムへの参加など、数多くの世界的プレイヤーとのセッション、レコーディング等でギタリストとして活躍、国内ではシンガーソングライター「miwa」のバンドに参加。						
授業の学習 内容	Contemporary Popular Music Ensembleのスタイル＆アナライズレッスン。8週間ごとにジャンルを変えて行うアンサンブルに向けたそのジャンルのスタイルを学び、課題曲のアナライズを行います。 1年を通じて、①FUNK→②COUNTRY→③JAZZと進み、毎週2曲ずつ課題曲が更新されていきます。 各ジャンルに特化した講師による指導が行われ、8週目は発表会形式のアウトプットを実施することで本番経験を踏んでいく。ジャンル別の奏法を学びながら、バンドで演奏することの楽しさを知り、リズムの大切さ、グルーブ感、音量調整、サウンド作り、バンドコミュニケーション、パフォーマンスを養っていきます。さらには、レパートリーを持つことで、将来現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を理解する場とします。						
到達目標	FUNK、COUNTRY、JAZZ等の楽曲をアンサンブルを通して表現できるようになる。また、リズム感、グルーブ感、パフォーマンス力を向上し、バンドとして一体感を持って表現するスキルを身につける。さらには、主体性を持ってリハーサルに取り組み、メンバー同士でコミュニケーションを取りながら楽曲全体のクオリティを向上させる意識と行動力を持つことを目標とします。						
評価方法と基準	初回授業から中間発表までの個々の成長度を以下の項目を基準にして採点を行う。 ①出席 50点 ②ミュージシャンスキル 10点 ③パフォーマンス 10点 ④コミュニケーション 10点 ⑤準備 10点 ⑥サウンド 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	FUNKのアンサンブル第1週目。導入として白人によるFUNKの名曲のスタイルを学び、アンサンブルに向けたアナライズをおこなう。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
2		講義・演習	FUNKのアンサンブル第2週目。FUNKのスタンダード曲のスタイルを学び、アンサンブルに向けたアナライズをおこなう。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
3		講義・演習	FUNKのアンサンブル第3週目。FUNKのスタンダード曲のスタイルを学び、アンサンブルに向けたアナライズをおこなう。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
4		講義・演習	FUNKのアンサンブル第4週目。FUNKのスタンダード曲のスタイルを学び、アンサンブルに向けたアナライズをおこなう。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
5		講義・演習	FUNKのアンサンブル第5週目。FUNKのスタンダード曲のスタイルを学び、アンサンブルに向けたアナライズをおこなう。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
6		講義・演習	FUNKのアンサンブル第6週目。FUNKのスタンダード曲のスタイルを学び、アンサンブルに向けたアナライズをおこなう。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
7		講義・演習	FUNKアンサンブルの発表会メンバーを決めて、担当曲の練習を行う。	授業で行った楽曲の復習と発表会担当曲の練習
8		講義・演習	FUNKアンサンブルの発表会を行う。	発表会での演奏について検証し、問題点克服に向けて練習する。
9		講義・演習	Country Musicのアンサンブル第2週目。1950年代のカントリーソングのスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
10		講義・演習	Country Musicのアンサンブル第2週目。1950年代のカントリーソングのスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
11		講義・演習	Country Musicのアンサンブル第3週目。1960年代のカントリーソングのスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
12		講義・演習	Country Musicのアンサンブル第4週目。1970年代以降のカントリーソングのスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
13		講義・演習	Country Musicのアンサンブル第5週目。1980年代以降のカントリーソングのスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			課題曲の音源、スコアを確認して、授業前に個人練習しておく。各ジャンルの有名アーティストや有名曲を視聴し、分析する。	
【使用教科書・教材・参考書】				
課題曲の音源と譜面、歌詞をTeamsにて共有します。				

科目名	CPM Ensemble Style&Analysis (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	クリス・ ジャーガン セン
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	世界三大ギタリストの一人であるJEFF BECKのトリビュートアルバムへの参加など、数多くの世界的プレイヤーとのセッション、レコーディング等でギタリストとして活躍、国内ではシンガーソングライター「miwa」のバンドに参加。						
授業の学習 内容	Contemporary Popular Music Ensembleのスタイル＆アナライズレッスン。8週間ごとにジャンルを変えて行うアンサンブルに向けたそのジャンルのスタイルを学び、課題曲のアナライズを行います。 1年を通じて、①FUNK→②COUNTRY→③JAZZと進み、毎週2曲ずつ課題曲が更新されていきます。 各ジャンルに特化した講師による指導が行われ、8週目は発表会形式のアウトプットを実施することで本番経験を踏んでいく。ジャンル別の奏法を学びながら、バンドで演奏することの楽しさを知り、リズムの大切さ、グルーブ感、音量調整、サウンド作り、バンドコミュニケーション、パフォーマンスを養っていきます。さらには、レパートリーを持つことで、将来現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を理解する場とします。						
到達目標	FUNK、COUNTRY、JAZZ等の楽曲をアンサンブルを通して表現できるようになる。また、リズム感、グルーブ感、パフォーマンス力を向上し、バンドとして一体感を持って表現するスキルを身につける。さらには、主体性を持ってリハーサルに取り組み、メンバー同士でコミュニケーションを取りながら楽曲全体のクオリティを向上させる意識と行動力を持つことを目標とします。						
評価方法と基準	初回授業から中間発表までの個々の成長度を以下の項目を基準にして採点を行う。 ①出席 50点 ②ミュージシャンスキル 10点 ③パフォーマンス 10点 ④コミュニケーション 10点 ⑤準備 10点 ⑥サウンド 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Country Musicのアンサンブル第6週目。1980年代以降のカントリーソングのスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
2		講義・演習	Country Musicアンサンブルの発表会メンバーを決めて、担当曲の練習を行う。	授業で行った楽曲の復習と発表会担当曲の練習
3		講義・演習	Country Musicアンサンブルの発表会を行う。	発表会での演奏について検証し、問題点克服に向けて練習する。
4		講義・演習	JAZZのアンサンブル第1週目。1920～1940年代のジャズスタンダード曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
5		講義・演習	JAZZのアンサンブル第2週目。1920～1940年代のジャズスタンダード曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
6		講義・演習	JAZZのアンサンブル第3週目。1940～1960年代のジャズスタンダード曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
7		講義・演習	JAZZのアンサンブル第4週目。1940～1960年代のジャズスタンダード曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
8		講義・演習	JAZZのアンサンブル第5週目。1960～1970年代のジャズスタンダード曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と発表会担当曲の練習
9		講義・演習	JAZZのアンサンブル第6週目。1970～1980年代のジャズスタンダード曲のスタイル&アナライズ。	授業で行った楽曲の復習と発表会担当曲の練習
10		講義・演習	JAZZアンサンブルの発表会メンバーを決めて、担当曲の練習を行う。	授業で行った楽曲の復習と発表会担当曲の練習
11		講義・演習	JAZZのアンサンブルの発表会を行う。	発表会での演奏について検証し、問題点克服に向けて練習する。
12		講義・演習	進級制作展で演奏する曲のアンサンブルを行う。	授業で行った楽曲の復習と担当曲の練習
13		講義・演習	進級制作展で演奏する曲のアンサンブルを行う。	授業で行った楽曲の復習と担当曲の練習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			課題曲の音源、スコアを確認して、授業前に個人練習しておく。各ジャンルの有名アーティストや有名曲を視聴し、分析する。	
【使用教科書・教材・参考書】				
課題曲の音源と譜面、歌詞をTeamsにて共有します。				

科目名	CPM Ensemble (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	クリス・ ジャーガン セン
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	世界三大ギタリストの一人であるJEFF BECKのトリビュートアルバムへの参加など、数多くの世界的プレイヤーとのセッション、レコーディング等でギタリストとして活躍、国内ではシンガーソングライター「miwa」のバンドに参加。						
授業の学習 内容	Contemporary Popular Music Ensemble。6週間ごとにジャンル別アンサンブルを行っていく。 1年を通じて、①JAZZ→②COUNTRY→③BRAZILIAN→③FUSIONと進み、毎週1曲ずつ課題曲が更新されていきます。 各ジャンルに特化した講師による指導が行われ、6週目は発表会形式のアウトプットを実施することで本番経験を踏んでいく。 ジャンル別の奏法を学びながら、バンドで演奏することの楽しさを知り、リズムの大切さ、グルーヴ感、音量調整、サウンド作り、バンドコミュニケーション、パフォーマンスを養っていきます。さらには、レパートリーを持つことで、将来現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を理解する場とします。						
到達目標	JAZZ、COUNTRY、BRAZILIAN、FUSION等の楽曲をアンサンブルを通して表現できるようになる。また、リズム感、グルーヴ感、パフォーマンス力を向上し、バンドとして一体感を持って表現するスキルを身につける。さらには、主体性を持ってリハーサルに取り組み、メンバー同士でコミュニケーションを取りながら楽曲全体のクオリティを向上させる意識と行動力を持つことを目標とします。						
評価方法と基準	初回授業から中間発表までの個々の成長度を以下の項目を基準にして採点を行う。 ①出席 50点 ②ミュージシャンスキル 10点 ③パフォーマンス 10点 ④コミュニケーション 10点 ⑤準備 10点 ⑥サウンド 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	JAZZのアンサンブル第1週目。1920～1940年代のジャズスタンダード曲のアナライズとアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
2		講義・演習	JAZZのアンサンブル第2週目。1920～1940年代のジャズスタンダード曲のアナライズとアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
3		講義・演習	JAZZのアンサンブル第3週目。1940～1960年代のジャズスタンダード曲のアナライズとアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
4		講義・演習	JAZZのアンサンブル第4週目。1940～1960年代のジャズスタンダード曲のアナライズとアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
5		講義・演習	JAZZのアンサンブル第4週目。1960～1980年代のジャズスタンダード曲のアナライズとアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と発表会担当曲の練習
6		講義・演習	JAZZのアンサンブルの発表会を行う。	発表会での演奏について検証し、問題点克服に向けて練習する。
7		講義・演習	Country Musicのアンサンブル第1週目。初期のカントリーソングのアナライズとアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
8		講義・演習	Country Musicのアンサンブル第2週目。1950年代のカントリーソングのアナライズとアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
9		講義・演習	Country Musicのアンサンブル第3週目。1960年代のカントリーソングのアナライズとアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
10		講義・演習	Country Musicのアンサンブル第3週目。1970年代以降のカントリーソングのアナライズとアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
11		講義・演習	Country Musicのアンサンブル第3週目。1980年代以降のカントリーソングのアナライズとアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と発表会担当曲の練習
12		講義・演習	Country Musicのアンサンブルの発表会を行う。	発表会での演奏について検証し、問題点克服に向けて練習する。
13		講義・演習	次回Brazilian Musicアンサンブルに向けた課題曲のアナライズとシンプルな曲のアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			課題曲の音源、スコアを確認して、授業前に個人練習しておく。各ジャンルの有名アーティストや有名曲を視聴し、分析する。	
【使用教科書・教材・参考書】				
課題曲の音源と譜面、歌詞をTeamsにて共有します。				

科目名	CPM Ensemble (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	クリス・ ジャーガン セン
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	世界三大ギタリストの一人であるJEFF BECKのトリビュートアルバムへの参加など、数多くの世界的プレイヤーとのセッション、レコーディング等でギタリストとして活躍、国内ではシンガーソングライター「miwa」のバンドに参加。						
授業の学習 内容	Contemporary Popular Music Ensemble。6週間ごとにジャンル別アンサンブルを行っていく。 1年を通じて、①JAZZ→②COUNTRY→③BRAZILIAN→④FUSIONと進み、毎週1曲ずつ課題曲が更新されていきます。 各ジャンルに特化した講師による指導が行われ、6週目は発表会形式のアウトプットを実施することで本番経験を踏んでいく。 ジャンル別の奏法を学びながら、バンドで演奏することの楽しさを知り、リズムの大切さ、グルーヴ感、音量調整、サウンド作り、バンドコミュニケーション、パフォーマンスを養っていきます。さらには、レパートリーを持つことで、将来現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を理解する場とします。						
到達目標	JAZZ、COUNTRY、BRAZILIAN、FUSION等の楽曲をアンサンブルを通して表現できるようになる。また、リズム感、グルーヴ感、パフォーマンス力を向上し、バンドとして一体感を持って表現するスキルを身につける。さらには、主体性を持ってリハーサルに取り組み、メンバー同士でコミュニケーションを取りながら楽曲全体のクオリティを向上させる意識と行動力を持つことを目標とします。						
評価方法と基準	初回授業から中間発表までの個々の成長度を以下の項目を基準にして採点を行う。 ①出席 50点 ②ミュージシャンスキル 10点 ③パフォーマンス 10点 ④コミュニケーション 10点 ⑤準備 10点 ⑥サウンド 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Brazilian Musicのアンサンブル第1週目。課題曲のアナライズとアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
2		講義・演習	Brazilian Musicのアンサンブル第2週目。課題曲のアナライズとアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
3		講義・演習	Brazilian Musicのアンサンブル第3週目。課題曲のアナライズとアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
4		講義・演習	Brazilian Musicのアンサンブル第4週目。課題曲のアナライズとアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
5		講義・演習	Brazilian Musicのアンサンブル第5週目。課題曲のアナライズとアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と発表会担当曲の練習
6		講義・演習	Brazilian Musicのアンサンブルの発表会を行う。	発表会での演奏について検証し、問題点克服に向けて練習する。
7		講義・演習	Fusionのアンサンブル第1週目。課題曲のアナライズとアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
8		講義・演習	Fusionのアンサンブル第2週目。課題曲のアナライズとアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
9		講義・演習	Fusionのアンサンブル第3週目。課題曲のアナライズとアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
10		講義・演習	Fusionのアンサンブル第4週目。課題曲のアナライズとアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
11		講義・演習	Fusionのアンサンブル第5週目。課題曲のアナライズとアンサンブル。	授業で行った楽曲の復習と発表会担当曲の練習
12		講義・演習	Fusionのアンサンブルの発表会を行う。	発表会での演奏について検証し、問題点克服に向けて練習する。
13		講義・演習	1年間で学んだ楽曲でセッションを行う。	授業で行った楽曲の復習と次回曲の予習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			課題曲の音源、スコアを確認して、授業前に個人練習しておく。各ジャンルの有名アーティストや有名曲を視聴し、分析する。	
【使用教科書・教材・参考書】				
課題曲の音源と譜面、歌詞をTeamsにて共有します。				

科目名	VT (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	橋元 美沙
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ゴスペルグループSOULMATICSのメンバーとして多くのアーティスト・ミュージシャンと共演し、音楽活動を行う。						
授業の学習 内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの応用と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる口	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		講義・演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		講義・演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		講義・演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		講義・演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC ～Gまでを歌い動画チェックする
6		講義・演習	高度な歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		講義・演習	高度な歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		講義・演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のC までを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のC までを歌い動画チェックする
9		講義・演習	高度な歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
10		講義・演習	高度な歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
11		講義・演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ～上のC までを歌い動画チェックする
12		講義・演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる口	アカペラアンサンブルを動画チェックする
13		講義・演習	試験	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	VT (4)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	橋元 美沙
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ゴスペルグループSOULMATICSのメンバーとして多くのアーティスト・ミュージシャンと共演し、音楽活動を行う。						
授業の学習 内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの応用と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できる	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画チェック
2		講義・演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェックする
3		講義・演習	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC～Fまでを動画チェック
4		講義・演習	メロディーC～Gまでを歌い実践できる。	メロディーC～Gまでを動画チェックする
5		講義・演習	高度な歌唱歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC～Gまでを歌い動画チェックする
6		講義・演習	高度な歌唱歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
7		講義・演習	高度な歌唱歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い実践できる。。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC～Aを歌い動画チェックする
8		講義・演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
9		講義・演習	高度な歌唱歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
10		講義・演習	高度な歌唱歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
11		講義・演習	高度な歌唱歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC～上のCまでを歌い動画チェックする
12		講義・演習	高度な歌唱アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
13		講義・演習	試験	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A (3) (Guitar Melodic Concept (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	山田 豪
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ギタリストとして、30年以上活動し、増田恵子(ピンクレディ)、chihiRo-Decoy(JiLL-Decoy association)、Lapis Lazuli、林部智史などのアーティストのレコーディングやライブサポートを務める。						
授業の学習 内容	ギターの基礎知識の向上 様々なビートにあった演奏方法の習得						
到達目標	講師に提示された譜面を初見で間違えずに演奏できるかどうか、また理論的な解釈で説明できるかどうか						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		講義・演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論(マイナー・メジャーペンタニック)スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		講義・演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論(メジャースケール)スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		講義・演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論(マイナースケール)スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		講義・演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論(インターバル)スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		講義・演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ(コードストローク、ソロ)について復習する
7		講義・演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる(コードストローク、ソロ)	16ビート主体の曲に対するアプローチ(コードストローク、ソロ)について復習する
8		講義・演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する
9		講義・演習	シンコペーション(コードストローク、アルペジオ、ソロ)について演奏できる	シンコペーション(コードストローク、アルペジオ、ソロ)について復習する
10		講義・演習	ミュートと空ピッキング(メトロノームを使った様々な練習法について)について演奏できる	ミュートと空ピッキング(メトロノームを使った様々な練習法について)について復習する
11		講義・演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する
12		講義・演習	コードトーン(メジャー、マイナー)を基にしたフレーズの習得について演奏できる。主要四和音(トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる	コードトーン(メジャー、マイナー)を基にしたフレーズの習得について復習する。主要四和音(トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について復習する
13		講義・演習	コード進行の解析演奏できる(ダイアトニックニックスとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析(ダイアトニックニックスとコードアルペジオの関係性について)について復習する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容の復習と教材の音源を使った練習をしっかりと行う。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A (3) (Bass Line Concept (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	前田 逸平
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	様々なアーティストのサポート、レコーディング、楽曲アレンジに加え、白井裕紀との作家ユニットYippeeとしても活動中。						
授業の学習 内容	楽曲におけるベースラインの構築の仕方を、コード、スケール、リズムパターン、ジャンルによる特徴などの視点から学び、音楽的理解を深める。音の選び方によって変化するハーモニーや、グルーヴの違いなども体感し、コード進行を読み解き、楽曲に合ったベースラインを考えられるようにする。						
到達目標	・様々なベースラインの分析、演奏をできるようになる。 ・代理コードの概念を理解し、正しくフレージング出来るようになる。 ・コード進行を見て、適切なアルペジオとスケールの選択を出来るようになる。						
評価方法と基準	個人毎の成長度を元に、以下の項目を基準として採点を行います。 1. 出席 50点 2. 演奏スキル 20点 3. 理解度 20点 4. 準備 10点						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	クロマチックアプローチとその分析について理解し、実践できる。	授業で学んだ内容について復習。Ch27,28の予習。	
2		講義・演習	マイナーキーのモードスケールを理解し、演奏出来る。	授業で学んだ内容について復習。Ch29,30の予習。	
3		講義・演習	マイナーキーのコード進行にアルペジオとスケールを設定し、演奏出来る。	授業で学んだ内容について復習。Ch31の予習。	
4		講義・演習	8ビートのベースライン、主にリズムアプローチについて学ぶ。	授業で学んだ内容について復習。Ch32の予習。	
5		講義・演習	代表的な8ビートのベースラインを元に分析、移調できるようにする。	授業で学んだ内容について復習。Ch33の予習。	
6		講義・演習	8ビートのパターンをモチーフにアーティキュレーションについて学び、表現力を上げる。	授業で学んだ内容について復習。Ch34の予習。	
7		講義・演習	16ビートのベースライン、主にリズムアプローチについて学ぶ。	授業で学んだ内容について復習。Ch35の予習。	
8		講義・演習	16ビートのベースリフを元に分析、移調できるようにする。	授業で学んだ内容について復習。Ch36の予習。	
9		講義・演習	シャッフルのベースラインを取り上げ、リズムパターンによる違いを体得する。	授業で学んだ内容について復習。Ch37の予習。	
10		講義・演習	Swing16thの様々なベースラインを演奏。クリシェのラインについても学ぶ。	授業で学んだ内容について復習。Ch38の予習。	
11		講義・演習	4/4以外の拍子(3/4や6/8)のベースラインを学ぶ。	授業で学んだ内容について復習。Ch39の予習。	
12		講義・演習	奇数拍子(7/4や5/8など)のベースラインを学ぶ。	授業で学んだ内容について復習。Ch40の予習。	
13		講義・演習	サンバ、ボサノバの代表的なベースラインについて学ぶ。	前期で学んだ内容について復習。Ch41の予習。	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			様々な曲のベースラインをコピー～分析することで理解を深める。楽器を使つての反復練習もする。		
【使用教科書・教材・参考書】					
滋慶出版教科書					

科目名	Expression A (3) (Drum Control Theory (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	星山 哲也
学科・専攻	パフォーマンスアート科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	劇団四季「ライオンキング」パーカッションの他、浜崎あゆみ、宇多田ヒカル、つるの剛士など様々なアーティストのサポートドラマーとして活躍。専門学校で25年以上ドラム講師を続け、後進の育成にも力を入れている。						
授業の学習 内容	現代音楽における初歩的なスタンダードグルーヴの抽出とアナライズをテーマとする演習を行う。テキストに沿った各種トレーニングと並行して、アンサンブルスタンス、パルスイメージ、サウンドスケープ、リズムトレーニング等の内容も積み重ねていく多角的な演習内容になる。						
到達目標	ワールドスタンダードなシンプルなリズムフィールの応用を習得する事を目的とし、各種トレーニングの消化や自発的研究活動の延長線上に於いて、タイム感の重要性を理解しグルーヴに対する「気付き」が生まれる事を目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	トリプレットフィールの習得。3連符を構成要素とするリズムの理解と実践。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~3)	
2		講義・演習	ハネた16ビートの実践。拍内のリズム構造の理解とバウンスフィールの考察。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~4)	
3		講義・演習	ハネた16ビートの実践。拍内のリズム構造の理解とバウンスフィールの考察。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~4)	
4		講義・演習	ハネた16ビートの実践。キックパターンのバリエーションによるフィールの構築。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~3)	
5		講義・演習	6連符に包括されたハネ系16ビートの実践。ゴーストノートのコントロール。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~4)	
6		講義・演習	ハネ方の度合いに関する考察。バウンスポイントの把握とハネ率の実践。	テキスト内で提示された段階的ブラクティスを消化する(Step1~2)	
7		講義・演習	チャートリーディングを伴う8ビートの実践。課題曲(Chapter20)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(8ビート)	
8		講義・演習	チャートリーディングを伴う8ビートの実践。課題曲(Chapter21)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(8ビート)	
9		講義・演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter22)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(16ビート)	
10		講義・演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter23)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(16ビート)	
11		講義・演習	チャートリーディングを伴う16ビートの実践。課題曲(Chapter24)の解析。	関連課題曲の抽出と研究(16ビート)	
12		講義・演習	シャッフルビートの実践。課題曲(Chapter25)の解析。1年次のまとめ。蓄積したテクニックと表現力についての考察。	関連課題曲の抽出と研究(シャッフル)振り返りとしての総復習	
13		講義・演習	ハネた16ビートを複雑化した応用パターンの解析と理解。1年次で学習したパターンを織り交ぜたリズムの理解と実践	テキストに基づいた基礎リズムの発展系の理解・練習。1年次のまとめから応用させたフレーズの創造	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression A (3) (Keyboard Playing Technique (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 隆志
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	声優歌手鈴木健一、小野大輔、伊藤かな恵、入野自由etc等アーティストのライブツアー、ライブアレンジ、またRECに参加。						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 メロディックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。キーボード歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする。 オシレーターなどをうまく使い思い通りのサウンドを作る。						
到達目標	理論、実技の基礎的なものを習得する。 キーボードを演奏する際に音を変更したり、アンサンブル上でなじむ音階を選択することを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	シールドなど機材での音の変化を理解する。	シールドなど機材での音の変化を理解し復習。
2		講義・演習	コードの展開の変化を理解する。	コードの展開を理解し復習。
3		講義・演習	G-C, Rock'n Roll, Bluesの変化を理解する。	G-C, Rock'n Roll, Bluesを理解し復習。
4		講義・演習	オシレーターを2つ以上組み合わせる音色の変化を理解する。	オシレーターを2つ以上組み合わせる音色を理解し復習。
5		講義・演習	ペントニック、オブリガートの変化を理解する。	ペントニック、オブリガートを理解し復習。
6		講義・演習	Bluesについての変化を理解する。	Bluesについてを理解し復習。
7		講義・演習	メジャー、マイナー以外のスケール1の変化を理解する。	メジャー、マイナー以外のスケール1を理解し復習。
8		講義・演習	メジャー、マイナー以外のスケール2の変化を理解する。	メジャー、マイナー以外のスケール2を理解し復習。
9		講義・演習	ソロの構成の変化を理解する。	ソロの構成を理解し復習。
10		講義・演習	各ジャンルでのバックングの変化を理解する。	各ジャンルでのバックングを理解し復習。
11		講義・演習	各ジャンルでのriffの変化を理解する。	各ジャンルでのriffを理解し復習。
12		講義・演習	ピッチベンドを使用したソロの変化を理解する。エフェクト紹介1の変化を理解する。	ピッチベンドを使用したソロを理解し復習。エフェクト紹介1を理解し復習。
13		講義・演習	エフェクト紹介2の変化を理解する。後期の重要ポイントと復習	エフェクト紹介2を理解し復習。後期の重要ポイントと復習を理解し復習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A (4) (Guitar Melodic Concept (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	山田 豪
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ギタリストとして、30年以上活動し、増田恵子(ピンクレディ)、chihiRo-Decoy(JiLL-Decoy association)、Lapis Lazuli、林部智史などのアーティストのレコーディングやライブサポートを務める。						
授業の学習 内容	ギターを演奏する上での基礎を勉強する。 ハーモニックコンセプトと関連しているが、こちらでは主にコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。ギター歴にかなり差があるので初心者へのフォローをする						
到達目標	理論、実技をさらに実践的なものに。作曲等も含めてプロミュージシャンとしての礎を築く。 現場に出た際に必要な楽譜読みや、演奏技術、知識を得ることを目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期のおさらい	前期のおさらい
2		講義・演習	マイナースケール	マイナースケール
3		講義・演習	ハーモニックマイナースケール	ハーモニックマイナースケール
4		講義・演習	ハーモニックマイナーパーフェクトフィフスビロウ	ハーモニックマイナーパーフェクトフィフスビロウ
5		講義・演習	メロディックマイナー	メロディックマイナー
6		講義・演習	スパニッシュスケール	スパニッシュスケール
7		講義・演習	スパニッシュジブシースケール	スパニッシュジブシースケール
8		講義・演習	ジブシースケール	ジブシースケール
9		講義・演習	アドリブ:モーダル	アドリブ:モーダル
10		講義・演習	アドリブ:コードル	アドリブ:コードル
11		講義・演習	アドリブ:コードの分解	アドリブ:コードの分解
12		講義・演習	ハーモニックメソッド メロディックメソッド	ハーモニックメソッド メロディックメソッド
13		講義・演習	リズムメソッド 自由演奏	リズムメソッド 次のChapterのエクササイズの練習、未達成箇所の復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A (4) (Bass Line Concept (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	前田 逸平
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	様々なアーティストのサポート、レコーディング、楽曲アレンジに加え、白井裕紀との作家ユニットYippeeとしても活動中。						
授業の学習 内容	楽曲におけるベースラインの構築の仕方を、コード、スケール、リズムパターン、ジャンルによる特徴などの視点から学び、音楽的理解を深める。音の選び方によって変化するハーモニーや、グルーヴの違いなども体感し、コード進行を読み解き、楽曲に合ったベースラインを考えられるようにする。						
到達目標	・様々なベースラインの分析、演奏をできるようになる。 ・代理コードの概念を理解し、正しくフレージング出来るようになる。 ・コード進行を見て、適切なアルペジオとスケールの選択を出来るようになる。						
評価方法と基準	個人毎の成長度を元に、以下の項目を基準として採点を行います。 1. 出席 50点 2. 演奏スキル 20点 3. 理解度 20点 4. 準備 10点						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	レゲエの代表的なベースラインについて学ぶ。	授業で学んだ内容について復習。Ch42の予習。	
2		講義・演習	マンボなどの代表的なベースラインについて学ぶ。	授業で学んだ内容について復習。Ch43の予習。	
3		講義・演習	テンション(エクステンション)ノートについての説明、演習をする。	授業で学んだ内容について復習。Ch44の予習。	
4		講義・演習	テンション(オルタレーション)ノートについての説明、演習をする。	授業で学んだ内容について復習。Ch45の予習。	
5		講義・演習	テンションノートの表記と、使用できるスケールについて説明、演習を行う。	授業で学んだ内容について復習。Ch46の予習。	
6		講義・演習	代理コード(ダイアトニック、セカンダリードミナント)について説明、演習を行う。	授業で学んだ内容について復習。Ch47の予習。	
7		講義・演習	代理コード(裏コード、ディミニッシュコード)について説明、演習を行う。	授業で学んだ内容について復習。Ch48の予習。	
8		講義・演習	代理コード(モーダルインターチェンジ、サブドミナントマイナー)について説明、演習を行う。	授業で学んだ内容について復習。Ch49の予習。	
9		講義・演習	ウォーキングベース(コードトーン、アプローチノート)について説明、演習を行う。	授業で学んだ内容について復習。Ch50の予習。	
10		講義・演習	ウォーキングベース(スケールトーン、転回形)について説明、演習を行う。	授業で学んだ内容について復習。Ch51の予習。	
11		講義・演習	ウォーキングベース(ヴォイスリーディング、3rdと7thの関係)について説明、演習を行う。	授業で学んだ内容について復習。Ch52の予習。	
12		講義・演習	構成のあるコード進行において、ベースラインを分析、演奏できるようにする。	授業で学んだ内容について復習。Ch52の進行で自分なりのベースラインを考える。	
13		講義・演習	構成のあるコード進行において、自分なりのベースラインを構築できるようにする。	授業で学んだ内容について復習。Ch57からの練習曲にも取り組む。	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			様々な曲のベースラインをコピー～分析することで理解を深める。楽器を使つての反復練習もする。		
【使用教科書・教材・参考書】					
滋慶出版教科書					

科目名	Expression A (4) (Drum Control Theory (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	星山 哲也
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	劇団四季「ライオンキング」パーカッションの他、浜崎あゆみ、宇多田ヒカル、つるの剛士など様々なアーティストのサポートドラマーとして活躍。専門学校で25年以上ドラム講師を続け、後進の育成にも力を入れている。						
授業の学習 内容	ドラムを演奏する上で必要な基礎的な技術、知識を学ぶ。 譜面の理解度をあげ様々なジャンルのアンサンブル力を養う。						
到達目標	基礎的なスティックコントロールができる。譜面の読み書きができる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)
2		講義・演習	ドラム譜面の解説・読み方を説明できる	ドラム譜面の解説・読み方を復習する
3		講義・演習	ドラム譜面の書き方を説明できる	ドラム譜面の書き方を復習する
4		講義・演習	スティックの持ち方(マッチド・トラディショナル)を説明できる	スティックの持ち方(マッチド・トラディショナル)を復習する
5		講義・演習	打楽器に触れる	打楽器を復習する
6		講義・演習	正しい演奏フォームを説明できる	正しい演奏フォームを復習する
7		講義・演習	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を説明できる	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を復習する
8		講義・演習	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを説明できる	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを復習する
9		講義・演習	8ビートの仕組み、理解し演奏できる。	8ビートの仕組み、理解し演奏を復習する
10		講義・演習	16ビートの仕組み、理解し演奏できる	16ビートの仕組み、理解し演奏を復習する
11		講義・演習	ソロメイキングを学び演奏できる	ソロメイキングを学び演奏を復習する
12		講義・演習	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏できる	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏を復習する
13		講義・演習	シンコペーションを習得し演奏できる Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	シンコペーションを習得し演奏を復習する、 Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルや演奏技術の向上を目指し反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression A (4) (Keyboard Playing Technique (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 隆志
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	声優歌手鈴木健一、小野大輔、伊藤かな恵、入野自由etc等アーティストのライブツアー、ライブアレンジ、またRECに参加。						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。						
到達目標	楽譜の読み書きができる。ダイアトニックコードの成り立ちを理解しているなどの基礎的な理論、 キーボードの音が出せる、自分の好みの音色が使えるなどの実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		講義・演習	楽譜の読み方 ト音を説明できる。	楽譜の読み方 ト音を復習する。
3		講義・演習	楽譜の読み方 ヘ音を説明できる。	楽譜の読み方 ヘ音を復習する
4		講義・演習	楽譜の書き方 音符を説明できる。	楽譜の書き方 音符を復習する。
5		講義・演習	楽譜の書き方 記号を説明できる。	楽譜の書き方 記号を復習する。
6		講義・演習	ダイアトニックコードを学び演奏できる。	ダイアトニックコードを復習する。
7		講義・演習	音色を変えてのコード学び演奏できる。	音色を変えてのコードを復習する。
8		講義・演習	コードアレンジ(和音の積み方)学び演奏できる。	コードアレンジ(和音の積み方を復習する。
9		講義・演習	音色を変えてのコードアレンジ学び演奏できる。	音色を変えてのコードアレンジを復習する。
10		講義・演習	オシレーターの説明学び演奏できる。	オシレーターの説明を復習する。
11		講義・演習	自分好みの音色を作り。演奏できる。	自分好みの音色を復習する。
12		講義・演習	コードトーン(メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーンを復習する。(メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる
13		講義・演習	主要四和音(トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できるコード進行の解析演奏できる(ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)	主要四和音を復習する。(トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる。コード進行の解析演奏を復習する。(ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B (3) (Guitar Harmonic Concept (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田大志
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、ジャズギタリストとして活動、第32回浅草ジャズコンテスト、ソロプレイヤー部門金賞受賞、2015年 GIBSON JAZZ GUITAR CONTEST 準グランプリを受賞。						
授業の学習 内容	ギターによるバックイング演奏のより高度な技術を習得する。コード進行に合わせた最適なテンションコードを理解し、さまざまなヴォイスイングパターンを身につけ、実践でのバックイングに対応できるようにする。ハーモナイズ術を習得する。						
到達目標	スタンダード曲などのリードシートを見て、即座にコードワーク等を選びだし、音楽的なバックイング演奏ができるようになる。コードメロディーのハーモナイズ術を身につけ、ソロギターのアレンジができるようになる。						
評価方法と基準	出席率と定期テスト(実技＋理解力)。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	○7(b9)、○7(#9)の練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
2		講義・演習	○9sus4の練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
3		講義・演習	オルタードドミナントコードについて。テンションコードの組み合わせを試す。	学んだ内容の理解を深めるために復習。
4		講義・演習	テンションコードを使ったJazzBluesバックイング練習。	ジャズブルースのスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
5		講義・演習	○7(b5)、○7(#5)の練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
6		講義・演習	JazzBluesの課題に合わせてバックイング練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
7		講義・演習	add9コードの練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
8		講義・演習	○69の練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
9		講義・演習	○m69の練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
10		講義・演習	○7(#11)の練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
11		講義・演習	○M7(#11)、○m7(11)の練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
12		講義・演習	13thコードの練習。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
13		講義・演習	課題曲に合わせて自分でコードワークを考え、実践する。	今までの知識の復習と、未達成箇所の復習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Chris Juergensen著プリント教科書				

科目名	Expression B (3) (Bass Groove Analyze (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬三
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーン、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	ベーシストとしての基礎力・表現力を養う。						
到達目標	ベーシストとして活躍するためのステージング、アンサンブル力が身に付く。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		講義・演習	譜面の解説・読み方について演奏できる	譜面の解説・読み方について復習する
3		講義・演習	運指の方法を知り楽曲に活かすについて演奏できる。	運指の方法を知り楽曲に活かすについて復習する
4		講義・演習	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて演奏できる	課題曲にあった右手のフォームをマスターするについて復習する
5		講義・演習	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて演奏できる	クリックのある練習になれ、アンサンブルについて復習する
6		講義・演習	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて演奏できる	指板の位置を正確に覚え、パフォーマンスについて復習する
7		講義・演習	ペンタトニックコードについて演奏できる	ペンタトニックコードについて復習する
8		講義・演習	音符の長さについて演奏できる	音符の長さについて復習する
9		講義・演習	8ビートの基本について演奏できる	8ビートの基本について演奏できる
10		講義・演習	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる	ロックの基礎的な演奏方法について演奏できる
11		講義・演習	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる	16ビートの基礎を学び楽曲について演奏できる
12		講義・演習	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる。メジャー・マイナースケールについて演奏できる	ファンクの基礎的な演奏方法について演奏できる。メジャー・マイナースケールについて演奏できる
13		講義・演習	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる	休符を理解し、アンサンブルについて演奏できる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B (3) (Drum Groove Making (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	奥出矢
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ドラマーとして30年以上活動し、第53回グラミー賞受賞琴演奏家「松山夕貴子」ツアーサポート、MKDF関連アクト、T-Earth (X Japan,Toshi)プロジェクトのレコーディング等に参加する。						
授業の学習 内容	ドラムを演奏する上で必要な基礎的な技術、知識を学ぶ。 譜面の理解度をあげ様々なジャンルのアンサンブル力を養う。						
到達目標	基礎的なスティックコントロールができる。譜面の読み書きができる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	ドラムについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		講義・演習	ドラム譜面の解説・読み方を説明できる	ドラム譜面の解説・読み方を復習する
3		講義・演習	ドラム譜面の書き方を説明できる	ドラム譜面の書き方を復習する
4		講義・演習	スティックの持ち方(マッチド・トラディショナル)を説明できる	スティックの持ち方(マッチド・トラディショナル)を復習する
5		講義・演習	打楽器に触れる	打楽器を復習する
6		講義・演習	正しい演奏フォームを説明できる	正しい演奏フォームを復習する
7		講義・演習	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を説明できる	メジャーKeyマイナーKeyの代表的なコード進行を復習する
8		講義・演習	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを説明できる	マイナースケール、ブルーノートハーモニー等発展させたスケール・コードを復習する
9		講義・演習	8ビートの仕組み、理解し演奏できる。	8ビートの仕組み、理解し演奏を復習する
10		講義・演習	16ビートの仕組み、理解し演奏できる	16ビートの仕組み、理解し演奏を復習する
11		講義・演習	ソロメイキングを学び演奏できる	ソロメイキングを学び演奏を復習する
12		講義・演習	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏できる。シンコペーションを習得し演奏できる	シャッフル・3連系のグルーヴの習得し演奏を復習する。シンコペーションを習得し演奏を復習する
13		講義・演習	Swing 16thのフレーズを習得し演奏できる	Swing 16thのフレーズを習得し演奏を復習する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B (3) (Keyboard Harmonic Concept (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 隆志
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	声優歌手鈴木健一、小野大輔、伊藤かな恵、入野自由etc等アーティストのライブツアー、ライブアレンジ、またRECに参加。						
授業の学習 内容	キーボードを演奏する上での基礎を勉強する。 楽譜の読み方など基礎的な知識を埋める。						
到達目標	楽譜の読み書きができる。ダイアトニックコードの成り立ちを理解しているなどの基礎的な理論、 キーボードの音が出せる、自分の好みの音色が使えるなどの実技の基礎的なものを習得する。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	キーボードについての基礎知識 (演奏フォームや様々な奏法について演奏できる)	キーボードについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		講義・演習	楽譜の読み方 ト音を説明できる。	楽譜の読み方 ト音を復習する。
3		講義・演習	楽譜の読み方 ヘ音を説明できる。	楽譜の読み方 ヘ音を復習する
4		講義・演習	楽譜の書き方 音符を説明できる。	楽譜の書き方 音符を復習する。
5		講義・演習	楽譜の書き方 記号を説明できる。	楽譜の書き方 記号を復習する。
6		講義・演習	ダイアトニックコードを学び演奏できる。	ダイアトニックコードを復習する。
7		講義・演習	音色を変えてのコード学び演奏できる。	音色を変えてのコードを復習する。
8		講義・演習	コードアレンジ(和音の積み方)学び演奏できる。	コードアレンジ(和音の積み方を復習する。
9		講義・演習	音色を変えてのコードアレンジ学び演奏できる。	音色を変えてのコードアレンジを復習する。
10		講義・演習	オシレーターの説明学び演奏できる。	オシレーターの説明を復習する。
11		講義・演習	自分好みの音色を作り。演奏できる。	自分好みの音色を復習する。
12		講義・演習	コードトーン(メジャー、マイナー)コードトーンを基にしたフレーズの習得について演奏できる	コードトーンを復習する。 (メジャー、マイナー) コードトーンを基にしたフレーズの習得について
13		講義・演習	主要四和音(トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できるコード進行の解析演奏できる(ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)	主要四和音を復習する。(トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる。コード進行の解析演奏を復習する。(ダイアトニックコードとコードアルペジオの関係性について)
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			楽器における様々なスタイルについて基礎について反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B (4) (Guitar Harmonic Concept (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田大志
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、ジャズギタリストとして活動、第32回浅草ジャズコンテスト、ソロプレイヤー部門金賞受賞、2015年 GIBSON JAZZ GUITAR CONTEST 準グランプリを受賞。						
授業の学習 内容	ギターによるバックイング演奏のより高度な技術を習得する。コード進行に合わせた最適なテンションコードを理解し、さまざまなヴォイスイングパターンを身につけ、実践でのバックイングに対応できるようにする。ハーモナイズ術を習得する。						
到達目標	スタンダード曲などのリードシートを見て、即座にコードワーク等を選びだし、音楽的なバックイング演奏ができるようになる。コードメロディーのハーモナイズ術を身につけ、ソロギターのアレンジができるようになる。						
評価方法と基準	出席率と定期テスト(実技＋理解力)。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	○7(13,b9)、○7(13,#9)の練習。コンディミスケールについて。	課題プリントやスタンダード曲に合わせてコードワーク練習。
2		講義・演習	”Blue In Green”のアナライズとバックイング練習。	“Blue In Green”のコードワーク練習。
3		講義・演習	”Blue In Green”のコードメロディーハーモナイズ。	“Blue In Green”のソロギターアレンジ復習。
4		講義・演習	ドロップ2ヴォイスイングの習得。	スタンダード曲に合わせてドロップヴォイスイングでコードワーク練習。
5		講義・演習	ドロップ3ヴォイスイングの習得。	スタンダード曲に合わせてドロップヴォイスイングでコードワーク練習。
6		講義・演習	課題曲1のアナライズとバックイング練習。	課題曲に合わせてコードワーク練習。
7		講義・演習	課題曲1のコードメロディーハーモナイズ。	課題曲のソロギターアレンジ復習。
8		講義・演習	課題曲2のアナライズとバックイング練習。	課題曲に合わせてコードワーク練習。
9		講義・演習	課題曲2のコードメロディーハーモナイズ。	課題曲のソロギターアレンジ復習。
10		講義・演習	課題曲3のアナライズとバックイング練習。	課題曲に合わせてコードワーク練習。
11		講義・演習	課題曲3のコードメロディーハーモナイズ。	課題曲のソロギターアレンジ復習。
12		講義・演習	課題曲4のアナライズとバックイング練習。	課題曲に合わせてコードワーク練習。
13		講義・演習	課題曲4のハーモナイズを考えてソロギターアレンジを作る。	今までの知識の復習と、未達成箇所の復習。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で学んだ内容に関する理解を深める復習を行い、楽器演奏の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
Chris Juergensen著プリント教科書				

科目名	Expression B (4) (Bass Groove Analyze (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬三
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリン、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	現代音楽におけるリズム、音色、各パートの成り立ちの抽出が主な内容で、その種類と手法、また発展や大元を体感することをテーマとする。ジャンルの違いを把握し表現をするためにビートの感じ方に関する段階的なメニューを消化し、音楽的感性の成長に繋げる。スタンダードミディ・ファイルを使用し授業にて体感させ目標とされる演奏基準に到達するためのトレーニング方、考え方、自己修正などを教授する。						
到達目標	各ジャンルにおける歴史や背景を把握し過去と現代の各ジャンルの違いや価値観を理解することを目標とする。自身がそのジャンルの音楽に適切だと思うフレーズを選択できることを目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	ディスコビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	ディスコビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
2		講義・演習	リズム＆ブルースの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	リズム＆ブルースの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	
3		講義・演習	リズム＆ブルースのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	リズム＆ブルースのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
4		講義・演習	モータウン・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	モータウン・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	
5		講義・演習	モータウン・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	モータウン・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
6		講義・演習	ファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	ファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	
7		講義・演習	初期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	初期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
8		講義・演習	中期のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	中期のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	
9		講義・演習	中期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	中期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
10		講義・演習	近代のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。近代のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	近代のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。近代のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
11		講義・演習	フュージョンの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。フュージョンのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	フュージョンの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。フュージョンのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
12		講義・演習	前期、後期合わせ自身が良いと思ったジャンルの音楽の長所を発表する。	前期、後期合わせ自身が良いと思ったジャンルの音楽の長所を発表する。	
13		講義・演習	前週に行った内容を元にそのジャンルの音楽を演奏する。	前週に行った内容を元にそのジャンルの音楽を演奏する。	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression B (4) (Drum Groove Making (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	奥 出矢
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ドラムテクニック系のクラスを長く担当する。滋慶グループ全校統一テキストも作成している。						
授業の学習 内容	現代音楽で頻出する難易度の高いリズムの抽出と分析が主な内容となる。幾つかの代表的な奏法を実践し、特化した技術、知識を学ぶ。ラテン音楽やジャズにも触れ総合的に音楽の理解を深めていく。						
到達目標	世界共通のリズムを習得する事を目的とし、各種練習の消化や自発的研究活動の延長線上において、様々な音楽ジャンルの要素を昇華して主体的にリズムの構築が出来る能力を身につける事を目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	スウィング奏法(4ビート)の習得と基礎理解	スウィング奏法(4ビート)の習得と基礎理解
2		講義・演習	スウィング奏法(4ビート)の習得と4種類のリズムの組み合わせのトレーニング	スウィング奏法(4ビート)の習得と4種類のリズムの組み合わせのトレーニング
3		講義・演習	スウィング奏法(4ビート)の習得。手足の連動性が複雑化した応用	スウィング奏法(4ビート)の習得。手足の連動性が複雑化した応用
4		講義・演習	モータウンの歴史的背景、代表曲からのグルーヴ抽出	モータウンの歴史的背景、代表曲からのグルーヴ抽出
5		講義・演習	スネア、スリップが特徴的なファンクスタイルの実践	スネア、スリップが特徴的なファンクスタイルの実践
6		講義・演習	ニューオリンズ系の3:2型リズムを活かしたビートの実践	ニューオリンズ系の3:2型リズムを活かしたビートの実践
7		講義・演習	シンコペーション色が強いファンクスタイルの実践	シンコペーション色が強いファンクスタイルの実践
8		講義・演習	JB系のファンク - Chapter55(テキスト)	JB系のファンク - Chapter55(テキスト)
9		講義・演習	セカンドライン・フィールのロック - Chapter56	セカンドライン・フィールのロック - Chapter56
10		講義・演習	ストレート・フィールのファンク - Chapter57	ストレート・フィールのファンク - Chapter57
11		講義・演習	バウンス・フィールのファンク - Chapter58 6/8フィールのファンク・ロック - Chapter59	バウンス・フィールのファンク - Chapter58 6/8フィールのファンク・ロック - Chapter59
12		講義・演習	ファンク・セカンドラインフィール・ストレート・フィールを織り交ぜた応用	ファンク・セカンドラインフィール・ストレート・フィールを織り交ぜた応用
13		講義・演習	バウンス・フィール・6/8フィールラテン・フィールのファンクを織り交ぜた応用	バウンス・フィール・6/8フィールラテン・フィールのファンクを織り交ぜた応用
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression B (4) (Keyboard Harmonic Concept (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 隆志
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	声優歌手鈴木健一、小野大輔、伊藤かな恵、入野自由etc等アーティストのライブツアー、ライブアレンジ、またRECに参加。						
授業の学習 内容	1年時、2年前期に習得した実技や理論をさらに発展させて現場でも使えるようにしていく。 より複雑なコード、スケール、それぞれのジャンル特有のスタイルについても学ぶ。						
到達目標	理論、実技をさらに実践的なものに。作曲等も含めてプロミュージシャンとしての礎を築く。 現場に出た際に必要な楽譜読みや、演奏技術、知識を得ることを目標とする。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	循環コードの説明4-5-6-3	循環コードの説明4-5-6-3
2		講義・演習	前週からのテンションノート1	前週からのテンションノート1
3		講義・演習	テンションノート2	テンションノート2
4		講義・演習	Walking Bassを交えたアルペジオ奏法	Walking Bassを交えたアルペジオ奏法
5		講義・演習	ペントニック、リフ	ペントニック、リフ
6		講義・演習	Rock でのriff	Rock でのriff
7		講義・演習	ブルースのコード進行	ブルースのコード進行
8		講義・演習	テンションノートを使用したソロワーク	テンションノートを使用したソロワーク
9		講義・演習	楽譜の読み方(現場へ出るための再確認)	楽譜の読み方(現場へ出るための再確認)
10		講義・演習	オンコードの説明	オンコードの説明
11		講義・演習	ディミニッシュ、オーギュメントの説明	ディミニッシュ、オーギュメントの説明
12		講義・演習	ロクリアンの説明 エフェクト紹介1	ロクリアンの説明 エフェクト紹介1
13		講義・演習	エフェクト紹介2 後期の重要ポイントと復習	エフェクト紹介2 後期の重要ポイントと復習
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C (3) (Guitar Playing Technique (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	城石 真臣
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	2011年にearthmindのメンバーとして「機動戦士ガンダムUC」の主題歌でメジャーデビュー。現在は様々なアーティストのレコーディングやライブサポート、専門学校講師を務めている。						
授業の学習 内容	ギター演奏時に必要な演奏方法を学び、幅広いジャンルでのギター演奏に対応できる技術を習得する。その演奏方法が特徴的な楽曲の一部を紹介し、音感や譜面の読み書きにも慣れていけるようにする。						
到達目標	基礎～ハイレベルなギター演奏ができるようになり、楽曲に対して最適なアプローチを自分で考えられるようにする。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	パワーコード(8ビート、ミュート)	授業内容の復習、他の授業への応用
2		講義・演習	コードストローク(8ビート)	授業内容の復習、他の授業への応用
3		講義・演習	アルペジオ(8分音符)	授業内容の復習、他の授業への応用
4		講義・演習	カッティング(右手、ミュート)	授業内容の復習、他の授業への応用
5		講義・演習	ギターソロ(基本的なニュアンス)	授業内容の復習、他の授業への応用
6		講義・演習	パワーコード(16分音符、メタル系)	授業内容の復習、他の授業への応用
7		講義・演習	コードストローク(16ビート、アクセント)	授業内容の復習、他の授業への応用
8		講義・演習	アルペジオ(16分音符、フィンガーピッキング)	授業内容の復習、他の授業への応用
9		講義・演習	カッティング(~BPM140、アクセント)	授業内容の復習、他の授業への応用
10		講義・演習	オクターブ奏法(ポジション、ミュート)	授業内容の復習、他の授業への応用
11		講義・演習	ギターソロ(ニュアンスのバリエーション)	授業内容の復習、他の授業への応用
12		講義・演習	特殊奏法(スクラッチ、ハーモニクス)	授業内容の復習、他の授業への応用
13		講義・演習	アンプ、エフェクターを使った音作り	授業内容の復習、他の授業への応用
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業内容の復習、反復練習、音楽をたくさん聴く	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad、譜面				

科目名	Expression C (3) (Bass Playing Technique (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬三
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーン、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一緒に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがリベーンストだけではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	ディスコビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	ディスコビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
2		講義・演習	リズム＆ブルースの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	リズム＆ブルースの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	
3		講義・演習	リズム＆ブルースのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	リズム＆ブルースのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
4		講義・演習	モータウン・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	モータウン・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	
5		講義・演習	モータウン・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	モータウン・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
6		講義・演習	ファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	ファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	
7		講義・演習	初期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	初期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
8		講義・演習	中期のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	中期のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。	
9		講義・演習	中期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	中期のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
10		講義・演習	近代のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。近代のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	近代のファンク・ビートの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。近代のファンク・ビートのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
11		講義・演習	フュージョンの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。フュージョンのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	フュージョンの歴史的な背景とリズムの起源を説明し、基本的なパターンを例題にて説明する。フュージョンのパターンを基本的なコード進行を用いて体得する。(エクササイズ)	
12		講義・演習	前期、後期合わせ自身が良いと思ったジャンルの音楽の長所を発表する。	前期、後期合わせ自身が良いと思ったジャンルの音楽の長所を発表する。	
13		講義・演習	前週に行った内容を元にそのジャンルの音楽と復習	前週に行った内容を元にそのジャンルの音楽を演奏する。	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Expression C (3) (Percussion (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大久保 宙
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	世界20ヶ国以上で講義・演奏経験あり、数多くの教育的出版物を執筆している。						
授業の学習 内容	音楽の基本になるリズムの読み方、とりかた、たたきかたを学ぶ。打楽器(カホン、ジャンベ、ドラム)の基本的な演奏方法を学ぶ。またパーカッションと一緒にパーカシブなアプローチのドラムを学ぶ。1 & 3 合同授業のため2年生はより高度なテクニックを学びます。						
到達目標	カホン・ジャンベなどでアコースティックライブの伴奏ができる、またいくつか高度のパーカッションテクニックを身に着ける						
評価方法と基準	出席率50%実技試験50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介・楽器紹介・授業の内容説明	
2		講義・演習	カホン&ジャンベ8・16ビート1	カホンの基本的な叩き方を復習する
3		講義・演習	カホン&ジャンベ8・16ビート2	カホンの基本的な叩き方を復習する
4		講義・演習	シンコペーション	メトロノームに合わせてアクセントの位置を確認しながら復習する
5		講義・演習	フィルイン	配布プリントを復習
6		講義・演習	3連系リズム	配布プリントを復習
7		講義・演習	ファンク&フュージョン1	配布プリントを復習
8		講義・演習	ファンク&フュージョン2	配布プリントを復習
9		講義・演習	アフリカンリズム	配布プリントを復習
10		講義・演習	ソロ(ソロとリズムの違い)	どうやったらソロになるか実際に録音してみ確認してみる
11		講義・演習	フィンガーテクニック1	すぐにできるテクニックではないため反復練習をする
12		講義・演習	フィンガーテクニック2	すぐにできるテクニックではないため反復練習をする
13		講義・演習	テスト	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で習った内容を反復練習する	
【使用教科書・教材・参考書】				
大久保宙製作オリジナルテキスト				

科目名	Expression C (3) (Keyboard Playing Technique (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 隆志
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	声優歌手鈴木健一、小野大輔、伊藤かな恵、入野自由etc等アーティストのライブツアー、ライブアレンジ、またRECに参加。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がリベーンストだけではない活動の気づきが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	楽器構造と特有な記譜法の理解。	楽器構造と特有な記譜法の理解。
2		講義・演習	メトロノームを使用した練習の紹介。	メトロノームを使用した練習の紹介。
3		講義・演習	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。
4		講義・演習	ティンパレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。	ティンパレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。
5		講義・演習	ゴーストモーションに関する考察。	ゴーストモーションに関する考察。
6		講義・演習	フィルインに関する考察。	フィルインに関する考察。
7		講義・演習	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。
8		講義・演習	その他パーカッション(シェイカーやカウベルなど)の各ビートにおけるバリエーションの実践。	その他パーカッション(シェイカーやカウベルなど)の各ビートにおけるバリエーションの実践。
9		講義・演習	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。
10		講義・演習	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。
11		講義・演習	マイナスイオン音源を使用したトレーニングの実施リズム構造の理解とフィルの実践。	マイナスイオン音源を使用したトレーニングの実施。リズム構造の理解とフィルの実践。
12		講義・演習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用。学期末試験実施	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用 学期末試験実施
13		講義・演習	期末テスト実施と復習	未理解箇所の解明
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C (4) (Guitar Playing Technique (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	城石 真臣
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	2011年にearthmindのメンバーとして「機動戦士ガンダムUC」の主題歌でメジャーデビュー。現在は様々なアーティストのレコーディングやライブサポート、専門学校講師を務めている。						
授業の学習 内容	ギター演奏時に必要な演奏方法を学び、幅広いジャンルでのギター演奏に対応できる技術を習得する。その演奏方法が特徴的な楽曲の一部を紹介し、音感や譜面の読み書きにも慣れていけるようにする。						
到達目標	基礎～ハイレベルなギター演奏ができるようになり、楽曲に対して最適なアプローチを自分で考えられるようにする。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ギターリフ(ローポジション)	授業内容の復習、他の授業への応用
2		講義・演習	ギターリフ(ハイポジション)	授業内容の復習、他の授業への応用
3		講義・演習	ギターソロ(フルピッキング)	授業内容の復習、他の授業への応用
4		講義・演習	ギターソロ(レガート)	授業内容の復習、他の授業への応用
5		講義・演習	ギターソロ(スウィープ、エコノミー)	授業内容の復習、他の授業への応用
6		講義・演習	ギターソロ(タッピング)	授業内容の復習、他の授業への応用
7		講義・演習	バックングアレンジ(課題曲1)	授業内容の復習、他の授業への応用
8		講義・演習	バックングアレンジ(課題曲1)	授業内容の復習、他の授業への応用
9		講義・演習	バックングアレンジ(課題曲1)	授業内容の復習、他の授業への応用
10		講義・演習	リードギターアレンジ(課題曲2)	授業内容の復習、他の授業への応用
11		講義・演習	リードギターアレンジ(課題曲2)	授業内容の復習、他の授業への応用
12		講義・演習	リードギターアレンジ(課題曲2)	授業内容の復習、他の授業への応用
13		講義・演習	アンプ、エフェクターを使った音作り	授業内容の復習、他の授業への応用
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業内容の復習、反復練習、音楽をたくさん聴く	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad、譜面				

科目名	Expression C (4) (Bass Playing Technique (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	遠藤 敬三
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	22歳でバンドデビュー。マリーン、池田聡、サリナ・ジョーンズなど、数多くの幅広いジャンルのアーティストのツアー・レコーディングミュージシャンとして活躍。B'z 松本孝弘と一諸に数多くのレコーディングに参加。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がりがベシストだけにではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ベースについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について演奏できる	ギターについての基礎知識(演奏フォームや様々な奏法について)ウォームアップフレーズについて復習する
2		講義・演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (マイナー・メジャーペンタトニック) スケールを基にしたフレーズについて復習する
3		講義・演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (メジャースケール) スケールを基にしたフレーズについて復習する
4		講義・演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (マイナースケール) スケールを基にしたフレーズについて復習する
5		講義・演習	演奏における音楽理論について演奏できる	演奏における音楽理論 (インターバル) スケールを基にしたフレーズについて復習する
6		講義・演習	8ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる	8ビート主体の曲に対するアプローチ (コードストローク、ソロ)について復習する
7		講義・演習	16ビート主体の曲に対するアプローチについて演奏できる (コードストローク、ソロ)	16ビート主体の曲に対するアプローチ (コードストローク、ソロ)について復習する
8		講義・演習	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用につい演奏できる。	シングルノートカッティング 16ビート主体の曲に対するアプローチの応用について復習する
9		講義・演習	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について演奏できる	シンコペーション (コードストローク、アルペジオ、ソロ)について復習する
10		講義・演習	ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について演奏できる	ミュートと空ピッキング (メトロノームを使った様々な練習法について)について復習する
11		講義・演習	楽譜の読み方と書き方について演奏できる コードトーン(メジャー、マイナー)を基にしたフレーズの習得について演奏できる	楽譜の読み方と書き方について復習する コードトーン(メジャー、マイナー)を基にしたフレーズの習得について演奏できる
12		講義・演習	主要四和音(トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について演奏できる	主要四和音(トニック・ドミナント・サブドミナント、それぞれの関係性)について復習する
13		講義・演習	コード進行の解析演奏できる (ダイアトニック・トニックとコードアルペジオの関係性について)	コード進行の解析 (ダイアトニック・トニックとコードアルペジオの関係性について)について復習する
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Expression C (4) (Percussion (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大久保 宙
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	世界20ヶ国以上で講義・演奏経験あり、数多くの教育的出版物を執筆している。						
授業の学習 内容	音楽の基本になるリズムの読み方、とりかた、たたきかたを学ぶ。打楽器(カホン、ジャンベ、ドラム)の基本的な演奏方法を学ぶ。またパーカッションと一緒にパーカシブなアプローチのドラムを学ぶ。2&4の合同授業のため2年生はより高度なテクニックを学びます。						
到達目標	カホン・ジャンベなどでアコースティックライブの伴奏ができる、またいくつか高度のパーカッションテクニックを身に着ける						
評価方法と基準	出席率50%実技試験50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	コンガベーシックテクニック1	スラップの手の形を復習する
2		講義・演習	コンガベーシックテクニック2	授業で行った内容を反復復習する
3		講義・演習	ティンパレス1	ティンパレス基本リズムを復習する
4		講義・演習	ティンパレス2(ソロ含む)	ティンパレス基本リズムを復習する
5		講義・演習	シェイカー	どの角度でアクセントをつけるか復習する
6		講義・演習	タンバリン	叩き方のバリエーションを復習する
7		講義・演習	パーカッションアンサンブル1	配布したプリントを復習する、次回までに理解しておく
8		講義・演習	パーカッションアンサンブル2	配布したプリントを復習する、次回までに理解しておく
9		講義・演習	パーカッション&ドラムスアドバンス1	配布したプリントを復習する、次回までに理解しておく
10		講義・演習	パーカッション&ドラムスアドバンス2	配布したプリントを復習する、次回までに理解しておく
11		講義・演習	総復習1	1年やった内容を振り返り復習しましょう
12		講義・演習	総復習2	1年やった内容を振り返り復習しましょう
13		講義・演習	テスト	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で習った内容を反復練習する	
【使用教科書・教材・参考書】				
大久保宙製作オリジナルテキスト				

科目名	Expression C (4) (Percussion (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 隆志
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	声優歌手鈴木健一、小野大輔、伊藤かな恵、入野自由etc等アーティストのライブツアー、ライブアレンジ、またRECに参加。						
授業の学習 内容	コード進行の仕組みを説明し、Unit毎に小テストを繰り返し自己理解度を認識することをテーマとする。 分析するコード進行を段階的なメニューで消化し、授業にて体感し演奏基準を高め音楽的な感性の成長に繋げる。						
到達目標	様々な楽曲のコード進行を分析する力を身に付け、的確なスケールを選択出来るようになることを目的とする。 作曲、編曲活動にも繋がリベーストだけではない活動の気付きが生まれる事が目標となる。						
評価方法と基準	実技と筆記による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	楽器構造と特有な記譜法の理解。	楽器構造と特有な記譜法の理解。
2		講義・演習	メトロノームを使用した練習の紹介。	メトロノームを使用した練習の紹介。
3		講義・演習	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。	カホンの各ビートにおけるバリエーションの実践。
4		講義・演習	ティンパレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。	ティンパレスの各ビートにおけるバリエーションの実践。
5		講義・演習	ゴーストモーションに関する考察。	ゴーストモーションに関する考察。
6		講義・演習	フィルインに関する考察。	フィルインに関する考察。
7		講義・演習	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。	コンガの各ビートにおけるバリエーションの実践。
8		講義・演習	その他パーカッション(シェイカーやカウベルなど)の各ビートにおけるバリエーションの実践。	その他パーカッション(シェイカーやカウベルなど)の各ビートにおけるバリエーションの実践。
9		講義・演習	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。	16ビートの実践。リード感覚に関する考察。
10		講義・演習	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。	16ビートの実践。ゴーストノートに関する考察。
11		講義・演習	マイナスイオン音源を使用したトレーニングの実施。リズム構造の理解とフィールの実践。	マイナスイオン音源を使用したトレーニングの実施。リズム構造の理解とフィールの実践。
12		講義・演習	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用。学期末試験実施	8ビート、16ビート、シャッフルビートを織り交ぜた応用。学期末試験実施
13		講義・演習	期末テスト実施と復習	未理解箇所の解明
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			聴力、音感に関するスキル習得。準備復習研究時間として週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Rock Ensemble(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	山田 豪
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ギタリストとして、30年以上活動し、増田恵子(ピンクレディ)、chihiRo-Decoy(JiLL-Decoy association)、Lapis Lazuli、林部智史などのアーティストのレコーディングやライブサポートを務める。						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	50年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	初回アンサンブル曲について譜面と音源を参考に予習しておく。FUNKの名曲を調べてノートにまとめる。	
2		講義・演習	50年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
3		講義・演習	60年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
4		講義・演習	60年代Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
5		講義・演習	70年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
6		講義・演習	70年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
7		講義・演習	70年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
8		講義・演習	70年代中期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
9		講義・演習	70年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
10		講義・演習	70年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
11		講義・演習	80年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
12		講義・演習	80年代初期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
13		講義・演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのROCKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Rock Ensemble (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	山田 豪
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ギタリストとして、30年以上活動し、増田恵子(ピンクレディ)、chihiRo-Decoy(JiLL-Decoy association)、Lapis Lazuli、林部智史などのアーティストのレコーディングやライブサポートを務める。						
授業の学習 内容	楽器のみでのアンサンブルを行ってもらい楽器の可能性や演奏することの楽しさを知ってもらう。 楽譜の読み書きや理論などのパート毎に行ってきた内容を実践的に使う場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	各パートジャンルが分かれている曲を内容に沿った演奏ができることを目標とする。 ソロが弾けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	80年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
2		講義・演習	80年代後期Rockの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
3		講義・演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
4		講義・演習	90年代初期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
5		講義・演習	90年代中期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
6		講義・演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
7		講義・演習	90年代後期Soul&POPSの課題曲を分析しアンサンブルを行う。	授業内で気づいた問題点についての見直しと次回に向けての予習を行う。	
8		講義・演習	イベント発表に向けた課題曲についてアンサンブルを行う。	バンド練習を行う。バンドミーティングを行い、制作物の作成を進める。	
9		講義・演習	楽曲にあった衣装を決め、パフォーマンスを考え、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行う。バンドのアー写を撮り、更に制作物の作成を進める。	
10		講義・演習	MC、コーラスを踏まえ、担当曲のアンサンブルを実践する。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。録音してみる。	
11		講義・演習	数十バンド出演のショーとして転換、セッティングを考慮し、パフォーマンスを実践する。 発表会に向けたリハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。セッティングを繰り返し行い、音質の向上を目指す。 PA、照明スタッフとの関係性を理解し、打合せ等を行い、協同作業で進めていく事の理解を深めていく。	
12		講義・演習	映像撮影をシミュレートし、パフォーマンスを実践する。 発表会に向けた最終リハーサルをPAや照明スタッフと共に進めていく。	バンド練習を行い、クオリティを高めていく。映像撮影してみる。 最終リハーサルで気づいたことを記録しておく。改善していく。	
13		講義・演習	実技テスト及び後期内容の復習	1~12をまとめてレポート作成	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			楽器やヴォーカルのROCKスタイルについて理解し、授業の復習と次週課題曲の予習を行う。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Funk Ensemble (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	小寺良太
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	1997年よりバンド「メロディオンズ」のメンバーとして活動しながらサポートドラム、ドラムチューナーとしての活動を開始。バンド脱退後も様々なアーティストのサポート、レコーディング、ドラムテックとして活動中。2010年からは後進指導のため、ドラム講師も務める。						
授業の学習 内容	ジャンル別アンサンブル授業の1つとして、FUNK楽曲を課題としたアンサンブルを行う。 課題曲は2週間続きで行い、ダンスブルなFUNK楽曲を演奏することの楽しさを知り、リズムの大切さ、グルーヴ感、音量調整、サウンド作り、バンドコミュニケーション、パフォーマンスを養っていきます。さらには、レパートリーを持つことで、将来現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を理解する場とする。 事前に提示された楽曲資料(音源、譜面、歌詞)を元に予習準備し、授業内ではバンド全体で合わせることを基本とします。 前期終わりには中間発表、年度終わりには卒業制作展での発表につながります。						
到達目標	FUNK及び、FUNKに影響を受けた楽曲を各パートが表現できるようになる。また、リズム感、グルーヴ感、パフォーマンス力を向上し、バンドとして一体感を持って表現するスキルを身につける。さらには、主体性を持ってリハーサルに取り組み、メンバー同士でコミュニケーションを取りながら楽曲全体のクオリティを向上させる意識と行動力を持つことを目標とします。						
評価方法と基準	初回授業から中間発表までの個々の成長度を以下の項目を基準にして採点を行う。 ①出席 50点 ②ミュージシャンスキル 10点 ③パフォーマンス 10点 ④コミュニケーション 10点 ⑤準備 10点 ⑥サウンド 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	課題曲Unit1のアンサンブル。2010年代のFUNKから入り、FUNKの楽しさを知る。	Unit1の復習。FUNKの名曲を調べる
2		講義・演習	課題曲Unit1のアンサンブル。演奏面での問題点、課題点を修正しパフォーマンスする。	Unit2の予習。FUNKの重要な要素となるリズムを分析する。次回の課題曲の予習をする。
3		講義・演習	課題曲Unit2のアンサンブル。難易度の低いFUNK曲でシンプルなノリを重視する。	Unit2の復習。ルーツとなるジャンルを検証する
4		講義・演習	課題曲Unit2のアンサンブル。演奏面での問題点、課題点を修正しパフォーマンスする。	次回Unit3の課題曲の予習をする。
5		講義・演習	課題曲Unit3のアンサンブル。ディスコミュージックを課題曲にダンスミュージックの楽しさを知る。	Unit3の復習。FUNKの名曲を調べ、視聴する。
6		講義・演習	課題曲Unit3のアンサンブル。FUNKの名曲を演奏し、グルーヴする感覚を養う。	次回Unit4の課題曲の予習
7		講義・演習	課題曲Unit4のアンサンブル。1980年代に発祥したFUNKの名曲を学ぶ。	Unit4の復習。FUNKのリズム、グルーヴの大切さを理解するためしっかり練習する。
8		講義・演習	課題曲Unit4のアンサンブル。FUNKの名曲を演奏し、グルーヴする感覚を養う。	次回Unit5の課題曲の予習
9		講義・演習	課題曲Unit5のアンサンブル。1970年代に発祥したFUNKの名曲を学ぶ。	Unit5の復習。FUNKのリズム、グルーヴの大切さを理解するためしっかり練習する。
10		講義・演習	課題曲Unit5のアンサンブル。FUNKの名曲を演奏し、グルーヴする感覚を養う。	次回Unit6の課題曲の予習
11		講義・演習	課題曲Unit6のアンサンブル。難易度の高いFUNK曲にチャレンジする。	Unit6の復習。FUNKのリズム、グルーヴの大切さを理解するためしっかり練習する。
12		講義・演習	課題曲Unit6のアンサンブル。FUNKの名曲を演奏し、グルーヴする感覚を養う。	中間発表に向けて練習する。
13		講義・演習	前期のまとめとして中間発表を行う。	発表会での演奏について検証し、問題点を克服するべく練習につなげる。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			課題曲の音源、スコア、歌詞を確認して、授業前に個人練習しておく。FUNK曲を視聴し、分析する。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Funk Ensemble (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	小寺良太
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	1997年よりバンド「メロディオンズ」のメンバーとして活動しながらサポートドラム、ドラムチューナーとしての活動を開始。バンド脱退後も様々なアーティストのサポート、レコーディング、ドラムテックとして活動中。2010年からは後進指導のため、ドラム講師も務める。						
授業の学習 内容	ジャンル別アンサンブル授業の1つとして、FUNK楽曲を課題としたアンサンブルを行う。 課題曲は2週間続きで行い、ダンスブルなFUNK楽曲を演奏することの楽しさを知り、リズムの大切さ、グルーヴ感、音量調整、サウンド作り、バンドコミュニケーション、パフォーマンスを養っていきます。さらには、レパートリーを持つことで、将来現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を理解する場とする。 事前に提示された楽曲資料(音源、譜面、歌詞)を元に予習準備し、授業内ではバンド全体で合わせることを基本とします。 前期終わりには中間発表、年度終わりには卒業制作展での発表につながります。						
到達目標	FUNK及び、FUNKに影響を受けた楽曲を各パートが表現できるようになる。また、リズム感、グルーヴ感、パフォーマンス力を向上し、バンドとして一体感を持って表現するスキルを身につける。さらには、主体性を持ってリハーサルに取り組み、メンバー同士でコミュニケーションを取りながら楽曲全体のクオリティを向上させる意識と行動力を持つことを目標とします。						
評価方法と基準	卒業制作展までの個々の成長度を以下の項目を基準にして採点を行う。 ①出席 50点 ②ミュージシャンスキル 10点 ③パフォーマンス 10点 ④コミュニケーション 10点 ⑤準備 10点 ⑥サウンド 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	課題曲Unit7のアンサンブル。80年代以降のFUNK楽曲を学ぶ。	Unit7の復習。FUNKの名曲を調べる
2		講義・演習	課題曲Unit7のアンサンブル。演奏面での問題点、課題点を修正しパフォーマンスする。	Unit7の予習。FUNKの重要な要素となるリズムを分析する。次回の課題曲の予習をする。
3		講義・演習	課題曲Unit8のアンサンブル。80年代以降のFUNK楽曲を学ぶ。	Unit8の復習。ルーツとなるジャンルを検証する
4		講義・演習	課題曲Unit8のアンサンブル。演奏面での問題点、課題点を修正しパフォーマンスする。	次回卒業制作展の課題曲の予習をする。
5		講義・演習	卒業制作展の楽曲に取り組み、リハーサルを行う	課題曲の練習。授業で気づいた課題点を克服するための練習を繰り返す。
6		講義・演習	卒業制作展の楽曲に取り組み、リハーサルを行う	課題曲の練習。授業で気づいた課題点を克服するための練習を繰り返す。
7		講義・演習	卒業制作展の楽曲に取り組み、リハーサルを行う。パフォーマンスも意識して取り組む。	課題曲の練習。授業で気づいた課題点を克服するための練習を繰り返す。
8		講義・演習	卒業制作展の楽曲に取り組み、リハーサルを行う。パフォーマンスも意識して取り組む。	次回Unit9の課題曲の予習
9		講義・演習	課題曲Unit9のアンサンブル。卒業制作展課題曲とは異なる楽曲に取り組む。	Unit9の復習。FUNKのリズム、グルーヴの大切さを理解するためしっかり練習する。
10		講義・演習	卒業制作展のリハーサルを行う。	卒業制作展データ取り12/19に向けて練習する
11		講義・演習	卒業制作展のリハーサルを行う。	卒業制作展課題曲の練習(演奏、パフォーマンス)
12		講義・演習	卒業制作展のリハーサルを行う。	卒業制作展課題曲の練習(演奏、パフォーマンス)
13		講義・演習	卒業制作展のリハーサルを行う。	発表会での演奏について検証し、問題点を克服するべく練習につなげる。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			課題曲の音源、スコア、歌詞を確認して、授業前に個人練習しておく。FUNK曲を視聴し、分析する。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	R&B Ensemble(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	前田 逸平
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	様々なアーティストのサポート、レコーディング、楽曲アレンジに加え、白井裕紀との作家ユニットYippeeとしても活動中。						
授業の学習 内容	現代の音楽シーンへも多大な影響がある、R&B,Soul,Motownなど主にブラックミュージックを中心に選曲。実際にアンサンブルしながら、演奏スキル、パフォーマンス力、演奏時のコミュニケーションを磨いていきます。2週続きで同じ曲を取り組むことで楽曲や、互いのパートへの理解を深め、演奏をブラッシュアップしていく感覚を養います。						
到達目標	バンド形態での歌唱や演奏力を高める。 ヴォーカル、バンドが一体となってサウンドを作っていく感覚を体感する。 アンサンブルへ向けての準備、練習の大切さを学ぶ。 人前でのパフォーマンスの経験値を上げていく。						
評価方法と基準	個人毎の成長度を元に、以下の項目を基準として採点を行います。 1. 出席 50点 2. 歌唱、演奏スキル 20点 3. パフォーマンス 10点 4. コミュニケーション 10点 5. 準備 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	R&Bアンサンブルについての概要説明。 Unit0課題曲のアンサンブルを実践。	授業で学んだ内容について復習。Unit1楽曲の予習。
2		講義・演習	Unit1:サザンソウルスタイルのアンサンブル	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
3		講義・演習	Unit1:サザンソウルスタイルのアンサンブル	Unit1楽曲について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。Unit2楽曲の予習。
4		講義・演習	Unit2:Motownスタイルのアンサンブル	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
5		講義・演習	Unit2:Motownスタイルのアンサンブル	Unit2楽曲について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。Unit3楽曲の予習。
6		講義・演習	Unit3:デュエットソングのアンサンブル	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
7		講義・演習	Unit3:デュエットソングのアンサンブル	Unit3楽曲について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。Unit4楽曲の予習。
8		講義・演習	Unit4:セッションなどでも定番曲のアンサンブル	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
9		講義・演習	Unit4:セッションなどでも定番曲のアンサンブル	Unit4楽曲について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。Unit5楽曲の予習。
10		講義・演習	Unit5:80'sバラードのアンサンブル	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
11		講義・演習	Unit5:80'sバラードのアンサンブル	Unit5楽曲について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。Unit6楽曲の予習。
12		講義・演習	中間発表に参加し、チームでの制作準備や練習に取り組む。	ミーティング、セット図や歌割り表等の制作資料を作成する。バンドや発表曲の練習をする。
13		講義・演習	中間発表で本番経験を積む。	バンドや発表曲の練習をした上で本番出演できるよう体調管理を含めた自己管理の大切さを学び、本番後の振り返りをして事後の成長につなげる。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	R&B Ensemble (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	前田 逸平
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	様々なアーティストのサポート、レコーディング、楽曲アレンジに加え、白井裕紀との作家ユニットYippeeとしても活動中。						
授業の学習 内容	現代の音楽シーンへも多大な影響がある、R&B,Soul,Motownなど主にブラックミュージックを中心に選曲。実際にアンサンブルしながら、演奏スキル、パフォーマンス力、演奏時のコミュニケーションを磨いていきます。2週続きで同じ曲を取り組むことで楽曲や、互いのパートへの理解を深め、演奏をブラッシュアップしていく感覚を養います。						
到達目標	バンド形態での歌唱や演奏力を高める。 ヴォーカル、バンドが一体となってサウンドを作っていく感覚を体感する。 アンサンブルへ向けての準備、練習の大切さを学ぶ。 人前でのパフォーマンスの経験値を上げていく。						
評価方法と基準	個人毎の成長度を元に、以下の項目を基準として採点を行います。 1. 出席 50点 2. 歌唱、演奏スキル 20点 3. パフォーマンス 10点 4. コミュニケーション 10点 5. 準備 10点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	中間発表に向けてのリハーサル、練習を行う。	ミーティング、セット図や歌割り表等の制作資料を作成する。バンドや発表曲の練習をする。
2		講義・演習	中間発表に参加し、本番経験を積む。	バンドや発表曲の練習をした上で本番出演できるよう、体調管理を含めた自己管理の大切さを学ぶ。本番後の振り返りをして事後の成長につなげる。
3		講義・演習	WeAreの楽曲(1)(フル尺)でのアンサンブルを実践する。	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
4		講義・演習	WeAreの楽曲(1)(フル尺)でのアンサンブルを実践する。	WeAre楽曲(1)について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。次週楽曲の予習。
5		講義・演習	WeAreの楽曲(2)(フル尺)でのアンサンブルを実践する。	授業を経ての個々の課題を明確にして、次週に向けて練習する。
6		講義・演習	WeAreの楽曲(2)(フル尺)でのアンサンブルを実践する。	WeAre楽曲(2)について達成出来たこと、引き続き課題なことを発見する。Vo オーディションに向け準備。
7		講義・演習	WeAre楽曲、ボーカルオーディションを行う。	自分の担当曲以外も歌唱、演奏できるように準備しておく。
8		講義・演習	Motownメドレー、曲サイズ、アレンジの確認。	1曲あたりが短いので、各曲のイメージをよりはっきりと掴んでおく。
9		講義・演習	Motownメドレー、曲間、転換の確認。	メドレー内での転換がスムーズにいくように、音作りや立ち位置、マイクの受け渡しなど明確にしておく。
10		講義・演習	Motownメドレー、振付、衣装などステージングの確認。 Motownメドレー、通しRHを行う。	実際のアーティスト達の映像や写真を見て、動きや立ち姿、衣装の研究をする。
11		講義・演習	Xmasソングのアンサンブルを実践する。 Motownメドレー、通しRHを行う。	実際に通してみでの改善点などを発見し、ブラッシュアップする。次週曲の予習。
12		講義・演習	卒業・進級制作に参加し、チームでの制作準備や練習に取り組む。	Xmasヒットソングのレパートリーを増やす。 Merry Christmas!
13		講義・演習	卒業・進級制作で本番経験を積む。	衣装、転換など含めた最終RH。良いイメージを固めて本番に向けて各々仕上げ&体調管理を徹底する。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble A (3) (Drum Inst Ensemble Style(3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	井口なつみ
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	2018年PARK JAZZ LIVE CONTESTにて最優秀賞受賞。JazzをIan Froman氏、RockをJason Gianni氏、GospelをChris Coleman氏に師事。帰国後、東京を拠点としジャンルを問わないプレイヤーとして活躍している。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		講義・演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		講義・演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		講義・演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		講義・演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		講義・演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		講義・演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		講義・演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		講義・演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		講義・演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		講義・演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		講義・演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践するための解説・練習、ボサノバの基本パターンを解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		講義・演習	2～12週で習った課題曲を復習。実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble A (3) (Guitar Inst Ensemble Style(3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田大志
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、ジャズギタリストとして活動、第32回浅草ジャズコンテスト、ソロプレイヤー部門金賞受賞、2015年 GIBSON JAZZ GUITAR CONTEST 準グランプリを受賞。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。	
2		講義・演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。	
3		講義・演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。	
4		講義・演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
5		講義・演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。	
6		講義・演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。	
7		講義・演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。	
8		講義・演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。	
9		講義・演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。	
10		講義・演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。	
11		講義・演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。	
12		講義・演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践するための解説・練習、ボサノバの基本パターンを解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。	
13		講義・演習	2～12週で習った課題曲を復習。実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Inst Ensemble A (3) (Bass Inst Ensemble Style(3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宮地遼
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ドラマーNATSUMI との共作アルバム、“RNP”を発売し、Evan Marien X Dana Hawkins とのツーマンライブを含む5都市リリースツアーを井上 銘、Isamu McGregor 等と共に行う。世界最高峰のジャズフェスティバル、イタリアで行われたUmbria Jazz Festival 2019に自身のバンド“Ryo Miyachi Quintet”その年唯一の日本人バンドとして出演。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		講義・演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		講義・演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		講義・演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		講義・演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		講義・演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		講義・演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		講義・演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		講義・演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		講義・演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		講義・演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		講義・演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践するための解説・練習、ボサノバの基本パターンを解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		講義・演習	2～12週で習った課題曲を復習。実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble A (3) (Keyboard Inst Ensemble Style (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 隆志
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	声優歌手鈴木健一、小野天輔、伊藤かな恵、入野自由etc等アーティストのライブツアー、ライブアレンジ、またRECに参加。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。	
2		講義・演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。	
3		講義・演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。	
4		講義・演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
5		講義・演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践するための解説・練習。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。	
6		講義・演習	シンコペーションについて、課題曲を通して理解するための解説・練習。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。	
7		講義・演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。	
8		講義・演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。	
9		講義・演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。	
10		講義・演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。	
11		講義・演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践するための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。	
12		講義・演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践するための解説・練習、ボサノバの基本パターンを解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。	
13		講義・演習	2～12週で習った課題曲を復習。実技テスト及び前期内容の復習		1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ		レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ		レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Inst Ensemble A (4) (Guitar Inst Ensemble Style (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田大志
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、ジャズギタリストとして活動、第32回浅草ジャズコンテスト、ソロプレイヤー部門金賞受賞、2015年 GIBSON JAZZ GUITAR CONTEST 準グランプリを受賞。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーブ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーブを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
2		講義・演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
3		講義・演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
4		講義・演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
5		講義・演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
6		講義・演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
7		講義・演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
8		講義・演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
9		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
10		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
11		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
12		講義・演習	2～13週で習った課題曲の復習、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
13		講義・演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Inst Ensemble A (4) (Bass Inst Ensemble Style (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宮地遼
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	ドラマーNATSUMI との共作アルバム、“RNP”を発売し、Evan Marien X Dana Hawkins とのツアーマンライブを含む5都市リリクスツアーを井上 銘、Isamu McGregor 等と共に行う。世界最高峰のジャズフェスティバル、イタリアで行われたUmbria Jazz Festival 2019に自身のバンド“Ryo Miyachi Quintet” その年唯一の日本人バンドとして出演。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
2		講義・演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
3		講義・演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
4		講義・演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
5		講義・演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
6		講義・演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
7		講義・演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
8		講義・演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
9		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
10		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
11		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
12		講義・演習	2～13週で習った課題曲の復習、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
13		講義・演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Inst Ensemble A (4) (Drum Inst Ensemble Style (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	井口なつみ
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	2018年PARK JAZZ LIVE CONTESTにて最優秀賞受賞。JazzをIan Froman氏、RockをJason Gianni氏、GospelをChris Coleman氏に師事。帰国後、東京を拠点としジャンルを問わないプレイヤーとして活躍している。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
2		講義・演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
3		講義・演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
4		講義・演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
5		講義・演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
6		講義・演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
7		講義・演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
8		講義・演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
9		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
10		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
11		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
12		講義・演習	2～13週で習った課題曲の復習、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
13		講義・演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Inst Ensemble A (4) (Keyboard Inst Ensemble Style (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田 隆志
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	声優歌手鈴木健一、小野天輔、伊藤かな恵、入野自由etc等アーティストのライブツアー、ライブアレンジ、またRECに参加。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
2		講義・演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
3		講義・演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
4		講義・演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		講義・演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
6		講義・演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
7		講義・演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
8		講義・演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
9		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
10		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
11		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行うための解説・練習。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
12		講義・演習	2～13週で習った課題曲の復習、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
13		講義・演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble B (3) (Inst Ensemble B (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田大志
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、ジャズギタリストとして活動、第32回浅草ジャズコンテスト、ソロプレイヤー部門金賞受賞、2015年 GIBSON JAZZ GUITAR CONTEST 準グランプリを受賞。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	InstEnsembleについての概要説明。プロミュージシャンに必要なスキル、取り組み方、心得を学ぶ。	テキストを読み返し、授業で学んだことをしっかり理解し、次の授業の準備をしておく。
2		講義・演習	8ビートの楽曲を通してアンサンブルを実践する。	課題曲の音源を聞き、譜面を見ながら練習する。
3		講義・演習	3コード進行8ビートの楽曲を知り、アンサンブルを実践する。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
4		講義・演習	シャッフルビートでのアンサンブルを実践する。	シャッフルビートのアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。
5		講義・演習	ブルース進行を理解し、シャッフルビートでのアンサンブルを実践する。	ブルース曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
6		講義・演習	シンコーペーションについて、課題曲を通して理解する。	授業内容を復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
7		講義・演習	レゲエリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践する。	レゲエ曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
8		講義・演習	6/8拍子のリズムを学ぶ。課題曲のアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
9		講義・演習	マイナーブルース進行を理解し、よりファンキーにアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
10		講義・演習	16小節ブルースロックの課題曲でアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
11		講義・演習	ポピュラーロックの課題曲でアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
12		講義・演習	カントリーテイストのジャンプナンバーでアンサンブルを実践する。 ボサノバの基本パターンをアンサンブルを通して習得する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。次週の楽曲を聞いておく。
13		講義・演習	2～12週で習った課題曲をさらい、前期の総まとめのアンサンブルを実践する。 実技テスト及び前期内容の復習	1～12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble B (4) (Inst Ensemble B (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	宇田大志
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	TSM渋谷卒業後、ジャズギタリストとして活動、第32回浅草ジャズコンテスト、ソロプレイヤー部門金賞受賞、2015年 GIBSON JAZZ GUITAR CONTEST 準グランプリを受賞。						
授業の学習 内容	ヴォーカルなし、楽器パートのみでのアンサンブルを行っていく授業。週毎に変わる課題曲のアナライズをパート別で行い、個々の演奏力、バンドでのグルーヴ感、音量調整、サウンド作り、ジャンルによるリズムの違い、演奏することの楽しさを学び、インスト曲のレパトリーを持つことで将来、現場でセッションする機会があった際に活かせること、楽譜の読み書きや音楽理論を実践を通して理解する場とする。 後期では前期に比べてより現代のマーケットに近いジャンルに取り組む。						
到達目標	個々の演奏力やアンサンブル力のレベル向上、グルーヴを引き出すリズム感の向上、サウンドメイク、音量感を身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
2		講義・演習	FUNKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
3		講義・演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
4		講義・演習	ROCKの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
5		講義・演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
6		講義・演習	R&B/Soulの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
7		講義・演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
8		講義・演習	POPSの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
9		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
10		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
11		講義・演習	JAZZの名曲を課題曲とし、アンサンブルを行う。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
12		講義・演習	2～13週で習った課題曲をさらい、後期の総まとめのアンサンブルを実践する。	課題曲のアンサンブルについて復習し、課題曲の音源を聞き譜面を見ながら反復練習する。	
13		講義・演習	実技テスト及び後期内容の復習	1～14をまとめてレポート作成	
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			担当楽器の様々なジャンルのスタイルについて理解を深め、アンサンブル曲の反復練習をする。		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Freestyle A (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岩崎 浩太郎
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	数々のアーティストのバックダンサーとしてツアーなどのライブ、ミュージックビデオ、イベント、音楽番組に多数出演。インストラクターとしても定評があり全国の高校、大学、専門学校、スタジオ、ジム、その他イベントでダンスレッスンをを行っている。						
授業の学習 内容	●踊るための体作り(ストレッチ、軸作り、ボディコントロール) ●様々な体の使い方や技を学ぶ ●音に合わせて自由に踊る ●コンビネーション(振り)を踊る ●業界やそれぞれの道で何が必要とされるか講義と実技 ●助言や生徒同士の意見から自分を見つめ自分を知る作業						
到達目標	●踊り全般に通用する体を作る ●音楽を聴く事、音楽をきいて自然と体を動かす事に慣れる ●自分の理想通り踊れるようにする(自分が気持ちよく踊ると同時に客観的に見て理想の形に近づくように) ●仕事の出来る人間、人から仕事を与えたいと思われる人間になる。●体全体が1つに繋がった感覚を身につける ●踊りや体型、人間性も含め自分を知る						
評価方法と基準	出席率40%、授業姿勢&取り組み方40%、定期テスト20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介、レベルチェック	自己紹介、レベルチェック
2		講義・演習	基礎的な体の使い方や動作の説明&練習。コンビネーション	確認動画でチェックする。
3		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、場ミリを意識したコンビネーション	確認動画でチェックする。
4		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
5		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
6		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
7		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
8		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
9		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
10		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
11		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールのチェック、コンビネーション	確認動画でチェックする。
12		講義・演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
13		講義・演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Freestyle A (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岩崎 浩太郎
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	数々のアーティストのバックダンサーとしてツアーなどのライブ、ミュージックビデオ、イベント、音楽番組に多数出演。インストラクターとしても定評があり全国の高校、大学、専門学校、スタジオ、ジム、その他イベントでダンスレッスンをを行っている。						
授業の学習 内容	●踊るための体作り(ストレッチ、軸作り、ボディコントロール) ●様々な体の使い方や技を学ぶ ●音に合わせて自由に踊る ●コンビネーション(振り)を踊る ●業界やそれぞれの道で何が必要とされるか講義と実技 ●助言や生徒同士の意見から自分を見つめ自分を知る作業						
到達目標	●踊り全般に通用する体を作る ●音楽を聴く事、音楽をきいて自然と体を動かす事に慣れる ●自分の理想通り踊れるようにする(自分が気持ちよく踊ると同時に客観的に見て理想の形に近づくように) ●仕事の出来る人間、人から仕事を与えたいと思われる人間になる。●体全体が1つに繋がった感覚を身につける ●踊りや体型、人間性も含め自分を知る						
評価方法と基準	出席率40%、授業姿勢&取り組み方40%、定期テスト20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	基礎的な体の使い方や動作の説明&練習。それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
2		講義・演習	基礎的な体の使い方や動作の説明&練習。それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
3		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
4		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
5		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
6		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
7		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
8		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
9		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
10		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールの説明と練習、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
11		講義・演習	基礎リズム&ボディコントロールのチェック、コンビネーション	確認動画でチェックする。
12		講義・演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
13		講義・演習	リズムトレーニング応用、それらを使ったコンビネーション	確認動画でチェックする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ミュージカルに必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIP HOP A (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	木本 雄
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	15歳よりHIPHOPを中心にダンスを始める。他にもLOCK、JAZZを始め様々なダンスを学び海外にも積極的に進出。ダンサーとして様々なアーティストのバックダンサーをするだけでなく、振り付け、演出を行うなど活躍の幅を広げている。						
授業の学習 内容	ダンサーにとって必要な身体作り、street dance 特にPOPPIN DANCEに必要なメソッドの習得、 またソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	Poppinはstreet danceだけではなくjazzやコンテンポラリーにも多く取り入れられているので幅の広いダンステクニックを習得する						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ヒットを学び実践できる	ヒットを学び実践、確認動画でチェックする。
2		講義・演習	ヒットを学び実践できる	ヒットを学び実践確認動画でチェックする。
3		講義・演習	インプロを学び実践できる	インプロを学び実践確認動画でチェックする。
4		講義・演習	ダイムストップを学び実践できる	ダイムストップを学び実践確認動画でチェックする。
5		講義・演習	ダイムストップを学び実践できる	ダイムストップを学び実践確認動画でチェックする。
6		講義・演習	ハンドウェーブを学び実践できる	ハンドウェーブを学び実践確認動画でチェックする。
7		講義・演習	ハンドウェーブを学び実践できる	ハンドウェーブを学び実践確認動画でチェックする。
8		講義・演習	ボディウェーブを学び実践できる	ボディウェーブを学び実践確認動画でチェックする。
9		講義・演習	ボディウェーブを学び実践できる	ボディウェーブを学び実践確認動画でチェックする。
10		講義・演習	アニメーションを学び実践できる	アニメーションを学び実践確認動画でチェックする。
11		講義・演習	インプロを学び実践できる	インプロを学び実践確認動画でチェックする。
12		講義・演習	振付けられた振りとインプロが実践できる	振付けられた振りとインプロが実践確認動画でチェックする。
13		講義・演習	試験と復習	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なダンスのスキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	HIP HOP A (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	木本 雄
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	15歳よりHIPHOPを中心にダンスを始める。他にもLOCK、JAZZを始め様々なダンスを学び海外にも積極的に進出。ダンサーとして様々なアーティストのバックダンサーをするだけでなく、振り付け、演出を行うなど活躍の幅を広げている。						
授業の学習 内容	ダンサーにとって必要な身体作り、street dance 特にPOPPIN DANCEに必要なメソッドの習得、またソロアプローチ方やインプロテクニックを学ぶ						
到達目標	Poppinはstreet danceだけではなくjazzやコンテンポラリーにも多く取り入れられているので幅の広いダンステクニックを習得する						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	キングコブラを学び実践できる	キングコブラを学び実践、確認動画でチェックする。
2		講義・演習	キングコブラを学び実践できる	キングコブラを学び実践、確認動画でチェックする。
3		講義・演習	ティッキングを学び実践できる	ティッキングを学び実践、確認動画でチェックする。
4		講義・演習	ティッキングを学び実践できる	ティッキングを学び実践、確認動画でチェックする。
5		講義・演習	フローティングを学び実践できる	フローティングを学び実践、確認動画でチェックする。
6		講義・演習	フローティングを学び実践できる	フローティングを学び実践、確認動画でチェックする。
7		講義・演習	ブガルーリズムを学び実践できる	ブガルーリズムを学び実践、確認動画でチェックする。
8		講義・演習	ブガルーリズムを学び実践できる	ブガルーリズムを学び実践、確認動画でチェックする。
9		講義・演習	ブガールステップを学び実践できる	ブガールステップを学び実践、確認動画でチェックする。
10		講義・演習	ブガールステップを学び実践できる	ブガールステップを学び実践、確認動画でチェックする。
11		講義・演習	インプロを学び実践できる	インプロを学び実践、確認動画でチェックする。
12		講義・演習	振付けられた振りとインプロが実践できる	振付けられた振りとインプロが実践、確認動画でチェックする。
13		講義・演習	試験と復習	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なダンスのスキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ A (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岩崎 浩太郎
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	数々のアーティストのバックダンサーとしてツアーなどのライブ、ミュージックビデオ、イベント、音楽番組に多数出演。インストラクターとしても定評があり全国の高校、大学、専門学校、スタジオ、ジム、その他イベントでダンスレッスンをを行っている。						
授業の学習 内容	前期で行ったテクニックの練習を引き続き行う。 振りうつしをカウントで行い、振り覚えのスピードを上げる練習後、音楽に合わせて踊る。						
到達目標	基礎練習の積み重ねによって、しっかりとしたダンス能力を身につける。 プロの世界でも通用するような基礎となるダンススキル習得を目指す。						
評価方法と基準	実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	アイソレーションを覚えて実践できる	アイソレーションを覚えて実践、動画でチェックする。
2		講義・演習	身体の使い方を学び理解し実践できる	身体の使い方を学び理解し実践、動画でチェックする。
3		講義・演習	アームスの正しいポジションを学び理解し実践できる	アームスの正しいポジションを学び理解し実践、動画でチェックする。
4		講義・演習	ストレッチのやり方を学び理解し実践できる	ストレッチのやり方を学び理解し実践、動画でチェックする。
5		講義・演習	バレエポジションを学び理解し実践できる	バレエポジションを学び理解し実践、動画でチェックする。
6		講義・演習	身体の軸の作り方を学び理解し実践できる	身体の軸の作り方を学び理解し実践、動画でチェックする。
7		講義・演習	様々なターンを学び理解し実践できる	様々なターンを学び理解し実践、動画でチェックする。
8		講義・演習	ターンを学び理解し実践できる	ターンを学び理解し実践、動画でチェックする。
9		講義・演習	様々なジャンプを学び理解し実践できる	様々なジャンプを学び理解し実践、動画でチェックする。
10		講義・演習	ジャンプを学び理解し実践できる	ジャンプを学び理解し実践、動画でチェックする。
11		講義・演習	ターンとジャンプの組み合わせを学び理解し実践できる クロスフロアを学び理解し実践できる	ターンとジャンプの組み合わせを学び理解し実践、動画でチェックする。 クロスフロアを学び理解し実践、動画でチェックする。
12		講義・演習	ストレッチのやり方を学び理解し実践できる バレエポジションを学び理解し実践できる	ストレッチのやり方を学び理解し実践、動画でチェックする。 バレエポジションを学び理解し実践、動画でチェックする。
13		講義・演習	試験	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ヴォーカリストとして必要なサンススキルを習得するために自習、週4Hの練習と動画チェック	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	JAZZ A (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	岩崎 浩太郎
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴	数々のアーティストのバックダンサーとしてツアーなどのライブ、ミュージックビデオ、イベント、音楽番組に多数出演。インストラクターとしても定評があり全国の高校、大学、専門学校、スタジオ、ジム、その他イベントでダンスレッスンをを行っている。						
授業の学習 内容	前期で行ったテクニックの練習を引き続き行う。 振りうつしをカウントで行い、振り覚えのスピードを上げる練習後、音楽に合わせて踊る。						
到達目標	リズムをしっかりと感じ、個性豊かな創造性を身につける。 プロの世界でも通用するようなダンススキルを習得できることを 目的とする。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	アイソレーションを学び理解し実践できる	アイソレーションを学び理解し実践、動画でチェックする。
2		講義・演習	テクニックを学び理解し実践できる	テクニックを学び理解し実践、動画でチェックする。
3		講義・演習	ターン、ジャンプを学び理解し実践できる	ターン、ジャンプを学び理解し実践、動画でチェックする。
4		講義・演習	振り付けを学び理解し実践できる	振り付けを学び理解し実践、動画でチェックする。
5		講義・演習	振りの中でのテクニックの応用を学び理解し実践できる	振りの中でのテクニックの応用を学び理解し実践、動画でチェックする。
6		講義・演習	振りの中での表現力を学び理解し実践できる	振りの中での表現力を学び理解し実践、動画でチェックする。
7		講義・演習	振り覚えのスピードを学び理解し実践できる	振り覚えのスピードを学び理解し実践、動画でチェックする。
8		講義・演習	振りの中での表情を学び理解し実践できる	振りの中での表情を学び理解し実践、動画でチェックする。
9		講義・演習	より高度な振りを学び理解し実践できる	より高度な振りを学び理解し実践、動画でチェックする。
10		講義・演習	舞台などでの魅せ方を学び理解し実践できる	舞台などでの魅せ方を学び理解し実践、動画でチェックする。
11		講義・演習	テクニックの向上練習を学び理解し実践できる 集中力の作り方を学び理解し実践できる	テクニックの向上練習を学び理解し実践、動画でチェックする。 集中力の作り方を学び理解し実践、動画でチェックする。
12		講義・演習	オーディションでのメンタルを学び理解し実践できる 集中力の作り方を学び理解し実践できる	オーディションでのメンタルを学び理解し実践、動画でチェックする。 集中力の作り方を学び理解し実践、動画でチェックする。
13		講義・演習	試験	振り返り動画でまとめ確認レポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			常に自分が目指すための舞台観劇をする。ネットなどでのオーディション情報をチェックする。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Gospel Ensemble (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	池末 信
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	1991年以降、ゴスペルグループ「THE SOULMATICS」の代表として数々のアーティストのレコーディングやツアーに参加。作編曲家・ボイストレーナーとしても幅広く活動。						
授業の学習 内容	世界を代表するミュージシャンの多くが基盤に置く、ニグロスピリチュアル(黒人霊歌)のコンテンポラリーゴスペル(近代的なゴスペル)を中心に、オーセンティック(本格的)なゴスペルのサウンドを作る為の声、歌、グループ、リズム、パフォーマンス、表現、心その全てからグローバル基準で学ぶ。 また、選択理論、NLP(神経言語プログラミング)、プレイフルラーニング・シンキング、GRIT、メディテーションなどのワークを実践し、学ぶ上での精神衛生を整えること、学ぶ上での環境を全員でデザインすること、仲間を思いやり相乗効果を高める最大のWIN-WINを仲間との関係に産むこと、ワクワクすることなどを学び得る。						
到達目標	「上記学習内容が自分にとってプラスに働く」「上記内容が自分自身を自由にさせる」「この学びの先に本物になれる」それらを体感し信じれること。□						
評価方法と基準	筆記又は実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	説明、NLPワーク、新曲2曲レクチャー	課題曲予習
2		講義・演習	メディテーションワーク、2曲復習、新曲1曲	楽曲復習、学びの振り返り
3		講義・演習	3曲復習、新曲1曲、1曲パフォーマンス	楽曲復習、学びの振り返り
4		講義・演習	楽曲復習、パフォーマンスレクチャー	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習
5		講義・演習	楽曲復習、パフォーマンスレクチャー	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習
6		講義・演習	3曲新曲、選択理論ワーク	楽曲復習、学びの振り返り
7		講義・演習	3曲復習、新曲1曲、クラス内パフォーマンス	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習
8		講義・演習	3曲復習、新曲1曲、クラス内パフォーマンス	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習
9		講義・演習	プレイフルワーク、楽曲復習	楽曲復習、学びの振り返り
10		講義・演習	楽曲復習、新曲レクチャー	楽曲復習、学びの振り返り
11		講義・演習	楽曲復習、新曲レクチャー	楽曲復習、学びの振り返り
12		講義・演習	楽曲復習、ケティワーク	楽曲復習、学びの振り返り
13		講義・演習	新曲レクチャー	楽曲復習、学びの振り返り
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Gospel Ensemble (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	池末 信
学科・専攻	パフォーミングアーツ科 昼間部二	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	1991年以降、ゴスペルグループ「THE SOULMATICS」の代表として数々のアーティストのレコーディングやツアーに参加。作編曲家・ボイストレーナーとしても幅広く活動。						
授業の学習 内容	世界を代表するミュージシャンの多くが基盤に置く、ニグロスピリチュアル(黒人霊歌)のコンテンポラリーゴスペル(近代的なゴスペル)を中心に、オーセンティック(本格的)なゴスペルのサウンドを作る為の声、歌、グループ、リズム、パフォーマンス、表現、心その全てからグローバル基準で学ぶ。 また、選択理論、NLP(神経言語プログラミング)、プレイフルラーニング・シンキング、GRIT、メディテーションなどのワークを実践し、学ぶ上での精神衛生を整えること、学ぶ上での環境を全員でデザインすること、仲間を思いやり相乗効果を高める最大のWIN-WINを仲間との関係に産むこと、ワクワクすることなどを学び得る。						
到達目標	「上記学習内容が自分にとってプラスに働く」「上記内容が自分自身を自由にさせる」「この学びの先に本物になれる」それらを体感し信じれること。						
評価方法と基準	筆記又は実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	選択理論ワーク、新曲3曲レクチャー	前期の振り返り
2		講義・演習	楽曲復習	楽曲復習、学びの振り返り
3		講義・演習	楽曲復習	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習
4		講義・演習	新曲2曲レクチャー、パフォーマンスレクチャー	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習
5		講義・演習	楽曲復習、動き復習	楽曲復習、学びの振り返り
6		講義・演習	ケイティワーク、2曲新曲	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習
7		講義・演習	楽曲復習、動き復習	楽曲復習、学びの振り返り
8		講義・演習	楽曲復習	楽曲復習、学びの振り返り
9		講義・演習	新曲2曲レクチャー、楽曲復習	楽曲復習、学びの振り返り
10		講義・演習	We Are!ハーサル演習	楽曲復習、学びの振り返り
11		講義・演習	We Are!ハーサル演習	楽曲復習、学びの振り返り
12		講義・演習	We Are!ハーサル演習	楽曲復習、学びの振り返り
13		講義・演習	総復習	楽曲復習、学びの振り返り
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				